

第7回

1996. 7. 28～29 岐阜

朝鮮人・中国人の強制連行・強制労働 を考える全国交流集会 《報告集》

－強制から共生へ 歴史の真実を探る－



－強制から共生へ 歴史の真実を探る－

強制連行展覧会 '96

1996. 7. 21～29

主催 第7回 朝鮮人・中国人の強制連行・強制労働を考える
全国交流集会 岐阜実行委員会

第7回

1996. 7. 28～29 岐阜

朝鮮人・中国人の強制連行・強制労働
を考える全国交流集会 《報告集》

— 強制から共生へ 歴史の真実を探る —

強制連行展覧会 '96

1996. 7. 21～29

も く じ

グラビア	1
主催者挨拶	6
来賓挨拶	7
集会日程	8
会場図	9
基調報告 「外務省報告書公開の意味」 田中宏 一橋大学教授	10
特別アピール 沈美子（シム ミジャ）さんの訴え	14
集会アピール	15
緊急アピール 不二越（富山）訴訟裁判について	16
各地からの報告 山形、新潟、大坂、広島	18
第1分科会；旧日本軍による性奴隷問題	26
第2分科会；戦争被害と教育	32
第3分科会；調査保存	36
第4分科会；瑞浪フィールドワーク	40
市民講座；歌でつなぐアジアの心	44
市民フィールドワーク；久々利地下工場跡	50
映画「ナヌムの家」	52
証言「人間狩りーうさぎ狩り作戦」 矢崎新二旧陸軍伍長	54
強制連行展ぎふ'97	58
瑞浪での巡回展	74
中津川での巡回展	76
瑞浪市稲津小学校での実践	78
連行展感想	80
賛同団体一覧	90
会計報告	91



全国交流集会 司会：下郷事務局長・安西実行委員



来賓：パクキョンシユクさん挨拶



基調講演：田中 宏さん



集会アピール：安西実行委員



特別アピール：沈 美子さん



全国交流集会受付



特別アピール：沈 美子さん



分科会①：旧日本軍による性的奴隷問題



分科会②：戦争被害と教育



分科会③：調査保存



歌とトークの集い



交流会：円徳寺集会室



強制連行展ぎふ'96 開場式



T V取材：寺尾光身実行委員長



証言『人間狩り』：矢崎新二（中国帰還者連絡会）



会場証言：長沼節二実行委員（中国帰還者連絡会）



展示会場



実物資料の数々



三重県で虐殺された朝鮮人の墓（レノリカ）



展示会場：アンケートに答える高校生



展示会を支えた実行委員

主催者挨拶

集会実行委員長 寺尾光身

みなさんこんにちは、こういう暑いなかをこんなにたくさん、全国から来ていただいて本当にありがとうございます。私たち実行委員会全員で心から歓迎したいと思います。

戦後50年ということで、日本の戦争責任に対して何らかのけじめを付けたいという思いを皆さんお持ちになっていただろうし、全国いろんな団体で50年を一つの区切りとして決着を付ける正しい解決への糸口を見つけないということで頑張ってきて見えたと思います。しかし、なかなか迫れなかったというのが私の実感なんですよ。

この問題、日本の戦争責任の問題はこれから何年たとうと、なんとかけじめを付けていかなければならない問題だというふうに私は思いますし、皆さんもそう思っておられると思います。

残念ながら日本の政府の対応というのは、アジア女性基金というような「国民基金」というのでお茶を濁そうというひじょうにけしからんことしかできてない、また、そういう政府しかわれわれは持てないといえ、それもまたわれわれの責任なのかなというふうに思います。

よく日本とドイツというのは対比されますが、1985年にワイツゼッカー大統領が、「歴史をはっきり見つめる」「歴史を直視する勇気をわれわれは持たなければならない」ということをわれわれに教えてくれました。またこのまえヘルツォーク現大統領が今年の1月27日、ナチの犠牲者の追悼記念の演説で「私たちには集団責任がある」で「心に刻むことを止めてはならない」ということを言っている。日本のほうは戦争責任をまったく真面目に考えていない、本当に残念だなと思うわけです。

こういうことをやることは、これからの、未来の後から続く若い人たちに対してわれわれはきっちとその責任を取っていくことはやはり必要なことだと思います。

ヘルツォーク大統領の言葉にありますように、やはり過去に日本がどういうことをやって来たかということを正しく未来の若者たちに伝えていくことが必要である。そのために努力をしなければならない。昔あった事実を掘り起こすこともやらなければならない。正しく未来のわれわれの後に続く人々に伝えていくことをやらなければならないと思うのです。

今回、岐阜で交流集会をやるにあたり、この一週間「強制連行展」を展示してまいりました。明日まで展示しておりますので暇を見てちょっと覗いてもらいたいと思います。また「強制連行展」みたいなものを全国で岐阜で作った物を利用してやっていただければありがたいなと思っております。

特に、今回の集会には岐阜では初めてなんですけど沈美子（シン ミチャ）さんに韓国からおいでいただきました。

これから今日、明日と短い期間ですけど、この集まりを実りあるものとして全国への運動につなげることをお願いしまして、この全国交流集会実行委員会一同を代表しまして簡単ではございますが挨拶とさせていただきます。



来 賓 挨 拶

皆さんこんにちは、アンニョンハシムニカ？

私は来賓というよりも、第一回の交流集会から皆勤しておりますが、1990年にこの全国交流集会がはじまって7回目でそのかんいろいろと成果をあげてきたと思います。

中国人・朝鮮人強制連行に関する問題意識が高まったのは、1960年のことで「世界」の5月号に中国人強制連行に関する調査報告書がでた。それがひじょうに大きな反響を、それを契機ににして中国人の犠牲者慰霊実行委員会がその具体的な研究活動をはじめ資料などをだして、私もそこに参加していきました。



朴 慶植氏

朝鮮人もやらなければいけないということで65年に「朝鮮人強制連行の記録」（未来社刊）を出しました。

でも、そのころは中国人、朝鮮人強制連行に対する関心は微々たるものでした。民族団体にしても関心はありませんでした。まったく朝鮮人にかんしては孤軍奮闘の状態でした。それにいやになり運動史などを手がけていました。

やっと、70年代に入り関心が少しずつ高まって来ましたが、80年代もまだまだ低調だったとおもいます。 やっと90年代になってこの全国集会が開かれるようになって全国的に軌道に乗ってきたと思います。しかし、まだたくさん調査されていないところがあると思います。今後みなさんのより活発な調査研究活動をより念願しております。

もう一つ、日本政府行政当局から資料をまだ発表されていない資料がいっぱいです。たとえば、朝鮮人の軍人・軍属・徴用労働者それからさいきにやっと問題になりはじめた性奴隷といわれる「慰安婦」の問題。朝鮮人の軍人軍属にしても死亡者は不明確のままなのです。2万数千人と言っているけど冗談じゃない軍人・軍属合計して36万5千人以上いる中で10万人以上が行方不明になっているんです。それから、日本の強制労働に従事した朝鮮人の死亡者もまったく不明です。

企業も政府もこれに対していっさい責任を負わない、日本人だったらどこまでも調査してどうして死んだのか、とか具体的に調べているのです。朝鮮人だったらやらない、台湾人、中国人だったらやらない。中国から強制連行した中でまだ行方不明者がいるのに、全面的に責任を持って調査していない。このような状況の中で政府に対する資料公開と調査の要求と同時にわれわれ自身をもっと頑張ってやらなければならないと痛切に思っています。

この強制連行の調査は日本の近・現代史を明らかにすると同時に、日本の民主主義、日本の人権を守るものとしてやっていかなければならない。われわれは歴史を創る者として取り組んでいかないと、それでこそ、日本がアジアの一員として多くの民族、国々と友好関係を進めるものと思います。

少し長くなりましたがみなさん頑張って、こんな暑いときですが大きな成果をあげることができるようにお祈りいたします。

第7回 朝鮮人・中国人の強制連行・強制労働 を考える全国交流集会 岐阜大会

7月27日(土)

全体集会

13:00~16:30

岐阜市文化センター 2F 小劇場

基調講演：「外務省報告書公開の意味」田中宏 一橋大学教授

各地からの報告：14:30~16:30

- ①広島県 内海 隆男さん
- ②山形県 佐藤 光康さん
- ③大阪府 塚崎 昌之さん
- ④新潟県 木村 昭雄さん

特別アピール：沈美子(韓国城南市)さん

集会アピール

分科会

18:00~21:00

- | | | |
|-------|-------------------|--------|
| 第1分科会 | 旧日本軍による性奴隷問題 | 4F 和室 |
| 第2分科会 | 戦争被害と教育 | 3F 会議室 |
| ①長野県 | 峯村 勉さん | |
| ②広島県 | 正木 肇夫さん | |
| 第3分科会 | 調査保存 | 4F 茶室 |
| ①奈良県 | 川瀬 俊治さん | |
| ②静岡県 | 竹内 康人さん | |
| ③千葉県 | 黒崎 裕子さん | |
| 第4分科会 | フィールドワーク ; 瑞浪市へ移動 | |

市民講座「歌でつなぐアジアの心」(18:00~20:30) 小劇場

交流会 於：円徳寺

平面図

岐阜市文化センター

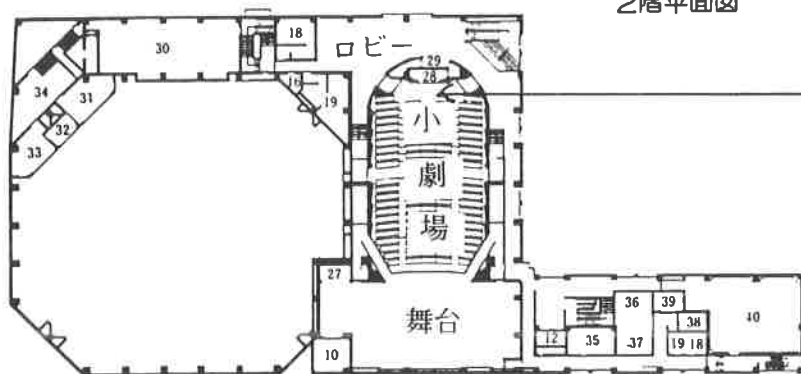
1階平面図



1F

全体会議・市民講座 入口
階段を上って、小劇場へ

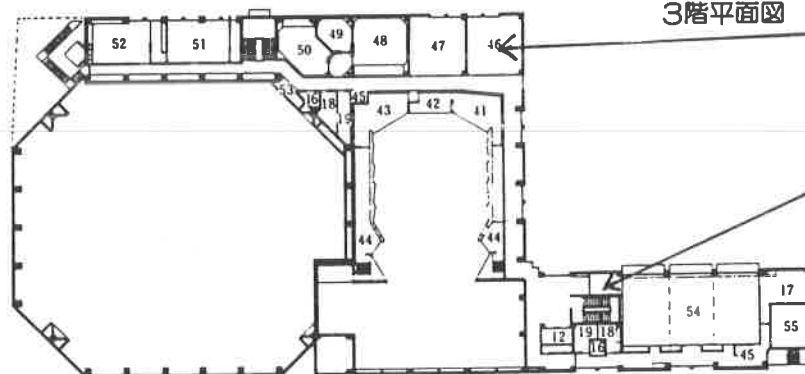
2階平面図



2F

13:00~ 全体会
18:00~ 市民講座

3階平面図

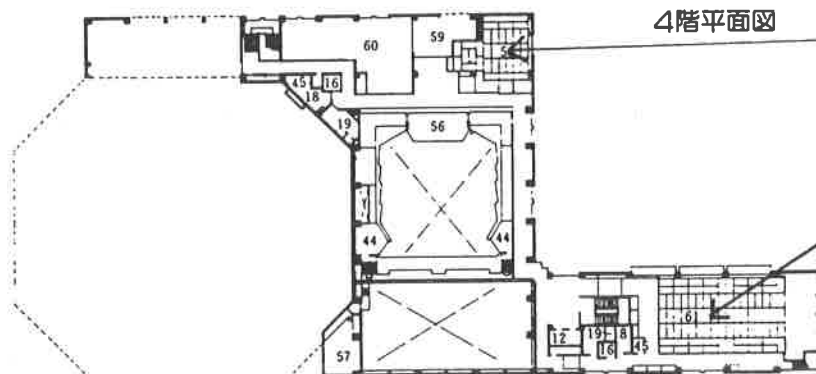


3F

18:00~ 第2分科会
3F会議室

7/22~28 強制連行展
3F展示室

4階平面図



4F

18:00~ 第3分科会
4F茶室

18:00~ 第1分科会
4F和室

「外務省報告書」

講師 一橋大学教授
田中 宏 氏



「外務省報告書」が公開されたことの意味をお話します。

「外務省報告書」の概要

全5分冊、総計で676ページ。ガリ版ずりの非常に痛んだものです。長い間、一般の人には見られない状態になっていました。「調査報告書」と通常言われるのは、本体の部分だけです。その他に、135の事業所から提出された「華人労務者就労顛末報告」があります。これは膨大なもので、段ボール10箱ぐらいあります。

「鹿島各務原」というのは、鹿島組が持っていた各務原の現場のことです。岐阜県というのは、強制連行がけっこう多い所でした。

「就労顛末」には、相当、詳細なものが含まれています。例えば、亡くなった人については、死亡診断書を用意しなければいけないと、外務省から指示されています。残された資料は、事業所について、あらゆるものが全部そろっているというわけにはいかないようです。

また、この死亡診断書というのが、どれくらい信憑性があるのかというのも問題になっています。おそらく、中国側の代表団が来たときに、“この事業所では何人亡くなっている。それは、こういう病気で”と説明するためのものです。



「外務省報告書」からわかること

「外務省報告書」から、当時、どういう分野、業種に中国人が投入されていたかがわかります。今日、外国人労働者の「3K労働」というのがありますが、当時の「3K労働」であったことがわかります。

分布は全国にわたっていて、北海道と九州がとりわけ多かったようです。どちらも、たくさんの炭鉱を持った地域です。それから、岐阜にたくさんありました。中部地区には「地下工場」です。名古屋は重要な軍事工場の集中地域であったので、戦争末期の空襲を避けるために、だいたい岐阜の山中に移しました。さらに、ダムの建設で、中部地区が目立ちます。

「外務省報告書」によると、亡くなった人が6,830人。連れてこられた人は、51,176人となっています。これは、のべ人数です。事業所を移とすることがあるからです。

例えば、名古屋の大府の飛行場建設に連れてこられた人たちがいます。これは、北海道のトムカという所からでした。水銀鉱山で働かされていた中国人が、その仕事が一段落して、新しく大府に連れてこられたのです。そうすると、トムカでも数えられますし、大府でも数えられるので、のべ人員となります。

実数はだいたい4万弱。亡くなった人の氏名も、ほぼ全貌がわかりました。

「外務省報告書」の意義

強制連行の調査をされて気づくと思いますが、中国人の慰霊碑があちこちにあります。そこで亡くなった人の名前が、刻んであることが多いです。どうしてそうなるかという、実は「外務省報告書」が大きな役割を果たしています。

有名な「花岡事件」の秋田県、今の館市にも「中国人殉難者慰霊碑」が建てられていて、毎年市主催の慰霊祭が行われます。「強制連行を考える会」では、生存者や家族をお迎えして、慰霊祭に参加していただくことをやっています。今年も6月30日に、2人の生存者と2人の遺族をお迎えしました。その慰霊碑の裏側には、花岡で亡くなられた418名の名前が全部刻まれています。お招きした遺族の方は、碑に刻まれている自分の父親の名前を発見し、号泣されるのです。

しかし、おそらく同じように亡くなられた朝鮮人の方は名前があって、その遺族の人がその場面に出くわすということはほとんどないです。それは、そういう資料が残されていない、あるいは、残っているかもしれないけれど、明らかにされていないからです。そういう点で、非常に大きな違いがあります。

強制連行の前史

強制連行は侵略戦争と不可分でした。中国人の強制連行は、1942年11月の閣議決定で行われました。42年というと、本当に戦争末期です。そうすると、「外務省報告書」もそうでしたが、何か終わり頃にちょこっとあった出来事というイメージで読んでしまいます。ところがそれが非常に違った読み方で、そういう理解は許されないと思います。

中国人の強制連行・強制労働は、15年戦争以前に、中国東北地区の満鉄を初めとする日系企業で行われ、指紋押捺も行われていました。

1987年に、中国の東北地区を、指紋調査団と称して調査をしたことがありました。それは、旧満州で労働者から指紋をとっていたと文献に出ているからです。今日の外国人登録法の指紋の源をたぐっていこうと、中国東北地区をいくつか回って行ったんです。

そこでわかってきたことは、どうも一番最初に指紋を中国人の労働者からとったのが、1924年でした。満州事変よりはるか前です。撫順炭鉱の労働者でした。

侵略とともに

1905年の日露戦争で、日本は満州の利権を獲得します。その重要な利権の中心的なものが満州鉄道です。南満州鉄道株式会社という国策会社を作りました。満鉄周辺の関連の土地というのは、事実上、全部日本が占拠していました。

東インド会社というのがありまして、会社というと本当の会社かと思われがちですが、イギリスのインド経営の植民地会社です。ほぼそれと似たようなことを、満鉄でもやっているんです。

満鉄の傘下に撫順炭鉱があった。ところが、満州というのは人口が少ない所で、大規模な開発をやろうと思うと労働力が足りない。そこで、中国の華北や山東が近いので、そこからどんどん労働



力を調達しました。その時に、まさに強制連行を
やっているんです。貨車に乗せられて、後ろ手に
縛られて、指紋をとられて。

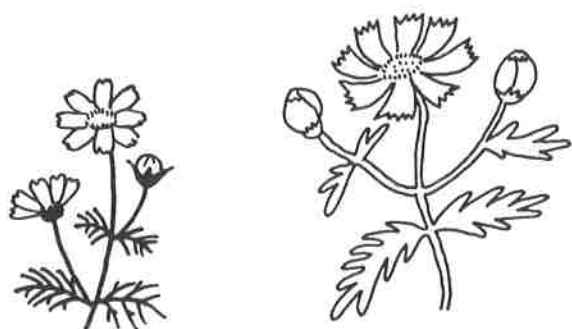
戦前の強制連行—指紋捺印

満鉄関係の資料なんかを見ていくと、例えば、
仕事が辛いので逃げる人がいるんです。どこかで
とっつかまえる。「いやいや、私は炭鉱から逃げ
たではありません」と言うわけです。ところが、
強制連行したときに指紋をとってある。指紋照合
すると分かるわけです。今度は、見せしめに拷問
をかける。「逃げたらこういう目にあうよ」と。

後は、抗日運動。21年に中国共産党ができて、
地下工作を始めます。労働争議などが起きてくる
中で、労働組合を積極的に進めている連中の首を
切る。その人は名前を変えて別の現場に戻ってく
るが、指紋で照合すると一発で分かる。

採用のときに、指紋で不合格になった人がどれ
くらいいるかという統計もあります。1割ぐらい
は指紋ではねられていました。

指紋を通じて、いわゆる旧満州地区に、華北や
山東から中国人をたくさん連れていっていたとい
う前史が見つかりました。出先の企業は日系企業
です。鹿島は満州鹿島という会社を持っていまし
た。1942年11月の閣議決定から中国人強制
連行を始めましたというのが「外務省報告書」の
筋書きですが、これは、そういう読み方をしては
いけないのです。



強制連行地—満州と日本へ

「石門臨時捕虜収容所の出所後の行き先」とい
うのは、日本側の資料です。当時のものが残って
いました。1941年の8月から43年11月と
いうと、例の中国人強制連行の閣議決定の真ん中
にはまるわけです。「石門」というのは華北省の
省都の石家荘です。日本軍が捕虜収容所を建てて、
かなり規模が大きかった。

41年から43年、だいたい2年ちょっとの間
に1万6千人がそこから出所していました。石門
の捕虜収容所からの送り先は、半分以上は満州で
す。イケイホウジョウ炭鉱というのは、華北省に
ある炭鉱で、もちろん日本が経営していました。

それから、対日供出564人。これが日本に連
れてこられたものです。閣議決定で試験移入とい
う時期があって、端著的なものが日本に來始めた
頃ですから、石門から來た人は3.6%ぐらいで
した。

強制連行の中心地—中国国内

大部分は中国の国内、東北ないし華北省とい
うのはまさにその場所です。石家荘でシンポジウ
ムがあった時に、イケイ炭鉱へ行ってみました。
今でも掘っていました。

そこに、「ドイツ・日本時代に犠牲になった勞
働者の万人坑」というのがありました。どうして
「ドイツ・日本」と書いてあるかというと、第1
次世界大戦の時に、日本はドイツに宣戦布告して
山東省のドイツ軍と戦います。あの辺にあったド
イツの利権を全部手に入れるんです。だから、か
つてはドイツが経営していた炭鉱を、日本が戦争
が終わるまで動かしていました。ああいった記述
の「万人坑」を見たのは初めてでした。

もう一つ気をつけてもらいたいのは、死亡です。
出所というようになっていますけれど、要するに
死者が2千人いるんです。全体の中で12.6%。
捕虜収容所がどれ程ひどい所であったか。これは

全部、日本側の捕虜収容所を紹介する「概要」といったものの中に出ています。

そういうことで、非常に長い背景があり、過去に逆上ってきちっと見ていかないといけない。長い中国との間の侵略戦争、とりあえず15年戦争です。けれど、指紋のことから考えますと、だいたい日露戦争からです。満鉄をとって、満州を作って、中国の東北地区に橋頭堡を築くということから始まるわけですから、そういうような中で、ものを見る必要があるのではないのでしょうか。



資料の活用—規模の把握

日本建設工業会の「華鮮労務対策委員会活動記録」という、貴重な資料が復刻されています。これは、極秘というハンコが押してあります。この「華鮮」というのは中国人と朝鮮人。鉱山とか土建業とかいくつかありましたが、その中の土建業の部分は、たまたま資料が残っていました。土建業はかなりのシェアを占めていました。

これは、中国人や朝鮮人を使ったために企業が損をした、国に補償を求めるということで、戦後作られました。この「活動記録」を読んでいくと、4,595万円を獲得していました。これは、土建業の部分だけです。

それから、例の「外務省報告書」、これは中国人だけですが、企業がどれくらいもらっているか。

今日の企業名もあり、鹿島建設もちゃんともらっている。中国人には払っていないわけです。こういうことが浮かび上がってくる。

この国家補償金の給付から逆に計算すると、中国人や朝鮮人の強制連行・強制労働を数量的に把握することは、理論的には可能ではないかと思えます。土建に関しては、「華鮮労務対策委員会」という中国人と朝鮮人にまたがったものがあります。そして、中国人についてだけは、135の事業所がどれくらい国から補助金をもらったかというのが「外務省報告書」の中にちゃんと出てきました。ここらあたりを手がかりにして、企業の補償責任を考えていくときに、「外務省報告書」というのをいろんなかたちで活用していくことができるのではないのでしょうか。

資料の活用—追跡調査

もう一つ、細かい「就労顛末書」のことで、死亡診断書が偽造されているということを書きました。広島でいろいろ調べられている市民運動があります。

あるお医者さんが死亡診断書を書いているんです。ところが、調べてみたら、そのお医者さんは、死亡診断書を書いていた日付の時は中国戦線に行っていた。いないんです、日本には。その人が死亡診断書を書いたことになっているんです。だから偽造だと。それは、その方の奥さんが知っているわけです。「いや、この日付の時は日本はいません。うちの夫は」と。

だから、死亡診断書というのも中国向けのために、要するに戦後になって、にわかづくりで、何かつじつま合わせのために作ったということも浮かび上がってきています。中国人強制連行の「外務省報告書」というのは、全体の問題を考える時の、いろんな手がかりになるということです。

特別アピール

韓国 沈 美子ハルモニ
通訳 金 蓬洙氏

私を呼んでもらいまことにありがとうございます。

私の話したいことの多くは、皆さんがお持ちの資料の中に綴じられており、皆さんがお持ちだと思いますので、私はこの間言われている「女性のためのアジア平和基金」（以下国民基金）の問題について要点だけ話したいと思います。

日本政府は今国民基金を集めて元「従軍慰安婦」の人たちに対して慰労金を払うという話が出ています。

そもそも国民基金によって問題の解決をはかろうとするのは日本政府が「従軍慰安婦」を強制連行した事実はないというふうに日本政府が言い張った結果こういう事が言われているものと私は認識しています。

そもそも、国民基金という名目で日本政府が私たちに慰労金を支払おうとするのは、私たちの肉体の代償という名目で金を払うことがためらわれるがために、そのような名目で私たちに払おうとしています。したがって、私たちは、そのような肉体の代償というべきお金は受け取るわけにはまいりません。

日本の皆様方が、仮にこれを逆の立場になって考えられたとき、韓国政府がこのような行動を取ったとき、皆さんはそのことをどう捉えるのでしょうか？私たちは日本の侵略戦争の中で性奴隷として引き廻された。その罪科を償ってもらわなければなりません。したがって、私たちは国際法に照らしても当然しかるべきかたちで罪科を償って欲しいのです。

日本政府は、私たち元「従軍慰安婦」のハルモ

ニたちが、ひじょうに困難な生活状況にあるのを知った上で、わずかな国民基金を投げ与えやれば「ああ！お父さま」といって喜んでこれを受け取るだろうというそういう下心のもとにこういうことを始めただろうと思いますが、私たちはそのような肉体の代償は一切受け取れません。私たちは日本の罪科を国際法に照らして正当なる権利としての補償を要求するものです。

くどくど申し上げて申し訳ありませんが皆さんが良心にしたがって、私たち世界の女性の人権と名誉を守るために引き続き努力してくださることを願ってやみません。そして、今後ともそのように行動してくださるようお願いしたいと思います。

日本の国民基金を推し進めようとする日本政府および保守勢力にたいして、ここに集まってみえる良心的な多くの日本の方々が今度も私たちの運動を支えてくださるよう、また、日本のマスコミ各社の方々も私たちの主張を大いに取り上げてくださるようお願いしたいと思います。

良心的な皆さんが、日本政府および日本政府に群がる保守勢力にたいして今後とも私たちが、くじけることのないように大いに協力くださることをお願いします。

私が知っているところでは8月15日をもって韓国、フィリピン、台湾の元「従軍慰安婦」たちに対して一人当たり200万円の国民基金の一時金が支払われるものと承知しています。でも、私はそのことに対してひじょうに怒りを覚えます。

日本政府の一人当たり200万円という国民基金でもってこの問題を終息させようとするなら、私は今後とも全世界を駆け巡ってでも日本のその真相を暴露して歩く覚悟です。

また、夜にも発言の場が与えられておりますので時間の関係でこれで終わらせてもらいます。

カムサハムニダ

集会アピール

私たちは戦後50年が過ぎ行き51年になろうとしている今日、岐阜の地に集まり「第7回朝鮮人・中国人 強制連行・強制労働を考える全国交流集会」を開催しました。岐阜県下には、明世、久々利など日本でも有数の地下工場跡があります。しかし、岐阜県での強制連行の調査や戦後補償を求める運動はあまり進んではいませんでした。

また、行政の反応は冷たいもので行政の資料はほとんど出てきません。1971年の岐阜県中国人殉難慰霊事業のときとは隔世の感があります。

今年は全国交流集会を機に岐阜独自の市民のための企画として「強制連行展ぎふ'96」を行いました。この展示会をつうじて岐阜県の中に強制連行とは？強制労働とは？「慰安婦」問題とは？という問いかけに少しは答えられたと思います。この「強制連行展ぎふ'96」に集められたエネルギーと全国交流集会の研究の成果や運動の報告を糧に「岐阜県地下壕研究会」を発足させたいと思っています。

しかし、この展示会の始まる三日前（7月19日）「女性のためのアジア平和国民基金」の理事会は韓国・台湾・フィリピンの三カ国の約300人に対して一人当たり200万円の支払いと橋本首相の「おわびの手紙」を添えて送ることを8月から始めることと決めました。

国連人権委員会のクマラスワミ報告書をまったく無視したこのような暴挙に対して私たちとして「NO!」の声を上げていかなければならないと思います。板垣、奥野両議員の暴言とともに許すことのできないものです。

日本政府が個人補償を認めない上での「国民基金」というものは認めることのできないものです。ある元「慰安婦」のハルモニが『「国民基金」はもう一度私たちを殺すものです』と言っているのが耳を離れません。

すくなくとも、彼女たちが堂々と受け取ることのできる個人補償の実現を求めて今後も闘っていきたいと思います。

また、展示会の期間中（7月24日）には富山地裁での戦後補償裁判の判決がありました。「指を奪ったうえに賃金すら払わないのか」という崔福年さんたちの訴えに、日本の裁判所は強制労働や賃金の不払いを認めながら時効を理由に請求を却下しました。

国や企業の不法行為を認めながら救済を拒否された判決が、石成基さん、陳石一さんの判決くらい戦後補償関係の判決で続いています。

「日本の闇はなお深い」という支援の人たちの気持ちと、私たちの気持ちは共通のものであらうと思います。不法行為を認めながら救済しようとしないう司法。司法に次々と不法行為を指摘されながらなにもしようとしないう立法。外国人を差別し続ける行政。そして賠償しようとしないう企業。まさに「この国は闇」としか言いようがありません。

「強制から共生へ・・・」私たちは今までの歴史のあやまちを繰り返すことのないように、朝鮮人、中国人、そしてアジアの人々、共に生きる者として歴史を共有していきたいと思ひます。

1996年7月27日

第7回 朝鮮人・中国人 強制連行・強制労働を考える全国交流集会 参加者一同

ー緊急アピールー

不二越訴訟 澤田純三さん（富山）

只今紹介を頂きました富山の沢田です。私は、この間の全国集会を通して得られた知識が、今回の不二越訴訟裁判を進めて行く上で、大変プラスになりました。更に今後の交流をお願いするとともに、この場をかりてお礼を申し述べたいと思います。

89年に兵庫朝鮮関係研究会（兵朝研）の皆さんが富山における、強制連行の問題、私の町にですね先程の話の中にも在ったんですが、名古屋の三菱が、44年12月7日の東南海地震に引き続いての、B29のあのはんこうの中でするようになりました。

その中で第11航空機製作所が富山県へ疎開し、当時の紡績工場とか、金沢の名鉄丸越デパートを飛行機の部品工にするための準備を45年の1月1日に発足させました。

そして、それだけでは不安なため一の谷という小高い山に、トンネルを横坑20本、縦坑3本の軍事工場を計画していたんです。

こういう事が、たまたま米国の戦略爆撃機調査団の報告の中に、書かれているという事を、兵朝研の皆さんたちが、調べられまして、そこを調べてくれと言うことで、その話があったのが89年でした。

それから、私自身が、歴史、近代史、に興味があったもんですから、そういう面でいろいろ出ていたんです。富山県は電力発電県なんですね。

日本でも有数な電源の開発県でして、1920年代から朝鮮の方々が、一番危険な仕事をやって来られたという経過がありました。

そういう状況のもとに1944年から45年にかけて、地下工場が作られ、三菱名古屋の方々が富山へ疎開して来られるというお付き合いの中で富山県と朝鮮との関わりあたりを、ズーと調べて

きますと1945年の敗戦当時、富山においては2万5000人の、朝鮮の方がおいでになったという事は、当時の警察史に書いてあります。

その中にもまた朝鮮からの女子挺身隊、2800名の方がおいでになったという事も書かれてあった訳ですが、たまたま、不二越の会社の社史にも、日本の大企業の会社の中のでは比較的珍しい訳ですが、朝鮮からの、女子挺身隊、男子報国隊の存在を書いておりました。

そういう事などが在った中でですね、あの全国交流集会の中で皆さん達からいろいろ教えて頂きながら、その物を調べて行った訳でございますけども90年にですね、不二越の社史に書かれていることと、私どもが、兵朝研の皆さんと確認したことが、富山のマスコミに乗ったりしてきた経過がありました。

そういう中でたまたま、富山県において、真相調査団をつくることになりました。

あの韓国の江原道の方におきまして、勤労挺身隊の問題に積極的に取り組んでおられて、御自身も日本国家を相手にして戦後補償を要求出しておられる方が、私どもの調査団の会合に、ご参加いただきました。そして、不二越を相手に訴訟を起こしたいという問題を提起されたのは91年だったと思います。

それから92年当時、不二越の場合、朝鮮に工場を建設予定していたわけです。

ですから43年、44年にかけて、朝鮮半島から大変沢山の人を、募集して連れてきてこのかたちになりました。

当時、不二越という会社は日本海側最大の軍需工場になっていった経過がございます。そういうかたちの中で、訴訟をやっていただきたい、一人でもやりたいという意気込みに押されまして富山におきまして不二越訴訟を支えていこうというかたちになりました。

4年間かかりましたが、この間の24日、企業を相手にした裁判の中で全国で始めての判決が出されたわけです。



その中で、不二越の会社の場合は、社史に女子1089名、男子530名の方が、働きに来てるとい事は書いておりますが誰それは来ている事は、特定できないという事だったんです。けども、たまたま全国の仲間の皆さん達の交流の中から、厚生年金制度は、女子の方の場合は1910年から、取り入れられてあるという事を勉強させて頂きました。

不二越は始め、知らぬ、存ぜぬでやっていたのですけども厚生年金制度があることを確認するために、朝鮮半島へ渡り、原告の皆さん達から委任状を預かりまして、日本の社会保健事務所へ、三人の皆さん達の確認を求めたところが私どもの思っているその物ズバリと出てきました。

これまでは知らぬ、存ぜぬだったんですが日本の公的機関が、厚生年金を、女の方の場合は19年の10月1日から、20年の8月31日まで厚生年金掛けていました。

イ・デュンシクさん、コー・ソクアンさん、チェ・ポクソンさんそれぞれの名前を出して来ました。

そういう事を今回の裁判の中で訴えていたのですが、それぞれを全部裁判官は認定してくれたんです。がたまたま、時効の壁がございまして、時効の成立に付きましては、国会におきまして平成

3年8月21日に、清水澄子さんが国会の中で外務省のほうから、個人の財産権はあるということは確認してくれたのですが、国の弁護士は不二越の場合は、既に、何十年も経っていて時効だから話にならないという言い方してきたのですが、平成3年の8月21日から時効が成立するのだという様な話の中で、時効を訴えて出たのは4年の9月30日だったもんですから、1年余り足りないもんだから時効ですね、請求権は消失しとるんだという判決になりました。

そういうことは、日本の新聞が一斉に取り上げてくれた訳ですが、私どもも今日ここに来るためにですね、判決の24日、裁判がございまして、25日の日、弁護士さんを通じまして判決の原本を入手しました。

そして、ここへ来るために、若い皆さんが、精力的に判決のコピーをしてくれましたので皆さんに、おあげしたいと思います。また見て頂きたいと思います。

不二越訴訟裁判は企業を相手にした裁判の中で一番始めの裁判である訳ですけども、原告の、請求権は却下された訳ですが主張している事7、8割り方、裁判官が認めた判決になっております。

私どもは、裁判は一応却下されたされたわけですから、高裁の方へまた上告することになるわけですが、あくまで日本の良心が問われる裁判でもあり、日本の良心、良識を世界へ訴えていきたいと思っております。

それから富山においては、真相調査団が、いろんな事を事実解明していますが去年9月、県議会において、事実解明を記録するようにしてから県の方から100万円の調査費を支結しました。

昨日も、原告の皆さん達が県の方へ行きまして不二越の裁判の記録を県の記録に残す様に申し入れをしてられました。

今後とも闘いを進めて行きたいと思っておりますので全国の仲間の皆さん達の大きなお力添いを賜りたいと思っております。

生きていて良かった・・

山形 ハングル学習会 佐藤光康さん

山形から来た佐藤といいます。ハングル学習会という山形大学の韓国人留学生からハングルを学びながら日韓の真の友好をつくっています。

ここは岐阜ですけど、山形で焼肉屋さんをやっている韓国の方がいまして、強制連行で日本へ連れてこられて山形へ来た。岐阜へは15才の少年のときに韓国から連れてこられた。岐阜の発電所で厳しい労働をさせられて、耐え切れずに逃げた。そして、転々として山形へ来て、奥さんが日本人ということもあり戦後も残り、焼肉屋さんを営んでいらしゃいます。ここは岐阜だということで、ちょっと感じています。

高校生のアジア観

私は高校の非常勤講師をやっていますが、今の若い人たちの中にはアジア・韓国・中国に対して差別感ないしは蔑視感が広がっているなど感じています。たとえば、前私が勤めていた学校では韓国に姉妹校があったんですけど、そこでは毎年修学旅行でホームステイをする「お前たち来年韓国へ行けるんだぞ」といいますと「先生、カップラーメン持っていったいいですか?」とか「先生、シャワー浴びれるの?」とか、これがスーと返ってくる。感想文集を見ても「韓国は貧しいと思ったけれど・・・」と続くものが圧倒的に多い。

ところが、私が最初に送り出した高校生は「どうだった韓国は」と聞くと「先生だめだ」「下痢をした」「韓国は汚い」「もういやだ。二度と行きたくない」そういう声が圧倒的に多かった。私も初めてその高校いったときでしたので「一体なんだろう」と韓国と日本で姉妹校になっているのだけれども、そこには共通の土台がない。やはり

歴史を教えなければ駄目だ。まったく何も知らないで韓国へ行ってホームステイしたら、とんでもないと私は思いはじめました。学校全体ではそういう取り組みはほとんどなかった。それで、山形で強制連行の調査をいろいろ勉強してはじめてのですが、県内の強制連行に関してはひじょうに判っていないものでした。

山形の強制連行

たまたま、近くに永松鉦山という鉦山があり、朝鮮人が来ていたという話が聞こえてきた。そこでは朝鮮人が「暴動」を起こしたという話が出てきた。何で「暴動」を起こしたのか?

今まで山形での調査では佐久間先生が中心になってやっておられ、日本人側の証言で賃金問題で「暴動」を起こしたらしいという話しが判っていた。

今は韓国の人から直接聞けるので、朝鮮人の側から見れば一体どんなふうに見えるのだろうか?と、その手がかりを探しはじめた。ところが、永松鉦山は古河鉦業の経営で、職員名簿とかそういう物は何にもない。むかし働いていた朝鮮人の住所とか名前がまったく何もない。それで、困っていたところ山形地方裁判所の裁判の判決が出ているのだと分かってきたのです。そこで、裁判の判決文があればその住所と名前を尋ねていけば、もしかして本人がいらっしゃるかも知れないということになった。判決文を探しに駆けずりまわりました。山形検察庁に行き、50年以上前の話したと「もう無い」と言われあきらめかけていたとき、ひょんな所から判決文がでてきた。ここには5名の被告と住所が出ているのです。5名は創氏改名により日本名に変えさせられている。

これしか名前が分からないので、まず手紙を送るしかないんじゃないかと手紙をだしたのです。

書き方もよく分からなくて、留学生から聞いて「ぜひ真実を知りたい」「ぜひ高校生に教えたい」ということで手紙を書きました。ハングル学習会の留学生にハングルで書いてもらい出したわけで

す。2通が不明で戻って来たんです。ところが戻ってこないのが3通ありました。日本名で豊原さん、平山さん、平田さん、この3名が戻ってこなかった。よく住所を見ますと3人とも慶尚北道栄州郡でした。

韓国を知る旅

たまたま、ハングル学習会で韓国へ行こうという話をしているときで「よし！ここへ行こうじゃないか」ということになった。ところが50年以上前の話で創氏改名で名前も違って住所も同じか分からない、私も無理かなと思ってましたが「せいかくの機会だから行こう」とみんなを説得して心配しながらいきました。

もう一度手紙をだし、栄州市役所のほうにも協力依頼の手紙を出し、94年3月末に向こうへ行きました。市役所へまっすぐ行き、中へ入りましたら「佐藤先生ですか、どうぞ二階に上がってください」と言われ、そこで一人のアボヂ（おじいさん）と会うことができました。その人が平山聖達さん、本当の名前が申聖達（シン・ソングル）さんという方で、やっと会うことができました。豊原さんは最近亡くなられたそうで、平田さんは朝鮮戦争で亡くなられたという話でした。

申さんという方は、今生きている日本人の労務係とか鉾山関係者に言わせてもひじょうに人品のあるすばらしい人だったということで、その申さんが生きていた。

そこで、詳しい話を聞きました。その話は想像以上に過酷な厳しいものでした。申さんも脱走を企てたけれど、前日脱走しけがをした同僚を助けて民家に預け、もう一度逃げ出したりして捕まったそうです。

「暴動」は賃金問題で「文句を言うなら朝鮮へ帰れ」と言われ「だったら帰らしてもらいます」と言い「今までの賃金をくれと」押し問答になりただ、朝鮮人だけが捕まってしまった事件だった。

その年にもう一度申さんに会いに行こうとしましたが急に会いに行ってもだめなので「手記のよ

うなものを書いてもらいたい」と手紙を書きました。しかし、準備をしているとき「申さんはもう亡くなりました」と連絡が入りました。お会いしたのが94年の3月、申さんは5月5日にはもう亡くなられていたのです。

永松鉾山に関して、韓国人の側から見た証言はなくなってしまったと思っていたら、申さんの息子さんから手紙が届きました。便箋13枚にわたって申さんの山形での体験を書き記してくれたのです。

それは、4月半ばに息子さんが糖尿病でお父さんがあまり長くはないだろうということで話しをテープレコーダーに吹き込んでテープ起こして亡くなられて半年後に送ってくれたのでした。

申さんからの手紙

申さんとお会いしてから何かまとめなければと思い手記とあわせて本をだしました。（「韓国を知る旅」かもがわ出版）その手記の最後はこういう文で終わっています。

「生きててよかったと思った。彼らのおかげで葬り去られようとした私たちの口惜しさと悔恨の歳月を世の中に知らせることができたのである。自分たちの正当性を認めてもらったわけである。世の中のすべての人たちと私の子孫にこのような遺憾な歴史があったということを知らせたいと思い、私の話しを息子に録音させ私の述録を書き残すことにした」と結ばれていました。

私たちも山形で今生きている韓国の人たちの思いを日本人とどう重ねあわせることができるのか取り組んで来ました。市民に強制連行の実態を知ってもらうため「エイジアブルー」の上映とか新井英一のコンサートを高校生を中心にやり、その収益金で申さんの息子さんたちを招待して「日韓歴史交流集会」を開催しました。今度は「渡り川」を上映しようと頑張っています。

そうやって一つ一つ歴史を掘り起こしながら多くの市民に知ってもらいながら山形の地でがんばっていきたいと思っています。

新潟の強制連行

新潟県と731部隊足跡調査委員会

木村昭雄さん

731部隊と強制連行

こんにちは、新潟より来ました木村と申します。

軍医学校の防疫研究施設が空襲で地方へ疎開します、新潟に移転して来て、陸軍軍医学校新潟出張所と名前を変えます。1994年の4月のことで、敗戦になりまして町側のところへ、人員と施設が引き継がれる、その3代目の所長に緑十字の創業者の内藤良一がいました。信濃川の中州に17棟の建物を立てて、そこで細菌兵器の生産をしようとしたんです。そのことは調べている過程でこの戦争責任とか、戦争犯罪という問題を考えているときに、今この主題に関わっております中国人とか朝鮮人の強制連行、そういうのも当然視野に入れてやっていこうという議論で、第2次の調査の段階として、強制連行のことを調べているところなんです。

ちょっと皆さんと違うのは、捕虜収容所のこともやっていることなんです。新潟の場合東京に捕虜収容所の本所というのがありまして、その下に16の分所がありました。そのうち7つが新潟県にありまして収容されていた捕虜は、3,060人です。東京捕虜収容所の管轄内で全員の数が6,050人でしたから、その半分が新潟県の捕虜収容所で収容されていたことなんです。

企業と強制連行

その捕虜収容所の中で朝鮮人も一緒にそこで働いていたと分かりました。電化セメントという会社がありますが、そこではどういうことがあったかというのは、県警が戦後、陸軍に報告した文書の中に書いてあります。爆発事故で、その仕事を朝鮮人にさせたという記述があるわけです。

朝鮮人・中国人の強制連行だけでなく、県内の捕虜収容所の問題も合わせてやるということで、調査をすすめているところです。

県内くまなく強制連行とか、捕虜収容所の事実が広がっております、それぞれの地域で連携をとりあい、史実を発掘したいということで、「戦争責任、戦後補償を考える新潟県連絡会」をつくりまして、埋もれた史実の発掘に努めてるところなんです。

警察史とか、新潟県史・新潟県終戦処理の記録簿等に書かれております。先ほど田中先生のお話で、中国人強制連行の話でしたけれども、これは、日中友好協会の方の調査でハッキリしております。けれども、朝鮮人がどのくらい亡くなっているかは分かりません。捕虜収容所のことも分かりません。「私は貝になりたい」という本を書いた加藤鉄太郎という人は、新潟にありました第5分所の所長であったんです、新潟市内には、もう一つ第15捕虜収容所もあり、何人亡くなったかは分かりません。そこで私どもは県に、私たちが多分こういう資料を公表してもらえば、事実がわかるんじゃないかと、13の書類の公開を要求したけれども答えは「ない」ということなんです。90年に厚生省が各県に朝鮮人のことに関する解答書の文書を出したけれども、それさえも「ない」と、こういう解答なんでありまして。そこでもう公の文書を公開させて、それを手がかりにして調べるのは大変だということで聞き取りしかなかろうということで、現地調査と聞き取りを中心に、今やっているところなんです。

鉱山と地下壕

蒲原郡川上村という所に強制連行されてた人は、人形見鉱山というところ一ヶ所しかなかったんですけれど、その後、聞き取りした結果、もうひとつヒロ谷鉱山というところにもあったということが明らかになりましたし、これは全国でも珍しいかと思うんですけども、鉱山で働いていた朝鮮人の食料を確保するというために、19人の朝鮮人

を農家が泊めて米とか野菜作りをしていたという事実も明らかになってきました。

また、村松町というところにも三共鉱山があり、私は高校の教員なのですが、生徒と一緒にその山へ行き標高900mの所にキャンプを張りまして、そこから、鉱山をめざしたんですけれども、遠くて食料も底をついたということでそこまでいけずに帰ってきたという、そういう所がありました。

それ以外に同じ町に2カ所あったということも明らかになりました。そういう具合にやはり現地調査とか、聞き取りとかいうようなことで、事実を掘り起こしていくしかないんじゃないかと思って取り組んでいるところです。

アメリカの戦略爆撃調査団の報告書を見ますと、地下壕が新潟にあったというのが、書いてありましたけれども、長岡にもあったことが分かりました。入って10mの所で土砂崩れでもう入れないようになっています。報告書にある新潟というのは、話を聞きに行きましたら、B-29を撃つために、高射砲部隊が新潟へきて高台の所にいて、そこに地下壕があったということを聞きかされました。そこが今病院になっています。これから帰って調査をすれば、その下にあるのは、地下壕が形をとどめているんじゃないかと思っています。

パネル展

新潟での強制連行などを大勢の皆さんに知ってもらいたいということで、冊子を作りました。これを全県の小中高へ配布し、何とか教材に使っていただきたいと思ってやっております。それから、昨年8月に調べましたものを40枚のパネルにして、展示しましたが、今年は8月9日から13日新潟県民会館でパネルを100枚にしまして展示して、一人でも事実を知ってもらいたいということで、今準備を進めているところです。

昨年パネルを作ったときに、北越メーカーという会社が、ここも連合軍の捕虜を使っておりました。それと同時に朝鮮人も使っておったんです。それは、ちゃんと社史に書いてあるんです。それ

をパネルにして展示したいというふうに文書で申し入れましたら解答がきまして、ここを消してくれと、どこが具合が悪いんですかというのと、要するに朝鮮人を使っていたというところが具合が悪いから、そこを消してくださいという解答があったわけです。

それから、新潟鉄工所というのがあります。ここも社史でちゃんと連合軍の捕虜を使っていて、BC級裁判で被告人を36人出したわけです。これは一社の被告人の数からいくと、全国でいうワースト3に入るぐらいの数なんです。いずれにしても社史に書いてある。6月新潟鉄工は100年史を出します。細かくじゃあないけれども、まあ書いてあります。

そこで、じゃーコピーをお願いしたいというふうをお願いしましたら、これは理由はなしですけどもお断りということなんであります。捕虜以外に、朝鮮人も何人いたというのはちゃんと知っているんですけれども、それを広く大勢の皆さんに知ってほしいという願いを叶えてもらえない状況になっております。

そういう中であって、6月に長岡市史が発刊されました。ここでは充分ではないんですけれども、長岡は捕虜収容所が2つあり、その他の強制連行の事実が油田と日通長岡支店のところにありましたので、ちゃんと記載されています。県は文書の公開を拒否しているけれども、関係する市町村、それから企業、そういうところは文書の公開をやっていききたいと、こういうふうに思っています。

時間がせまっていますので早く明らかにすることとか全県的なネットワーク作りというものがなければ進まないんじゃないかと思うんです。そういう課題を何とかして克服して、皆さんから色々お知恵をお借りしまして、何とかして埋もれた事実を一刻でも早く明らかにしていきたいというふうに思っています。

碑文に加害責任を

大阪府朝鮮人強制連行真相調査団 塚崎昌之さん

私は「茨木市安威地区に戦争と平和を学ぶ公園を」茨城市民の会、そして、大阪府朝鮮人強制連行真相調査団にも加わっている塚崎と申します。5者連名で大坂の碑文に加害責任を書き込ませた話しをしたいと思います。

こういう運動ができたのも昨年の第6回の全国交流集会の運営委員として各団体から集まり交流と信頼を深めていく中からこういう運動ができて来たということです。

今までこういった碑文に加害というものが行政の手で作ったものとしては、明日フィールドワークに行く人もいます。瑞浪の明世の地球回廊などに「強制連行・強制労働とか重労働・栄養失調による死傷者も多数でした」こういった文言の入った碑文は有るにはありました。ただし、これは誰が書いたのか判らない主体の入っていない碑文となっている。それに比べれば今回ののは加害に一步踏み込んだものとなっているのではないかと思います。

大阪府の戦後50周年事業

大阪では94年のはじめに府下30ヶ所に戦争の傷痕を記した銘板を戦後50年を機会に建てようと計画しました。碑の設置場所と碑文の文案に関しては市町村、設置費用に関しては府というふうになりました。この目的は「府民が戦争の悲惨さを語り継ぎ平和への誓いをあらたにする」というものでした。

この目的を見てもわかるように、最初に行政が念頭に置いたのは大阪の空襲とかいった被害の面をとらえた記念碑を建てようとしていた。しかし、それではいけないということで、真相調査団のほ

うで(1)加害の跡地を対象にする(2)加害責任を明確にする(3)被害者に対する追悼の意を記す(4)朝鮮人側の意見も尊重する。といった要望書を提出しました。そして、大阪には13箇所強制連行の跡地が有り、こういった資料を作っているんだと持ち込み交渉しました。各市町村の運動団体もそれぞれの自治体に働きかけをする。このように当初は順調にいていたのですが、しだいに壁に当たりはじめました。

原因の一つとして府議会が不景気と税収減を理由に30ヶ所を17ヶ所に100万円を70万円にケチった。もう一つは行政が候補地に当たってみると地元のボスや地権者などが反対するので返上するところが続出した。そして、最終的に茨木市と高槻市のみが作る事となりました。

茨木市の場合

茨木市の場合は5月に申し入れをしたんですが、担当者が「皆さんの意見は作るとき必ずうかがう」と話しがあったのだが、なかなか音沙汰が無い、これはおかしいなと問い合わせたら「もう文案はできています」という返事。「そりゃおかしい、どうことだ」と問い詰めると「ある団体の意見は聞きました」ということだった。そういうアリバイ作りはしたということで強行しようとした。

私たちのほうも、これではいけないと危機意識を持って運動を再開しました。真相調査団は府全体の状況に明るい、そして各団体を繋ぐ働きがあります。各団体は地元で強いパイプがあるということで、全体と個別の地域を連結するかたちで交渉をしました。

かたくなな行政

しかし、最初は8月15日の村山首相談話の中に「植民地支配と侵略によって多くの国々とりわけアジアの人々に対して多大な損害と苦痛を与えました」という一節がありました。これはもう首相が言ったんだからこのくらいな文言は入るだろうと甘く考えていたのだが、市のほうは頑強に抵

抗して村山首相の言葉すら入れない。強制連行という言葉は比較的早い段階で入れるということは約束してました。しかし、加害の歴史だとか植民地支配とか侵略戦争といった加害責任を示すような言葉は頑なに入れることはできないと言いつけました。

その理由としては強制連行という言葉はもう入れたのだから良いじゃないかというものと、戦争の評価に関わることは入れることはできない。植民地支配や侵略戦争が評価に関することとは思えないですが頑強に拒否をする。交渉の中で行政のよくやる手ではあるが、責任の所在がどこにあるのか明らかでないということは逆に責任を明らかにしないまま、いいかげんな碑文が作られるということになる。しかし、府レベルと市町村レベルの二つの団体で運動できたということが功を奏して、府のほうへは真相調査団、市町村のほうは地元の運動団体と、両方を追いつめてどうにか及第点のもらえる文案を作らすことに成功しました。

20数回のしつこく粘り強い交渉によって、やっと12月これで仕方ないだろう十分満足したわけではないが、今までの行政の作ったものとしてはもうこれ以上すると作らないと脅しにかかっていたので、まあ、取れるところで取っておこうと、そして、まだ決まってない市町村をバックアップすることによってさらに文言を勝ち取っていいんじゃないか、こういう形で茨城では決着がつかしました。

変わらない行政の考え方

この碑文の文言の決着がついたのも、先ほどからいろんな話がありますが、行政が心から朝鮮人に対して酷いことをしたという、強制連行に対して申し訳ないことをしたという、心からの反省ではない。結局茨木市もこのままで飲まざるをえなかったのは、戦後50年で注目を浴びており、記念碑ができないとなると抗議集会をやられ、下手をすると外圧がかかるのではないかというおそれの中でこの辺だったら良いのじゃないかという

行政の判断だったのです。

ところが、茨木市の碑文を作った後に非常におかしな行動を取り、せっかくこれだけの碑文を作ったのだから、民族団体、民団・総連・その他強制連行された体験者もいらしゃいますので、そのかたを招いて除幕式でもやったらどうだ、そしたら茨木市も評価される。と話すと、そっけなく、検討はしてみますと言ったものの、実は誰に明かすことも無くコソッと設置して、コソッと覆いを取ってしまいました。結局、市報では知らせましたが、それすら初めはしようとしなかった。

要するに、作ったことを知られたくない。そういった、姿勢を市は見せた。「入れ物は作ったが魂が無い」というのが行政の姿勢で、私たちとしてこれを作って終わりというわけにもいかない、これに魂を入れさせる運動を作っていかなければならない。これをバネに高槻市、大阪市の二ヶ所の文案もできました。

大阪も候補地すらなかなか決めないで、交渉がまとまったのが3月26日、昼から始まったのが夜の10時半までかかってやっとできたという、本当に予算の執行ぎりぎりまでほっておきたい、やりたくないというのを見せ付けたようなものですけどなんとかまとめました。

保存運動は続く

茨木市としては「公開を求める会」が9月に正式に発足します。この結成の動きを受けて、地元では地下壕の保存の気運が盛り上がっています。それから、こういったものは広く知らしめなければならないということで茨木市は予算を付けてこの地下壕のことを扱ったビデオを（10分程度のもの）作りました。

行政が強制連行を全面に扱ってそれを教育現場に配るということもしました。小学校の副読本にも記載され、そういったことを行政がやったということをテコにさらに広く知らしめていかなければならないと思います。

広島の強制連行

広島の強制連行を調査する会 内海隆男さん

広島の強制連行を調査する会の代表の一人として広島から報告したいとおもいます。

私たち調査する会は90年12月8日に旗揚げしました。会員数は240名といえませんが、実は延べ人数でいろんな人が集まっています。

地域誌の見直し

今までどんなことをやってきたかといえば官庁などの公文書とか強制連行や強制労働に関係した文章の調査です。今一番力を入れてやっているのは1910年から45年までの地元新聞の見直しです。いわゆる強制連行期の39年から45年も当然ですがそれ以前の前史も調査しています。

例えば、広島の太田川にある発電所工事に関する記事を見ると1924年に日本にやって来て3ヶ月一円の賃金ももらっていないということでそこに働いている朝鮮人が裁判所に訴えていることが分かります。このことから1910年の日韓併合で植民地支配を進める中で生活手段を奪われて日本へ来ざるをえなくなって、やって来た日本の現実はいわゆる強制連行以前であろうと決してのんきな物ではなかった。

1923年の信濃川でおきた朝鮮人虐殺事件は詩人のキムチャンジョン氏の「雨の慟哭」の中で詳しく述べられていますが、けっして信濃川や太田川だけの状況ではなく、日本全国にあったと思われる。ですからこそそういった実態の掘り起こしが必要なのです。

そういうことで、朝鮮人労働者の足跡があちこちに出てきた。広島県内では県北に高幕ダムというところがあり、そこでは2千人の朝鮮人が働いていた。広島市内の三菱重工に2千8百人の強制

連行があった。これ以外にも2ヶ所あることが、そういった事が分かって来たんです。もっと調べていけば増えるものと思われます。

足跡を地図の上に書き記すと、とうてい一枚では足りない、1910年代の地図、20年代の地図、30年代、40年代と年代別に分けて地図に表さねばならなくなってしまう。

だから、新聞をめくりながら現地へ出かけていろいろな聞き取りをしながら、いろんな事実を明らかにしています。

活動を本に

そうやって、分かって来たことを今まで本にしています。「地下壕に埋もれた朝鮮人強制連行」（明石書店刊）という本を92年に出したんですが、現在は「1910年代の広島と朝鮮」という第2集を出すことを目指して現在鋭意執筆中です。昨年の交流集会でも執筆中と言っていたんですが来年はもう言わないつもりで、そこに載せています。

その他、他ではやっていないこととしてはカレンダーの発行をやっています。今集会でも受けのところに置いてあるんですが、これが「広島の記憶」というカレンダーで1月から12月まで写真と日付の下にいままで調査した解説が付いています。95年からつくりはじめて現在3作目を制作中です。印刷は中国で刷っており日本でこういったカレンダーをつくれば特にカラーでは1200円で販売しているのでとても採算に合わないのですが、そういうこともあって中国で印刷しているのですが、中国で印刷するようになったその背景には、広島にある「ヤスノ発電所」に強制連行されていた中国人が被爆したということで、その人を訪ねていく調査とか、交流が深まっていく中で中国で印刷が実現するようになりました。

岐阜の展示会を見せていただきましたが、岐阜

でもこんなもの作ったらいくらでも作れるじゃないかと思います。

地方の交流集会

中国地方交流集会というようなこともしています。最初は広島で集会をもちまして、鳥取、島根、山口といきまして97年は岡山で開催される予定です。広島集会では県北部の発電所でのフィールドワーク。鳥取では「アラガネ鉾山」とか、山口では宇部の「長生炭坑」とか、強制連行の現場とか犠牲者が出た現場をフィールドワークなども交えながら、互いの調査経験を持ちより、刺激しあい輪が広がることをめざしてやっています。97年が終わってしまうと中国地方を一周してしまうので98年は四国と中四国大会をめざそうかというようなことを話し合っています。

その他、単に過去の調査だけでなく、広島でも三菱重工の未払賃金をめぐっていわゆる戦後補償の問題があり、今年の4月第一回の公判が行われましたが、そういった裁判を支援し協力するというようなこともやっています。

今後も頑張っていくということで、報告のときさせていただきます。



（司会・進行）旧日本軍による性的被害女性を支える会＝伊藤啓子・小野政美

{460名古屋市中区新栄町2-3 名古屋YWCA, TEL 052-961-7707, FAX 052-961-7719}

①被害女性の証言（証言者＝沈美子シムミジャさん）と質疑応答

<沈美子（シムミジャ）さんの紹介>

- ・1924年2月4日、黄海道生まれ
- ・大韓民国京畿道城南市在住

{沈美子さんの<<私の要求>>}

1. 謝罪は口頭ではなく、内閣総理大臣の名での「謝罪文」を被害者各人に手渡すこと。
1. 補償は、「民間基金」方式ではなく、国家賠償金として被害者各人に一日でも早く渡すこと。
1. 引き続き、真相究明のための調査活動を徹底的にすること。
1. 被害者の肉体的、精神的治療、リハビリテーションを実施すること。
1. こうした過ちを2度と繰り返さないために、教科書への史実の記載やアジア各国の犠牲者への追悼事業を積極的に推進し、広く日本国民に戦争の加害意識を認識させるよう努めること。

②基調提案<旧日本軍による性奴隷（「慰安婦」）

問題－国連人権委員会・クマラスアミ報告書採択決議と最近の状況、運動の課題>

1996. 7. 27 旧日本軍による性的被害女性を支える会・小野 政美

<<基調提案の基本的立場>>

- * 日本政府に被害者への公式謝罪と真相究明、名誉回復と国家による個人賠償を要求する立場
- * 日本政府の進める公式謝罪と国家による個人賠償拒否するための「国民基金」反対の立場

<<国連人権委員会・クマラスアミ報告書採択と最近の状況、運動の課題>> *別紙資料参照

1. 国連人権委員会での採択をめぐって－討議と採決と「留意」と－（添付資料参照）
 - （1）クマラスアミ報告書の意義と人権委員会での採択＝ジュネーブ報告
 - （2）報告書・勧告と採択決議における「留意」表現の評価＝決議原文資料参照
2. 日本政府の態度と「国民基金」の破産状況－新聞記事・資料等参照
 - （1）日本政府の対応＝決議強制力なし、2国間条約で解決済み、個人補償せず、法的責任否定
 - （2）「国民基金」の破産状況＝三木さん抗議辞任、募金状況、首相「お詫び文」の件ほか
3. 被害当事者の現在＋被害当事者・各国政府の変化
 - （1）5つの被害者団体の受け取り拒否宣言＝宣言資料・記事等参照
 - （2）各国の被害当事者と各国の現在の状況＋アジア連帯会議
4. 運動の課題と今後の取り組み－憲法98条＝国際法遵守、立法措置、国家補償の実現等
 - （1）「国際協議会」の成立と国際的・国内的運動の展開＝5/14東京宣言
 - （2）「応じよ！国連勧告」署名運動、国会議員への働きかけ、立法運動等
 - （3）「心に刻む会」等によるこの夏の全国各地での証言・「国民基金」抗議集会
 - （4）「調査会」法案を、本岡議員らが議員立法として参議院に提案
 - （5）「奥野・板垣両議員への6. 12共同抗議声明」
 - （6）被害当事者による「国民基金」受け取り拒否と日本政府への抗議運動

シム ミジャ
元「従軍慰安婦」沈美子
ハルモニの証言

1996. 7. 27, 岐阜市文化センター

通訳:金ボンスさん

記録編集:小野 政美



私は「従軍慰安婦」の 生きた証人

私を侵略戦争を体験した証言者として呼んで下さって有り難うございます。沈美子シムミジャと申します。第2次大戦の侵略戦争の時、天皇ヒロヒトの命によって、日本軍に拉致されて日本に来ました。強制連行されて日本に来たのです。

元「従軍慰安婦」の沈美子です。私が直接体験したこと、及び自分の目で見たこと、聞いたこと、それらすべてのことを、私は、生きた証人として、みなさんの前で証言いたします。

朝顔の花が美しいので 刺繍しました

私は、1924年、韓国の黄海道の農村で生まれました。国民学校の5年生の時、日本人の担任の先生だった林先生が、私の家を訪ねた時に、私が韓国の国花・ムグンファ（むくげ）の花を刺繍して作った朝鮮半島の地図を見つけて、大変ほめてくれ、「日本地図を作ってくれ」と頼みました。喜んだ私は、早速、朝顔の花を刺繍した日本地図を作って、学校に持って行きました。先生は、「とても美しく刺繍してくれた」とほめてくれて、この地図を職員室に飾ってくれました。

数日後、教室で授業中の私に、「職員室に来い」との呼びだしがありました。職員室に

行くと、日本人の警察官がいて、「お前は、小学5年生にもなって、我国の国花を知らないのか?」と尋ねました。それで、私が、「桜の花です。」と答えました。警察官は、「なぜ、日本の地図に桜の花を刺繍しないで、朝咲いても夕方には萎んでしまう朝顔の花を刺繍したのか」と聞きました。私は、「朝顔の花の方が、桜の花よりも美しいので刺繍しました。」と答えました。

日本人警察官の強かん 未遂と拷問

そうすると、その警察官は、「お前は、日本がこの朝顔のように一日も早く滅びることを望んで刺繍したのだろう。お前の精神はなっとらん。」と言いました。そして、警察署の宿直室に強引に連れて行きました。警察官はそこで、無理矢理強かんしようとするので、私は、その警察官の耳を噛んでやりました。その警察官は、「あっ。」と悲鳴を上げながら去ってしまいました。その警察官は、私を別の警察官に引き渡し、警察署の別の取調室に連れて行き、さまざまな拷問を加えました。そこでは、両方の足首に電気線をぐるぐる巻きにして、電流を流されました。「冷たい水を掛けられたような」ショックが全身を走り、体がビリビリとしびれました。この電気拷問は3回ありました。それから、指の爪の間に、竹串を突き刺されたり、真っ赤な焼きごてを肩と首筋に押しつけられるなどされました。

「お前の父はどこに行ったのか」と何度も尋問しました。ほとんど家に帰ってこなかった父を、警察は反逆分子と見ていたらしく、父の居所を聞き出そうとしました。何度聞かれても知らないの、私は、知らないと答えると、そのたびに、同じ拷問を繰り返され、しまいには、自分の皮膚の焼け焦げる臭いで、私は失神してしまいました。

失神から醒めると日本の 福岡の慰安所

それから何日間失神していたのか、私にはわかりませんが、意識を取り戻すと、日本の福岡の「烈部隊」という所にいました。その部隊で、拷問の時の指と肩のけがの治療をして、少しずつ動けるようになった後で、私は、日本軍の性奴隷にされたのです。

その時から、私は、日本軍の「従軍慰安婦」
として、福岡、神戸、大阪、千葉・流山、和
歌山などの日本各地を強制的に連れて行かれ
ました。前線・後方を問わず、あるいは、海
辺・山奥と各地を引き回されながら、昼夜を
分かつ、1日に20人30人の兵隊の相手
をさせられ、土曜・日曜には、40人・50
人もの兵隊の相手をさせられました。

私は「従軍慰安婦」の 生きた証人

私は、このような性奴隷の暮らしを実に6
年間強制されました。だから、私は、そのこ
とを、生きた証人として証言したいと思いま
す。

みなさんが、私の生きたこの証言を深く聴
き取って下さり、日本政府及び周辺の保守勢
力が押し進めている動向に対して、みなさん
が、私たちとともに反対運動をして下さるこ
とを願っています。

私はなぜ「国民基金」 に反対するのか

日本政府が現在行っている「国民基金」の
運動について、私が初めて知ったのは、韓国
の「文化放送」というラジオ放送のニュース
を聞いていた時でした。文化放送ではこんな
ふうに放送していました。「日本の天皇ヒロ
ヒトが命を下して、朝鮮の乙女たちを拉致し
て行った、そういう事実はない。あくまで、
置屋の抱え主が、女性たちを集めて行ったに
すぎない、と日本政府は言っている。」しか
し、私は、その放送内容がとても肯定できず、
私自身が、現に、天皇ヒロヒトの命によって、
拉致され、性奴隷にされた事実をみなさんに
訴えなければならぬと思って、みなさんの
前で、お話するようになったのです。

強制連行した事実はないのだという日本政
府に同調するような形で、民間募金を集めて、
私たちに「慰労金」をくれるというのは、そ
れは、日本政府の言う、強制連行の事実はな
かったということと、同義語なのです。

日本政府は、強制連行していた事実を否認
しながら、民間基金による「慰労金」を渡す
ことによって、自分たちの歴史に汚点をのこ
すまいとして、私たちに「慰労金」なる名目
で、いくばくかのお金を与えて、ものごとを

うやむやにしようとしているわけです。

私たちは、国際法に照らした形で、きっぱ
りと決着をつけることを望みます。私は、こ
の場にお集まりのみなさんが、私とともに、
良心を持っておられると信じています。民間
基金の活動に奔走している保守的な勢力とは
違う、良心的な方々だと信じています。

私がニュースを通じて承知している所によ
れば、8月15日に、韓国・フィリピン・台
湾3国の約300名の人々に1人あたり20
0万円の「慰労金」が支払われると聞いてお
ります。その上、7億円のお金を投じて、お
金がない、あるいは、住宅事情のよくない私
や仲間のために、韓国政府と共同して、その
「国民基金」を運用するという認めがたい話
も出ています。

私はなぜ「国民基金」 を受け取らないか

私が、なぜ、「慰労金」という名の「国民
基金」を受け取らないのかと言えば、それは、
日本国家によって、私は強制的に拉致され、
日本軍の性奴隷にされた、そのことに対する
肉体の代償としての「慰労金」を受け取るこ
とは、断固としてできないのです。戦争犯罪
に対する賠償をこそ私は受けたいのです。

日本が、戦争犯罪に対する賠償をすること
によって、全世界の女性の人権と名誉を守る
ことにつながる訳なのです。

15歳で私は日本軍の 「従軍慰安婦」にされた

いま、私が話していることは、自分自身が
直接見たこと、聞いたこと、自分の身で体験
したことであって、私は、日本軍の「従軍慰
安婦」であったその事実を、みなさんの前で、
今、語っています。

私は、当時、国民学校5年生、わずか数え
年15歳の幼い身で日本軍の「従軍慰安婦」
にされた身なのです。

私は、幼すぎて、何も物事が分からなかつ
たのです。だから、私は、何も恥ずかしくな
いのです。私を、そういう境遇に追いやった
日本こそが恥ずかしい国なのです。

私は、みなさんの前で真実を語っています。
したがって、みなさんが、日本の保守勢力
や日本国家と堂々と闘われて、日本が世界に

認められる国、真実の国の国民になられるように努力して下さることを望みます。

私の考えでは、女性の人権と名誉を踏みにじったままでは、決して世界から認められる国にはなれないだろうということを信じています。

私が、ちょっと過激な発言をしているような気がしまして、少し申し訳ないと思います。

私は、私の立場で、主張します

私は、私の立場で、主張します。

日本が、国際法に照らして、真相究明、謝罪をすること、同時に、私たち「従軍慰安婦」一人ひとりの手に、賠償金を手渡してくれることを、私たちは要求します。

わが国で、朝鮮戦争という戦争がありました。もし、朝鮮軍が、あなたがた日本の女性を、私がされたように、拉致して、軍隊の慰安婦にしたとしたら、みなさんは、どう思われるでしょうか。

私は、戦争が始まったときに、アメリカにいた日本人が収容されていたことに対する補償をアメリカから受けたことも知っています。

6年間の「慰安婦」生活からの解放と戦後の苦労、そして帰国

私は、日本の敗戦とともに、「慰安婦」生活6年間から解放されたのですが、その時、私は、韓国へ帰る旅費すら無かったのです。

一銭のお金も無くて、すぐに帰ることができなかったのです。

それで、やむを得ず、日本の運動靴工場で、頼みに頼んで、食べる物と寝る場所を与えてもらうことを条件に一銭の賃金ももらわず、2年間、そこで働くことになりました。

こうやって、住み込んだ運動靴工場で昼間

は働き、夜には刺繍したり、日本の女の人の帯などに編み物の内職をしたりしました。

そうして、昼夜を分かたず一生懸命働いて貯めたお金を旅費に当てて、やっと韓国へ帰ることが出来ました。

勤勉・正直・率直—それは私が日本人の先生に教えてもらったこと

私が国民学校のころの担任の先生は、3年生が村山先生、4年生が谷村先生、5年生が中村先生でした。この3人の日本人の先生方から、私は、「人は勤勉でなければならない、人は正直でなければならない、人は率直でなければならない」という3本柱の教育を徹底的に受けました。

あれから、50年以上経ちました。私は、今73歳ですが、その当時の3人の日本人の先生の教えを、この年になるまで、私の生きる糧として、私は、今日この時まで生きてきました。

日本人の先生たちは、私たち韓国人に、勤勉であれ、正直であれ、率直であれと、そのように教育をしたのですが、では、なぜ、日本政府は、正直でもなければ、率直でもない。まるでどじょうみたいに、右へ行ったり、左へ行ったり、つかみどころのないような返答ばかりするような態度をとるのでしょうか。

こんな日本政府、及びその周辺の保守勢力というのは、私に言わせれば、2つの顔と、2つの口を持った姿でしかありません。

すみません。ちょっと、どぎついことを言って申し訳ありません。

私は日本の若い人たちに私の体験を伝えたい

私は、日本の大学生など若い人たちに、私の証言をより広く伝えたいと思います。

だから、私は、若い人たちの前で証言することによって、日本がいかにも良心の無い欺まんに満ち満ちた国かということを、私の体験を語りながら、その過去の事実を、何も知らない若い人たちにより多く知ってほしいために、私は、日本の若い人たちの前で証言したいのです。

私は、韓国内の各大学から証言をしてくれと頼まれ、ほとんどの大学を廻ったといっ



もいいくらい、各地の大学を廻りました。そして、各大学で、日本の良心なるものが、いかに至らないものであるかを証言して廻りました。だから、私は、そのようなことを日本の大学でもしたいと思っています。

私をオモニ（お母さん）と呼んでくれる子どもひとりおりません

先ほどもお話しましたように、私は、運動靴工場で昼間働き、夜は内職に励んで、自分が帰国するお金を貯めて韓国に帰国したわけですが、それは、そういう人生そのものを、そのように生きたということは、私が、日本人の先生から受けた教育をそのまま正直に実践した結果だった訳です。

私は、当時まだ年は若かったけれども、日本国家そのものの悪らつさをよく知ってしまい、社会とか人間、特に男に対する不信感にとらわれて、いままで結婚する気などさらさなく、今に至るまで一人暮らしです。

私を、お母さんと呼んでくれる子どもひとりおりません（涙を流される沈美子ハルモニ）。

日本人の先生が、私に、もっと適当に人生を生きろと教育してくれたならば、私は、結婚したかもしれません。

でも、私は、先生が教育してくれた、正直に生きろ、率直に生きろ、という言葉をそのまま生きた結果、今のよう、みすぼらしい姿があるのです。私は、勤勉であれという教育を受けた結果、昼も夜もなく、こつこつと働き続けてきました。その結果として、今の私があります。私は今、73歳になりますが、勤勉であれ、正直であれ、率直であれ、と教えてくれた中村先生の教育が間違っていたのだということを、私は今になって悟ることができました。

日本の良心あるみなさんに訴えます！

良心に満ちているみなさんの前で、こうして証言することができて、私は、とてもうれしく、涙があふれてきてなりません。

私が思うには、日本の保守勢力が80人だとすれば、ここに座っておられる日本の良心的なみなさんの勢力は20人位だと思います。弱い勢力ながらも、良心を持ったみなさんが、

こうして、保守勢力に対して、私とともに闘って下さることに対して、感謝の気持ちを表しながら、私の至らない話を以上で終わらせて頂きます（拍手）。

まだもうひとつあります。

私は、50年前に、私が、体験し、私の目で見て、耳で聞いた話をしました。

ここに集まっているみなさん、大変でしょうが、どうか、一生懸命に、日本政府と保守勢力と闘って、「従軍慰安婦」問題に関して、日本が世界に恥ずかしくないような、国際法に照らして、不当性のない、世界に向けて恥ずかしくない結果をかちとる日まで、どうか、みなさん、私たちといっしょに、努力して下さいをお願いいたします（長く長くつづく拍手）。

基調提案

沈美子ハルモニの証言を承けて、旧日本軍による性的被害女性を支える会・小野が、基調提案（別掲レジュメ参照）を行い約80名の参加者により討論に入った。

討論

1. 在日2世の女性、63歳。オモニの話を聞いて、涙が流れます。日本の学校に通った。差別を受けて生きてきた。ハルモニ、ここにいる日本人は悪い人たちではない。日本の軍隊と政府が悪い。私たちに何を、望まれるか。

<沈美子ハルモニ>在日同胞のみなさんが、私の考えでは、悪らつ極まる日本社会で生活することは、どんなにご苦勞であるかと思います。

自分の故郷を離れて、他国で暮らしながら、私たち元「従軍慰安婦」の年寄りに助けの手を差し伸べて下さって、非常に感謝しています。私たちは、しっかりと生きています。従いまして、在日同胞のみなさんは、日本社会にあって、日本政府が、より良心的な政府、より人間らしい政府になるように、一生懸命に努力して下さいが一番だと思います。

2. 愛知県立高校教員。愛知高校生サマーセミナーに、李ヨンスハルモニと高校生との対話集

会を開いた高校教員と共に講師で参加。ビデオと発表に60-70名の高校生が参加した。

3. 日本福祉大学付属高校生。4名参加。4日前に訪韓。10月に文化祭で発表。太平洋戦争犠牲者遺族会のハルモニ2名に話を聞きに行き、ひとりのハルモニに「なぜこんなことをするのだ。」と問われて、「歴史を知りたい。」と答えると、「歴史を知っても、政府に何もしないのだから、今やっていることは意味がない。」と言われた。沈美子ハルモニはどう思われるか。

＜沈美子ハルモニ＞私が、代わって謝ります。あまりにも若いあなたたちに、自分の過去を話すのが辛かったのでしょうか。きょうの私の話を聞いたことで、歴史の勉強にしてください。

＜司会＞新中学歴史教科書への「従軍慰安婦」記述に留まらず、例えば、沈美子ハルモニの体験等を子どもたちに伝えていく授業・教育実践をしていく必要があるのではないか。

4. 愛知県、男性。元「従軍慰安婦」の方が名乗り出ているのに対し、心ない日本人が、日本が金持ちになるのを待って今名乗りでていると言っているが、どう思われるか。

（会場からあなたは、どう思うんだ？の声。）

4. 愛知県、男性。50年間何もしてこなかった日本も悪いし、元慰安婦の方ももう少し早く言ってくれば・・・両方、半分半分。

5. 在日の女性。それは侮辱だ。今70歳だから名乗れるのだ。私も名乗れない。ハルモニは、結婚もしていないのだから。

＜沈美子ハルモニ＞私は、92年に初めて日本にきました。ハンクンジュハルモニと一緒に。その時も「お金を取りに来たのだ。」と言われてびっくりしました。92年、韓国挺対協の呼び掛けに応じたのが金学順ハルモニでした。私は、刺繍をしながら、ラジオを聞いていました。「日本政府が、朝鮮の女性を連行した事実はない、民間業者が連れていった」といっている。」というニュースを聞いて、

日本政府は何と嘘つきなんだろうと怒りがこみ上げてきました。私は、本当に恥ずかしいまでに動物以下に貶められた体験を持つ生き証人がこうして、まだ生きているのに、なぜ日本政府はあんなにも白々しい嘘が言えるのかと思い、非常に怒りを覚えながら、私は、挺対協に名乗り出たのです。

＜通訳金ボンスさん＞90年以降ハルモニたちが名乗りを上げられた背景には韓国・アジアの民主化があることを考える必要がある。

＜沈美子ハルモニ＞未だに日本国家と一部の日本国民が、私たち韓国や韓国人を侮蔑しているから、何のためらいもなく平然とそんな言葉を吐けるのでしょうか。私は、先ほどの男性から、この場で、謝罪の言葉が聞きたいです。（男性が「済みませんでした」と謝るが、その態度と発言を巡り、暫く、議論白熱。割愛。）

6. 奈良、男性教員。証言を無視する人々にこそ分かってもらう必要があり、努力すべき。

7. 長野、女性。松代「慰安婦の家」の保存運動を！この問題を考える時、女性が性暴力・性被害を訴えることの困難性を認識すべきだ。

8. 男子高校生。政府が「従軍慰安婦」のことを隠そうとしている。一人の力は微力でも誤った認識の人を一人でも少なくしていきたい。

＜沈美子ハルモニ＞大変感謝しています。私の6年間の体験の証言が日本の歴史教科書に載せられて、日本の次世代の若い人たちの歴史教育の教材となるよう努力して下さい。「従軍慰安婦」問題に関わっているみなさんの運動は、あなたたち自身の人権と名誉を勝ち取る運動にもなると思います。今後とも、私の証言が新聞テレビでも取り上げられ、若い人たちの歴史認識の教材になることを祈ります。

＜司会＞沈美子ハルモニに感謝。高校生の参加が成果。証言を聴いた者の責任で、謝罪・賠償・真相究明を勝ち取り、ハルモニたち被害女性の心の声を広げよう。政府「国民基金」へ抗議を！署名運動を！（記録編集：小野政美）

第2分科会 戦争被害と教育

この分科会への参加者は19名であった。この分科会に参加した目的を織り込みながら、自己紹介を行ったのち二本のレポートの報告が行われた。

1. 「松代大本営と中高校生」

松代大本営平和祈念館建設実行委員会

峯村 勉

(1) 21世紀に何を残すか、生徒とともに考える

中学生たちに地元での強制連行の跡地をフィールドワークさせ、それを文章にまとめさせる。その作品は強制連行の現場で心を揺り動かされている。ここでとれる焼結は兵庫県伊丹へ送り鉄にされた。働かされていた中国人は12.5名。朝鮮人は2～300人ぐらいといわれ、未だ見当がついていない。具体的な活動の場を与えられれば、今の中学生も、行動するエネルギーを十分に発揮できる。

私たちは次代に、21世紀の子どもたちに何を残さなければならないか、と考えるときに、それは平和とみどりと水（地球環境）そして人権（民主主義）だと考えます。1998年の長野オリンピックまでに平和館を建設したい。そんな思いで頑張っています。

(2) 篠ノ井旭高校で生まれ変わる

中学時代は特殊学級だったM君、「不登校」だったT君、いじめられっ子のI君。この高校生たちが郷土研究班の「松代大本営研究」と出会い、大きな成長を遂げました。（下はその要約）

①M君「松代からの旅立ち」

生まれつき体の悪かった僕は、中学の時には特殊学級にいました。しかしこの郷土研究班に入り、地下壕の清掃、地図の色塗りなどの活動をしながら、先生に薦められて小学館のコンクールに応募

したところ賞を取った。これをきっかけに自信がついてピースIN松代の集会でも発表できるようになった。

②T君「松代からの旅立ち」

中学校時代に「不登校」だった自分が郷土研究班に入り、研究発表する中で自信がついて学校も楽しくなった。卒業後就職し、給料をもらう度に1万円ずつ祈念館建設のために送金している。

③I君 韓国修学旅行の感想文で銀賞受賞

「一番印象に残っているのは、独立記念館です。正直、自分が日本人であることがいやになりました。けれど『私は、このような場所（独立記念館）を皆様に見せたくない。皆様は何の責任もないのに、とても心が傷つくだろうから』と話したガイドさんをはじめ、暖かく受け入れてくれた韓国の人々に接して、『韓国も日本も本当に同じじゃないか。でもどうしてお互いが離れているのだろう。それは過去に日本がしたことをはっきりさせていないからだ。自分もチェ・ヨンヒさんのように二国の架け橋になろう』と決意した。

(3) 行動する高校生

①ながの高校生ゼミナールの誕生

自分たちで学校をつくろうとPeace School in Naganoが始まる。

第1回 性教育Seminar

第2回 東南アジアを訪れて

知って、感じて、学んで、表現するためのミニコミ誌を発行。

②長野吉田高校に10年ぶりに平和・平等班復活
50年前の吉田高校（上水内農学校）の生徒動員
の事実・「アウシュビッツ」講演会・人権を考える
高校生の集い・強制連行の聞き取り調査などを行う。そして

③強制連行された人の調査を目的に中国を訪問
信濃町の日本焼結工場に連行された中国人が9
名生存していることがわかり、生徒を連れて華北
省滄州へ聞き取りに出かける。その聞き取り調査
の中からの生徒の声（要約）。

・「ニホンジンハ・・・」「ワタクシタチハ・

・。」私たちが（おじいさんたちが着いた連絡を受けて）ホテルのロビーに駆けつけたとき、傳さんが、もう、大きな声で片言の日本語で他の人たちへどなりかけていた。傳さんはそのまま腰を下ろし、泣き出された。“ニホンジンハ腹一杯、ワタクシタチハ全然ナイ。”こんなことをいたのだと思う。本当に聞き取ることのできない片言の日本語ではあったけれど、おじいさんは必死だった。「おじいさんの心の中の時計はあのときのまま止まったままなんだ。」

・二日間で計六人のおじいさんに話を聞いた。一人はお父さんが強制連行・労働させられたという方。後の五人は当事者で王滝（木曾）、信濃町で働かされた方々。その証言は、

・中国の大連で鉄道の修理をする仕事とだまされて連行された。

・八路軍だといわれて捕まった。ひどい拷問を受けた。唐辛子の水を口とかに入れられたり・・・

・日本語の点呼があった。そう言って、おじいさんは「イチ、ニイ、サン・・・」と数字を十まで日本語で数えた。これを言わなければ殴られる、暴行される。

・いつも腹をすかせていた。

・ひとりの日本人が質の悪い人、殴るのを楽しみにしていた。頭をグーにしてひどくぶたれて、血が出た。頭が切れて、ケガの跡が残っている。

証言の内容はどれも一つ一つ衝撃的なことばかりだった。50年前の事実が消すことができない。

おじいさんたちの心の中には深く刻み込まれ、今まで傷は癒えないできたのだろう。

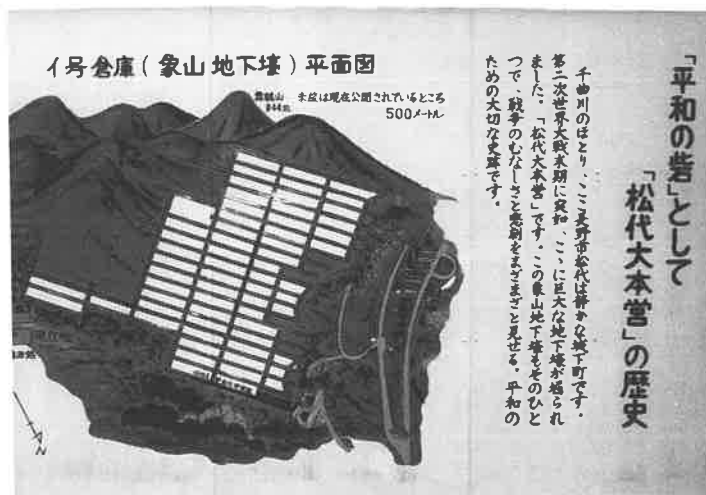
④信濃町の強制連行跡地を訪ねて

中国を訪問した生徒たちは、強制連行の現場にフィールドワークに出かけました。（以下はそのときの生徒の作文の要約）

・信濃町にある日本焼結工場跡、そこは土がたまり、木が生えている。赤土やコークスをためていた場所の跡と、赤土やコークスを混ぜたものを焼いていたカマドの跡が残っていました。今はあまり近づく人がないらしくて、少し荒れていたけれど、半世紀以上前すなわち戦中にここでは学徒動員の学生や強制連行されてきた中国人が働かされていました。今、跡を見ても彼らの姿はありません。でも、作っていた鉄の塊や赤土は残っています・・・。

・信濃町へフィールドワークに行って一番感じたことは「自分の目で実際に見る」ということの大切さだった。おじいさんたちが証言の中ではっきりと「赤い土を掘っていた」と言っていたことがやっと納得がいった。見て、考える。そして、行動する。そうしたら、また、見て、考える。その繰り返しが大切。そんな言葉をかみしめていた。朝鮮人の女の子「しげこちゃん」のお墓はどうにかならないのかな？あのままじゃ、時が流れ忘れられてしまうだけ。ただ、雑然と苔むした石ころが置かれている。名前すら彫られない。それに朝鮮名もわからない。異国の地である日本で燃え始めたいのちの炎はすぐに消えてしまった。2歳という年齢で逝ってしまったしげこちゃん。お墓を見つめていたら。胸が詰まって仕方がなかった。

・平和・平等班に入班後1ヶ月の頃、信濃町フィールドワークに参加しました。私は「なぜ五十年も前の半ば洗脳されたような大人が起こした問題を私たちが何とかせねばならないのか。そしてなぜ戦争が私たちにとって問題なのか。」という疑問がありました。今まで、平和教育の授業でプリントを配られ、それを読み、感想には「私たちにとっても大きな問題だと思う。」「きちんと知っ



てかなければいけないことなのだ。」と書いてはきました。もちろんそうは思ってはいたのですが、なぜか自分の中で腑に落ちず、なんだか矛盾した状態だったのです。しかしフィールドワークを終えて思ったことは、長野のこういった戦時中の工場や、強制連行があったという事実を地元の私たちが全く知らなかったということ、そして、その跡は、公的に保存されていないので、どんどん崩れ、壊れていき、やがて原型をとどめなくなってしまう、ということです。だからこそ、今のうちに見てほしい、そして知ってほしいと思いました。特に私たちの世代に。これからの時間を海外の各国の人々と接していくのは私たちだからです。50年以上も前の「バカな大人たち」が作ってしまった問題だけど、人と接していく以上、「日本人」の肩書きは私たちについてまわり、私たちはその肩書きと共に彼らと接していくことになるでしょうし、ですから、私たちは少しでもお互いの間にできているわだかまり、溝をうめて逝くために、対等に接することができるように、事実を学びたいと思いました。

(4) 小中学生もピース・イン・マツシロで活躍

原爆の問題・エイズの問題・強制連行の問題、子どもたちも与えられる内容によっては動く。「まつしろに平和祈念館をつくる会」の事務局に参加し、建設基金を集める中学生たちもいる。

2. 発電所と朝鮮人労働

LHRの人権学習の中で強制連行の問題を扱う

(1) テーマ 発電所と朝鮮人労働

現在の私たちの生活を支えるすみずみに戦前の朝鮮人労働があったことを県内の事実によって確かめてみよう。

太田川の上流にある大泊（おおどまり）ダムからは下流の下山発電所と加計発電所まで中国山地の山の中を、約13.1キロの導水路トンネルが掘り抜かれています。これらは戦前に朝鮮人労働者の手で掘られたもので、今も使用されています。私

たちが電力の恩恵を受けるまでにはどのような歴史があったのでしょうか。

(2) 太田川上流に発電所建設

満州事変を境に軍部は「戦時電源確保」を急務とし、呉海軍工廠と徳山軍需廠向けのダム・発電所の建設を急ぎました。図の○印が戦前、朝鮮人・中国人の労働によって建設された発電所です。古いものから並べると、間野平発電所（大正12年）、加計発電所（昭和3年）、下山発電所（昭和8年）打ち梨、土居発電所（昭和12年）。吉ヶ瀬発電所（昭和15年）、安野発電所（昭和19年）、となります。特に安野発電所は中国人強制連行（約340人）の労働現場でもあります。ちなみに、これらの発電所の導水路トンネルを全部あわせると42kmになります。

はじめは国内の朝鮮人労働者が中心でしたが、「国家総動員法」（1938年）以後、朝鮮人・中国人の強制連行が加わった。

(3) 大泊ダム爆発事故

1934（昭和9）年8月、ダイナマイト詰め込み中の爆発で25名即死（日本人11／朝鮮人14）、負傷者（日本人2／朝鮮人6）。この事故から何を受けとめればいいのか、遭難者の実態を正確にとらえよう。

このダム工事には約1200人の朝鮮人労働者がいたのだらうといわれています。遭難者の割合からも当時多くの朝鮮人労働者が土木工事に従事してい



ました。また、日本人遭難者の住所を見ると地元中野村の人はわずか3人でそれも飛んできた岩石で死亡した人とけが二人です。このことは当時、土木工事に地元の人が多くは働いていないことを示します。地元の証言で土方はふうが悪いということですよ。とどこの現場でも聞くことができます。「私らは御百姓なのだ」という明治（江戸）時代の差別観念とつながっているようです。私たちは今、当たり前のように利用している道路や鉄道、電力、水道などの土木事業がどのような背景で建設されたのか、特にその労働を担った人々の歴史を中心に、しっかりと見つめ直すことが必要です。

（４）新聞記事にみる朝鮮人労働現場

図書館にある新聞マイクロフィルムから、明治・大正・昭和20年までの朝鮮人関係の記事を見つけて県内の労働現場を確認すると図のようになります。鉄道・ダム・発電所・上下水道・炭焼き・河川改修・工場・軍事施設、などなど。これほど多くの現場（私たちの足元）で朝鮮人労働があったことを歴史の事実として見直してください。

（５）まとめ

「朝鮮人労働者はかわいそうだった。」という見方をもっていないませんか？それはたしかに、実際には私たちが想像しきれないほどの苛酷な労働であったことは事実です。しかし、なぜ、日本のいたるところに朝鮮人労働があるのか。当時、「われわれは御百姓だから土方仕事はしない」という身分制の意識が強く、土木工事で賃金を得ることを「恥」と思う社会意識がありました。そのために、土木工事の労働者は決定的に不足していました。明治政府は北海道開拓に囚人を動員し、民間の下請け会社は出稼ぎ労働者と朝鮮人の募集で労働力を補充したのが現実です。土木作業を低位にみることは日本の社会構造から始まった差別意識です。朝鮮人差別の背景は日本社会の構造に原因があったということに気づき、その責任を考えてみましょう。

（６）補足

朝鮮人労働者が日本で働きだした時期は、1910（明治43）年の韓国併合以前にすでに始まっています。不足する建設労働者を国内の出稼ぎと朝鮮人労働者で補うという構造そのものは戦後に至るまで変わっていません。しかし、それが「強制連行」であったかという微妙な問題ですが、いわゆる「強制連行」は1938（昭和13）年から始まった「国家総動員法」、及び翌年の「国民徴用令」などによって法的に強制された労働が始まった時期のことを一般的には言っています。

したがって1943年までは（1942年に官斡旋、1944年に徴用、という方法に変わります）すべて「募集」という方法で企業から派遣された「募集人」や仲介屋が朝鮮および国内で職業斡旋をするという形で人集めが行われています。よって、職業選択の自由はあったといえればあったわけですが、実情から言って建設現場がほとんど朝鮮人労働者を必要としていましたから、どこにいても結局「土方労働」に変わりはなかった（仕事場の選択はできたかも知れないが職業の選択ではなかった）ということだと思います。

さらに、最近「強制連行」のとらえかたを大正頃まで拡大すべきだと言われているのは、その労働実態がダム・発電所などの建設現場において「タコ部屋」とよばれる形の“つながれた労働”であったという性格によります。企業は「請負師」を通して労働者を管理しますが、うかつに逃亡されてはさらに困るため、飯場や道筋に見張りをたて、夜はカギをつけて宿舎に閉じ込め、逃亡者を捕らえるとみせしめのリンチを加えました。不足する労働者を確保するためのこうした“強制”はむしろ昭和初期の労働において苛酷であったといわれ、その意味では「強制連行」は一貫していたと言ふべきです。

つまり、国が法的に強制した「強制連行（強制労働）」と企業が実態として“強制”した「強制連行（強制労働）」がある、ということで、性格は多少違っても実態は変わらなかったということです。

第3分科会

記録と保存

会場 文化センター4F 茶室

時間 18:00～21:00

参加者 41名

司会 兵庫 ソウウンシュク

記録 岐阜 坂井牧夫

【はじめに】

開始にあたり、参加者全員が名前と活動内容を簡単に自己紹介し、『記録と保存』の分科会はスタートした。各々20分での3つの報告とその他のアピール、自由討議という形で、3時間は中身の濃い、充実した分科会となった。

【報告1：奈良県立里鉱山での聞き取り調査】

奈良・発掘する会の川瀬です。朝鮮人の強制連行について、吉野郡野迫川村・立里鉱山の銅山での聞き取り調査の報告をします。



＜調査経過＞

北海道に強制連行され、その後奈良県へ転属された朝鮮人の名簿が北海道開拓記念館に残されており、その被連行者リストから聞き取り調査を開始した。連行当時の居住地は朝鮮の4道にまたがっていたが、京畿道江華島に集中していることから、江華島にある役場を中心に、生存者の有無確認を95年10月に依頼した。9面庁のうち7面庁から返答を受け、うち5面庁から生存者の報告を受けた。

＜歴史的背景と調査結果＞

立里鉱山は住友鉱業傘下の金屋淵鉱業所が採掘する銅山で、かつては近畿地方有数の銅山だったことが地元での聞き取り調査で判明した。

韓国での聞き取りにより、不明だった点が徐々にあきらかになった。

①立里鉱山には隣接地の紫園で採掘した銅の選鉱所があり、ここにも朝鮮人労働者がいた。

②証言者4人はいずれも逃亡した。労働環境の厳しさと、朝鮮人の抵抗の強さを痛感した。

③未払い賃金

④慰安所について

⑤連行の実体と解放の様子

＜今後の課題＞

①強制連行された人々はどんな階層の人であったのか。

②強制連行された人々が、解放後どのような生活を送ったのか。

③韓国社会ではどのような歴史認識が築かれてきたのかの把握。

【報告2：中部地方での朝鮮人強制連行】

静岡の竹内です。二つのことについて、手短にお話しします。

(1)中部地域に朝鮮人がどれくらい連行されてきたのかという調査結果。

(2)全国交流集会で、連行場所と連行企業の集約したデータの蓄積ができないかということ。

はじめに静岡県内の保存と記録をめぐる動きを紹介します。

＜保存＞

1991年に「記録する会」を結成しました。活動を進めるなかで、掛川市にある中島飛行機の地下工場跡を、掛川市に93年、700万円の予算をつけ

させ、調査をしました。

<記録>

①94年『史跡が語る静岡の15年戦争』青木書店

②95年『癒されぬ過去』朝鮮人の聞き取り調査
の記録出版

③ 〃 『静岡県史』資料編に強制連行の記録を
掲載させる

④ 〃 『近代史研究』雑誌にレポート発表

⑤ 〃 『敗戦50年展』で強制連行のパネル展示

(1) 中部地域の朝鮮人強制連行

資料にあるような数字なのですが、聞き取り調査をするうちに全国各地の地名が出てきて、皆目分からなくなりました。朝鮮人が日本各地を点々としています。また中国人が強制連行されたところには、その前に峰の沢の例にもあるように朝鮮人が連行されてきていました。中部地域全体の把握は極めて困難です。静岡県内は一応歩いてわかりましたが、愛知県・岐阜県となると、歩いておらず土地勘もなくお手上げの状態です。ここではそれぞれ各地からいただいた情報をまとめてみました。

静岡県下の地図に確認した連行場所をポイントしました。慰安所については◎で示しました。

大井川の殿脇慰安所は日本発送電が38年から45年にかけて作りました。静岡市二丁町には徳川時代からの遊郭があり、そこには南方に送られるはずの慰安婦が100人ばかり入れられていましたが、静岡空襲で全員が焼死しました。

慰安所に送り込まれた朝鮮人女性の数は一覧表にした8,500人と表に入らぬ1,000人を含めて、約10,000人。土木関連の連行された朝鮮人は、1939年から1946年の6年間で、15,000から20,000人ということになります。

(2)全国交流集会で、連行場所と連行企業を集約したデータの蓄積ができないかということ。

これに関しては、各地の調査を集約したものを全国地図にしていこう、お互いにデータを持ち寄るシステムを考えてほしいと提言しておきます。戦争責任を考え、歴史認識を変えていくための基礎資料として。

【報告3：もうひとつの歴史館・松代】

長野県松代市の「もうひとつの歴史館・松代」復元移築する会の黒崎です。

<運動のあらまし>

1991年夏に、松代大本営の慰安所建物保存運動が起きました。年間約10万人が松代大本営の象山地下壕を訪れますが、地下壕の中に入っても、その意味を理解しないままに帰る人が非常に多いのです。そんな時、かつての紡績工場の娯楽施設で、大本営造成中に慰安所にされていた建物を取り壊されることを知り、解体・保管・復元・移築して、後世に歴史の事実を知らせようという運動が起こったのです。

この慰安所には朝鮮人の女性が数名いました。その中には、「看護の仕事だとだまされて、連れてこられた娘もいた」との証言を得ている人もいます。強制連行の事実・慰安婦のことを知る入門学習の場として、この慰安所を残そうという運動になったわけです。

<復元・移築計画>

象山地下壕の近く、現在は「お休み処」となっている土地を80坪、移築予定地として確保することができました。床面積は40坪。

外見は当時のままに再現し、内部の慰安施設は当時の材料で、天井まで届かない間仕切りをそのままに復元し、半分を展示スペースとする予定です。企画展示を行ない、強制連行・慰安婦ことを学ぶ学習のきっかけ、情報・知識・資料を提供する場として、戦争に関わりのない世代にも事実

を伝える場としたいのです。自分達の歴史を知り、これからつきあうアジアの若い世代の人々との良い交流の場としたいのです。

松代は真田の歴史の街であり、太本宮の街でもあるのです。地域がらみで、歴史の事実を知り、情報センターの役割を果たしたいと計画しています。松代のことだけでなく、奈良の強制労働、静岡の強制連行・全国の情報をも、象山地下壕を訪れた人々に伝えていきたいのです。

<お願い>

この復元・移築にかかる費用はおよそ3000万円です。現在400万円の寄付を集めました。建物は解体し、保管してあります。

1998年2月に、長野オリンピックが開催されます。その時までに完成して、開館したいのです。世界から多くの人が集まるときに、松代の歴史の事実を伝えていきたいのです。寄付をお願いします。お金が足りません。ご協力ください。先ほど述べたように、全国の都道府県別の資料を提示できる情報センターとしての機能をも意図しているのです。

【アピール】

- ①神戸電鉄の朝鮮人慰霊碑の建立。
- ②三重県木之本で虐殺された朝鮮人の慰霊碑建立。
- ③福岡の忠魂碑と慰霊碑問題。
- ④上海爆弾事件の朝鮮人慰霊問題。



【自由討議】

<戦後補償の問題>

ドイツと比べてとても遅れている「戦後補償の問題」をどう打開していくのかという課題が残されていると思われる。

40兆円もの軍人に対する補償にたいして、民間人には補償がされていない。若い人にきちんと話していけば、そのことはやらねばならないという言葉が出てきます。対外的な補償についてのシステムについても、今後は調査・研究していくべきではないでしょうか。

<金子マーティン氏の発言>

こうした場で日本とドイツの比較の話が出ます。わたしはオーストリア人です。ドイツの戦後補償が素晴らしいと言うのは大変な間違いで、聞き捨てならないことです。もちろんドイツはある程度、補償をしているけれど、それはまったくやっていない劣等生の日本と比べて補償しているのであって、ちゃんと補償しているなんてとんでもないことです。よく日本の研究者やマスコミは日本とドイツを対比させてこうした論調で物を言いますが、日本とドイツの相違点はただ一つしかないのです。

日本とドイツの相違点はただ一つです。しかしこの相違点は極めて重要です。その相違点は何かということドイツは1951年9月の段階で、戦争責任を認めたのです。それと同時に被害者に補償を約束したのです。被害者に謝罪すること、補償することはスジなのです。当たり前のことなのです。戦争責任も認めなくて相手に補償することなどできるはずもないことです。

だけど日本政府は戦争責任を認めない。世界中が日本の戦争責任を知っていますよ。知らないのは日本人だけです。しかし日本の政府はそれを絶対に認めたくない。反対にアジア開放の戦争であったとか聖戦であったとか何とかいって侵略戦争で

あったことを認めない。

ここにいる皆さんはそんなことはよく知っているけれど、多くの日本人、かなり多くの日本人は侵略戦争であったことを認めない。このことが昨年は非常に論議されました。これはおかしくて笑ってしまいますよ。

なぜならサンフランシスコ講和条約を署名したとき、日本は侵略戦争であったことを認めているのです。11条にちゃんと書いてあります。それを当時の日本政府は認めたのです。しかし日本政府はいつも二枚舌です。1986年の中曽根政権の時も、「東京裁判の判決にしたがい、侵略戦争であったと認める」ということを内閣統一見解として、公にしているのです。それなのに今頃になって奥野だとかのアホな発言が飛び出してくるのです。

私は日本に多くの市民団体があって、いろいろと活躍なさっていることには敬服します。30数件の戦後補償裁判も起こされています。私は敗北主義者ではないけれど、こうした裁判には勝ち目がないと思います。なぜなら、根本の処で国家の責任を問う姿勢にかけているからです。国家の責任を、きちんと取らせる活動をしてください。私は在日外国人として、手足を縛られています。皆さん日本人で、国家の責任を追及してください。

以上です。

日本の戦争責任がどうして曖昧にされてしまったか。天皇が免責されてしまった背景を考えながら、責任追及をしていかねばと思いますが。

<金子マーティン氏の再発言>

日本は自由な国です。何をいっても自由です。言論の自由な国です。「侵略戦争ではなく、聖戦であった」「従軍慰安婦は商行為であった」といってもまったく自由です。もしドイツの政治家がそのような発言をしたら、翌日から政治生命はありません。しかし日本では、奥野が1986年からあの

ようなことを言い続けて、そして堂々と政治家を続けています。そうした政治家を選んでいるのは誰なのかということを問いたいですね。少なくとも私ではありません。私には選挙権がありませんから。

※金子マーティン氏の発言は、私たち日本人の生き方・姿勢を厳しく問いかけるものであった。

世界では通用しない歴史観の中で生きているということは、戦前の日本帝国主義そのままの社会が継続していることであり、「いつか来た道」を再びあゆみ始める危機を内包している。

【全国交流集会のネットワーク化について】

静岡の竹内さんから提言のあったネットワークの問題は、まさにこの交流集会がネットであるから、それをうまく機能させて行きたい。

世話人会の飛田さんから

- ①各地からの報告をA4サイズに統一する。
- ②一枚のペーパーではなく、冊子の形態にして、保存可能にする。
- ③将来的には、パソコンのインターネットで繋いで、全国の情報を集約する。

という方向で、第8回大会に臨んではどうであろうかとの提案がなされた。



第四分科会

「強制連行と地下壕フィールドワーク」

- 分科会場～瑞浪市釜戸町（水月旅館）
- 見学地～紅葉山地下工場跡地（釜戸町）
戸狩山地下工場跡地（明世町）

全国各地から参集した二十数名。各地で強制連行の調査を進める方々のほか、教職員に混じって大学生の姿が見られた。

- 基調報告・与語潮（愛知県一宮市）

「明世の地下壕と私」

私は中学生の頃、母の実家（土岐市）近くの戸狩山周辺には戦時中に朝鮮人と中国人によって掘られた地下軍需工場跡地がある事を知った。

早速、訪れた地下壕跡地があの「戦争の傷痕」として、強烈な印象を私に与えた。

1975年の春、名古屋学生センターの「近代日朝関係史（アジア講座）」を受け、「日本による侵略・強制連行を言葉で学ぶだけでなく、足元にある歴史と向き合う必要がある」と思い立ち、戸狩山周辺に掘られた地下軍需工場跡地の周辺を訪れた後、「日朝の歴史を記録する会」を仲間と共に結成し、各地の調査を通じて日朝問題を考えるようになった。

1990年1月、名古屋のピットム（血と汗）の会員と共に、戸狩山地下壕と紅葉山地下壕の調査結果を、資料集「ピットム」地下軍需工場建設と朝鮮人強制連行の記録（付・米軍戦略爆撃調査委員会報告・抄訳）として、発表した。

また、1992年には市が進める「地球回廊」の整備計画に対し、「非道のあかしを消すもの」と反発、建設の中止と案内板の設置を求める運動を地元の市民グループの方々と共同して、行ってきたが、現在は「岐阜県朝鮮人強制連行調査団」と「岐阜県地下壕研究会」がこの仕事を引き継いで、その実態調査を行っている。

戦後半世紀を過ぎた今も、各地には強制連行の史実を刻む歴史が残っている。

この分科会ではその保存に関連した発言や「地球回廊」の評価とその案内板に関する発言があった。以下は各地からの現状報告をレポートする。

=太古のロマンが

漂うまち = 歴史の真実は・・・

- この釜戸に来る途中の陸橋に「太古のロマンが漂うまち」と書かれた看板を見かけたが、その現場である戸狩山一帯や「地球回廊」の周辺は強制連行の跡地でもある。

歴史を歪め、犠牲者の痛みを理解しない案内板でもある。地下壕跡地の保存に関心がある

（家保達雄・高槻市）

- 夜間中学校に勤めている。この地を訪れるのは三回目になる。以前の「懐古洞」の看板に代って「化石の地下壕」の説明板になっているが、説明には問題点がある。

頂いた資料を使って、地下壕と強制連行史を教材化することを考えている（足立龍枝・吹田市）

- 地域に強制連行の足跡である朝鮮人の宿舍跡が残され、そこにはレンガの土台が散乱し、歴史の重みを感じる場所になっている。

今は強制連行のあかしとして、保存することが検討されている（寺元耕二・箕面市）

- この地域にも強制連行の傷痕が残っている。この問題を「人権問題」の視点から、捉えると何が失われたのか。その加害の本質と歴史に迫ることができ、実態も分かってくる。

教育の現場でも、強制を示すこの資料が活用できるのではないかと（高井・滋賀県）

●関門トンネル工事に従事し、犠牲となった朝鮮人を供養する慰霊碑の建立運動を進めている。

また、1995年10月26日、日本軍の性奴隷にされた韓国の文玉洙さんが亡くなったが、彼女が残した「軍事郵便貯金」の通帳が確認されたが、その支払を求めた支援活動を行っている

(大谷正穂・下関市)

●松代の地下大本営跡地の調査に参加したことがある。そこには過酷な労働に従事した朝鮮人が刻んだ歴史があることを知った。

(黒川、野村・富山県)

●松代の地下壕調査に加わり、朝鮮人体験者の聞き取り調査を行った。この地下大本営の戦争史跡を後世に残すべき保存会をつくる運動にも参加している(平川、鈴木ほか・長野県)

●あすの釜戸と戸狩の地下軍需工場跡地のフィールドワークに期待して参加した。頂いた資料の全てが貴重な資料である。この資料を多くの仲間にも広めたいと考えている(志摩・高槻市)

強制連行の歴史を刻む各地の慰霊碑文について調査をしたり、強制連行された中国人の証言を集めたり、その追跡調査を行っている田中憲助氏(八王子市)からは、1995・8・12に行われた「95平和のための証言集会」に招かれた中国人楊福堂氏の証言が報告された。

彼らは、1944・6月日本へ強制連行された後、信濃川千手出張所(西松組)へ移送される。

その後、御岳ダム工事場の作業を経て、瑞浪間組出張所へ移送されている。1945・8・15を戸狩山地下工場建設現場で迎えている。

彼等が受けたであろう心と体に残した傷痕を語る彼の証言は大きな重みがあった。

彼らの前任地であった木曾谷のダム工事現場は寒冷地に加えて、極端な食料不足と重労働、偏見による虐待を受けてきた結果、大半の労務者は病気の悪化によって廃人同様のまま、戸狩山の地下工場建設現場へ移送されてきた。

狭間と棒ヶ洞に建てられた粗末な華工収容所は「座シテニ・三寸空ケレバ良シトス。入浴ノ設備ノ必要ナシ」の劣悪な環境であった。「間組」が支給する粗悪なパンが生命を維持する全てであったが、病める体に「モッコ」担ぎなどの過酷な労務を強要した結果、敗戦までの五ヶ月の間に移送された330人中、病死と事故死を含めて39名の犠牲者を生む現場であった。

この報告を行った田中憲助氏は全国の中国人殉難者慰霊碑を訪ねて、この史実を「強制連行・強制労働を考える」の冊子にまとめている。

なお、この地は千数百人の朝鮮人強制連行・強制労働が行われている。今、その実態と調査資料が各調査団の手で報告されている。

写真(1)



分科会場・報告に耳を傾ける参加者(釜戸組)

参加者の声・・・いろいろな

ご意見を有難うございました。

- こんな会があることを知らなかった
『強制連行を考える全国交流集会』
- 「墓碑」の案内板の文言を巡って
『日中不再戦の碑』
- 地下壕見学の印象など・・・

● この会に参加するまでは、強制連行については「化石山」（岸武雄著）という物語でしか知りませんでした。非常によく書かれた物語ではありますが、私と強制連行との間にはかなりの距離がありました。この距離が交流会での話や見学などを通じて縮まった感じがしました。

分科会では全国各地から大勢の方が参加して見ましたが、この会の存在すら知らなかった自分にとっては大きな驚きでした。

交流会では各地の強制連行・強制労働の事実を丹念に調査され、報告では事実から確固たる自分のものを持って発表してみえました。

翌日の釜戸と戸狩の地下壕見学は本物の持つ威力に圧倒されました。話に聞いていても、実際にみた手掘りのトンネルを短期間に掘ったという意味は重いと思いました。作業に携わった朝鮮人や中国人の「うめき」が聞こえてくるようでした。

また、子どもたちが地下壕見学の時には当時の苦労話を聞かせて頂いた梁弘淵氏との出会いも忘れることができず、私と子どもにとってすごく意味のある日でした。

今、教科書問題で論争が起こっています。日本の暗い過去ばかりを教えるのが「自虐的」という主張のようです。しかし、私はこの歴史的事実を真正面からとらえて、自分の頭で考え、判断できる子どもを育てることが重要だと学習を終えた今、改めて思っています。

（遠藤恵三・岐阜県恵那市）

● あの戸狩山の麓にある「墓碑」の前で、文言について議論がありましたが、やはり私も事実と合わない表現であると思います。

「地球回廊」「化石の地下壕」の案内板の文言「強制連行された朝鮮人や中国人・・・」「朝鮮人及び中国人の強制労働によってつくられた地下壕の一部」には主語がない、つまり強制連行、強制労働を行った「主体者」は誰なのかが不明であり、その曖昧さにも腹立たしい思いがします。

その主体者（主語）に当るものとしては、「日本政府」「企業」「日本軍」「警察」の複合体となります。これらを含む「天皇制帝国主義」がアジア侵略の張本人と言えます。

今もって、日本は経済的にアジア諸国を侵略して、その労働力を搾取し、利益を収奪し、その国の文化や環境を丸ごと破壊しています。

残念なことに、「犠牲者の人達に報い、その供養になる」と、当時の市長が言った象徴的な施設「地球回廊」は強制連行と強制労働の史実を覆い隠す働きをしています。

（黒川敦子・富山県）



地下壕見学に集う人々（瑞浪市釜戸町）

● さまざまな立場の人達から、貴重な報告が聞けたと思います。八王子市の田中氏の「碑文」の調査など、参考になります。

釜戸の地下壕は岩盤が柔らかいとはいえ、よくもあそこまで掘り進めたものだと感心します。

過酷な労働を強いられた朝鮮人の悲憤は想像するに余りがあるものです。現場に残された「二段掘り」の跡など、痛恨な歴史の資料として貴重なものです。

戸狩の地下壕内に入って感じたことは、その規模の大きさに圧倒されました。朝鮮人と中国人を約五ヶ月にわたって酷使した結果である。

中国の諺の「前事不忘・後事之師」その確たる証として、市民へのアピールや保存運動を進めることが、必要であると感じました。

(家保達雄、大阪府高槻市)

● 一人一人の言葉が聞けてよかったです。時間があれば皆さんと親しくなれたと思います。

手掘り、手作業の地下壕を様子がよく理解できました。家族と共に生活していた朝鮮人たちの住居と食料の話がよかったです。

今でも一世のハルモニ達は春になるのを待ちかねて山菜採りに出かけます。地下壕の入口付近に山菜がたくさんあったのも印象的でした。

「地球回廊」の二枚の看板と「化石の地下壕」の看板に強制労働の事が書かれていましたが、あれだけを行政に書かせた市民グループの方々の努力は貴重なものだと思います。

(足立龍枝、大阪府吹田市)

「地球回廊」の整備計画に対し、「非道なあかしを消す」の声。瑞浪市長は「平和利用する事が犠牲者の供養になる。案内板で掘られた経緯を利用者に知らせる」「犠牲者の努力が平和的な施設に変わった」と、語った。

全国各地から、瑞浪（釜戸町・明世町）の地へ参集し、この分科会を盛り上げて頂いた皆さんに厚くお礼を申し上げます。

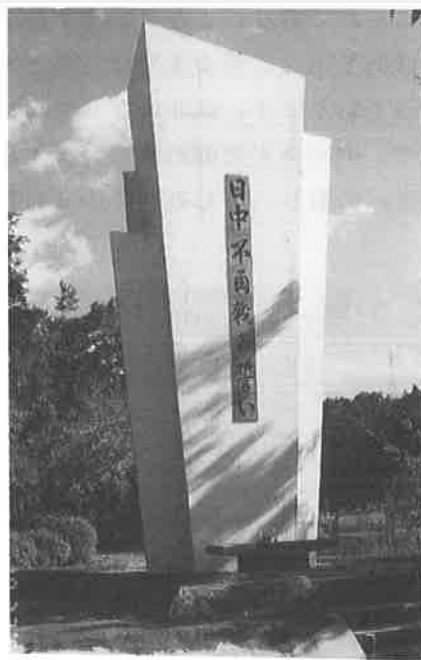
この会に初めて参加し、貴重な体験を全国の仲間と共に過ごした遠藤恵三先生、この地を三回も訪れ、犠牲者への思いを語って頂いた足立龍枝先生、中国人殉難者の墓碑（文言）について疑念を持たれた家保達雄氏、中国人強制連行・強制労働の調査と研究を精力的に続け、貴重な報告をされた田中憲助氏など、全国で活動される皆さんからの調査内容や現況を報告して頂いたことが縁で強い絆が生まれ、今後につながる交流の足掛りができた事を大変、喜んでいます。

今、一部の政治家や学者が唱える歴史は国益に奉仕し、教育が国家意識を養うと主張する「自由主義史観」が批判的になっている。

今後はこれらの主張を破綻させる調査や研究成果がより重要になってきます。

いろいろ有難うございました。 1997・3・31

岐阜県地下壕研究会代表 加藤 明（贇）



戸狩山の頂に建つ「日中不再戦の誓い」の碑

市民講座 歌とトーク

歌でつなぐアジアの心

歌； 佐藤優美子

ピアノ；江口 順子

話；森 正孝

新美 隆

松井 英介

沈 美子(シム ミジャ)



♫ (歌) ♫ 松花江上(ソ フアン ジャン シャン) ♫

〔佐藤〕 これは「ソフアン ジャン シャン」という中国の抗日の歌です。キューイーパー（9月18日）いわゆる「満州事変」が起こった日を歌い、日本軍によって、松花江という川のほとりの肥沃な土地から追われてしまった中国の人々の気持ちを歌ったものです。

それでは、初めに映画「侵略」を撮り続けていらっしゃる静岡の森さんから話を伺います。

一貫した侵略戦争

〔森〕 この歌は、国歌に次ぐくらい中国の人々に大切にされており、小さな子どもからおじいちゃんおばあちゃんに至るまでほとんどすべての人々が知っております。東北ばかりでなく、南の方を含めて、中国全土で歌われています。中国の人々の戦争への怒り、苦しみはこの9月18日から始

まったのです。そして、この戦争は、1945年8月15日に終わるのですが、私たちはこの戦争を「15年戦争」とやっと呼ぶようになりました。この「15年戦争」というのはただ単に15年という期間を表すだけではなくて、それまで、「満州事変」「日華事変(日中戦争)」「太平洋戦争」と切れ切れに考えていたものを、一貫した侵略戦争と見るべきだとして、この「15年戦争」という名前が提起されたのです。

この戦争で一番大きな被害を受けたのは、中国です。アジア全体で3千万人の内、91年に中国の戦争史学会がまとめた日本軍の被害者の数は2千万人でした。その結果私たち日本も3百万の被害がもたらされたと理解すべきだと思います。

南京虐殺の被害者であるカーシュンキンさんが、押し入ってきた日本兵に11人の家族の内、9人を殺されたと証言した後で、私に言われました。

「なぜ私はこんな目に遭わなくてはならないのでしょうか。私たちがあなた方に何をしたのでしょうか。もし、私の国や私の民族が、日本や日本の民族に何か被害を与えるようなことをした、あるいは悪いことをしたのなら、こういうことをされることは、いたしかたのないことかもしれません。しかし、私の国、私の民族があなた方に一体何をしたのですか。」これがアジアの人々にとってのこの戦争の全てです。ある日突然、愛する家族兄弟たちの命がむしり取られていくのです。この理不尽な死を日本の国家が強制したのです。これがまさに、侵略なのです。これが侵略戦争の



本質なのです。

続いて佐藤さんに歌っていただきます。

[佐藤] これから歌う歌は「うさぎ狩り」という方法で、拉致、連行されて、突然姿を消した劉連仁さんを思い妻が歌うラブソングです。

♫ ♫ (歌) ♫ はるかに愛する人へ ♫ ♫

つぎに、劉連仁さんのこと、「花岡事件」のこなどを新美隆さんに話していただきます。

強制連行の全体像

[新美] 始めに佐藤さんが歌われた「わが家は東北松花江上にあり」という歌は、中国の人々が侵略されたという共通認識を持って、老若男女一緒に涙流して歌う歌です。

劉連仁さんは日本に強制連行された4万人の一人であります。1944年に北海道に強制連行され、日本敗戦の直前、45年7月に脱走し、獣のように山の中を13年間逃げ回り、58年の春に中国に帰られた方です。58年に劉さんが見つけれられたときの日本の総理大臣は岸信介さんでした。岸さんは強制連行当時の商工大臣として、その実質的責任者だったということを大部分の人々は忘れていました。見つけれられた劉さんを日本政府は密入国者ではないかと疑いました。そのとき、劉さんは「私は何者であるかは、岸に聞け。岸が一番知っている」といいました。

58年当時は強制連行について資料などもなく、強制連行なのか、単なる出稼ぎなのか分からないと、日本政府はシラを切り、劉さんは日本政府への賠償の要求を留保し、中国へ帰って行きました。それから30数年たったのです。日本政府が強制連行の事実を認めたのは1994年の6月のことです。前の年に存在が明らかにされた「外務省報告書」を否定できなくなったためです。

このような日本政府の姿勢は、強制連行だけでなく、アジアの人々への色々な問題の根底に横たわっておりまして、これは日本政府とアジアの人々との問題であるばかりでなく、政府を見つめて、監視していかなければならない、私たち国民の歴

史認識も大変歪めています。長い時間が経ってから、かつて足を踏みつけられた被害者から逆に教えてもらわないと、かつて日本が何をしたのか忘れかけているというのが今の実情ではないでしょうか。

中国人強制連行について私は二つの強烈な印象があります。ひとつは私が弁護士としてその代理人をしています「花岡事件」のイメージです。もう一つは劉連仁さんのイメージです。一方は爆発して戦うというイメージ。もう一方は耐えるというもの。

この強制連行の被害者たちが共通して言うのは「家族のこと」です。私たちは被害者は何人という言い方を簡単にしますが、その被害者一人のまわりには必ずその数倍の家族がいます。この事実を私たちは知らなければならないと思います。

また、私たちは強制連行を考えると、日本に連れてこられた四万人という数を思い浮かべがちですが、実は、その歴史的背景には、膨大な強制連行の被害者がいたことが明らかにされてきています。満州国建国のために、日本は膨大な労働力を必要としたわけです。華北一帯から毎年百万人程の人々が、だまされたりして、東北満州に連れていかれて、強制的な労働を課せられました。中国では1935年から45年の10年間に9百万人の人々が満州国に連れていかれたといわれます。その強制連行の一つの遺跡が「万人溝」と呼ばれているお墓です。満州へ連れていかれた人たちをたまたま、日本本土の各軍需工場などへの労働力として、



大企業が連れてきたのが日本への強制連行です。日本へ連れてこられた4万人の背後には、満州へ連れ出された膨大な数の被害者があるのです。

今、劉連仁さんにしても、「花岡事件」遺族の人にしても裁判を起こしました。日本の裁判所がそれに答えられるかどうか。また、答えさせていけるかどうかということは、この社会に住む私たち一人一人の歴史感覚の総和にかかっているのではないかと思います。

強制労働は人間の労働力を搾り取ろうという一面では経済的な行為なのです。最終的に強制連行された中国人を利用したのは日本の企業です。企業のあり方が、いま、問われているのです。日本の戦後の社会の中では企業の戦争責任をまともに議論するという雰囲気はこれまでありませんでした。

経済観念の背後の歴史の問題についても、場合によっては企業のあり方についても、積極的に批判をしていくことも考えていかなければ、日本全体のあり方が歪められていきます。

私たちが本当の意味で過去の過ちを過ちとして、誤った歴史を正して、被害者に対する償いを、償いとして果たして、彼らとの和解を進めていく。そういう努力を尽くすということが将来に私たちが残さなければならない共通の誇り、共通の財産ではないでしょうか。こういう共通の財産を私たちが作っていく。そのために、みなさんと一緒に、考え、行動していきたいと思っています。

続いて、朝鮮人の強制連行の中で性的奴隷いわゆる「慰安婦」にされた人たちの問題について、松井さんに話していただきます。

「国民基金」とその問題点

〔松井〕 昨年の9月に始められた「アジアの女性のための平和基金」が今年の5月になって、岐阜県知事の名前で各部局に下りて、そして教育長の名前で学校現場まで下りてきました。このことについて私たちは公開質問状を出しました。その内容は「クマラスワミ報告」にそった対応の要求と、「上意下達」方式の批判です。

「クマラスワミ報告」は、日本国が性的奴隷を作り上げたのだから、日本国は実態を調査し、被害者には国として謝罪し、国家賠償をし、さらに、その歴史的事実を教育し、責任者を処罰しなさいというものです。ところが、「国民基金」では、いわゆる「善意」に頼って、お金を出してください。こんなに困っている人たちがいるので、それを助けるためにお金を出してくださいだけなのです。

岐阜県の知事、教育長は私たちの質問状に何と答えたかというところ、「内閣官房、国から言ってきたことなので、それを下ろしただけです。ただそれだけのことです。なんら強制をしたものではありません。」国から言ってきたことを、そのまま末端まで下ろすと言うことが強制にはなりませんでしょうか。そういうことが罷り通っているということ。それがおかしいと思うかということが、まずあると思います。そのことが、全国的にあったことだと思いますが、国民的な大きな声になっていないということも一つ大きい問題だと思います。

自分たち自身の中にある加害の責任をはっきり正面から見つめ直そうという動きがどれだけあるのかが今一番問われているのではないかと思います。

沈美子さんがいらっしゃいましたので、登場していただきます。通訳は金蓮洙（キム ボンス）さんです。お二人に出ていただき、ここに座って



いただいて、佐藤さんの歌を聞いていただきます。

〔佐藤〕　ホウセンカという花は種がはじけて飛んで、離れたところに生えてきます。そういう生命力、朝鮮の人たちの民衆の力を歌って、自分たちの抗日の気持ちをまとめていった歌だと思います。

♪ ♪ ♪ ♪ (歌) ♪ 「ホウセンカ」 ♪ ♪ ♪

私たちの尊厳の回復を

〔沈〕　私は日本の侵略戦争時代に拉致連行され性奴隷にされた数多くの人々の生き残りの一人の沈美子(シム・ミジャ)と言います。そのとき、日本軍は朝鮮の津々浦々から、数千名の少女を集めて性奴隷にしました。それらの内、現在韓国で生き残っているのは 157名です。その内の一人が私です。

まだ、小学校の生徒であった数え年15の私を日本軍軍隊にいきなり引き込み、その中に監禁し、性奴隷にしたのです。私が日本軍の性奴隷にされて、6年間に体験したことは語れば切りがありませんが、ここでは民間基金について述べたいと思います。

この間、日本政府は民間基金を募集して、元「慰安婦」だった人々に、慰労金を支払うと言っています。しかし、私たちは受け入れるわけにはいきません。民間募金で集めた 200万円を手渡すということは日本が私たちを強制的に拉致連行した事実を認めないということなのです。私は日本国家の罪科をはっきり問いたしたいのです。私は当時、自らの意志で身を売って、お金を稼ぎに来たのではないのです。小学校の教室で勉強しているところを日本軍に拉致されたのです。そのような肉体の代価は受け取るわけにはいきません。なぜかという、肉体の代価を受け取るということは世界の全女性の尊厳を否定することなのです。今ここにお集まりのみなさんの人権も名誉も踏みにじることになるのです。みなさんも要求しなければならぬことでしょうし、当事者の私自身強く要求しなければなりません。

日本は侵略戦争当時に私を拉致連行した罪悪に



対して、きちんと清算すべきではないでしょうか。どのように清算するかというと、日本政府は国際法に則って真相を究明し、謝罪し、個々人に補償することです。私は性奴隷としての6年間毎日20人から30人、土曜・日曜には40人、50人の兵隊の相手をさせられ続けました。このことに対する補償は断固として日本政府に要求します。また、日本国家がこのことに決着をつけない限り、全世界に向かってこの真実を語り続けて歩きます。

私は日本人の担任の中村先生から「人は勤勉でなければいけない。正直でなければいけない」という教育を徹底的に受けました。私は当時教わったとおり73歳の今もそれを生活の信条として生きています。私は良心を投げ捨て、過去を隠して結婚することができなかったのも、73歳の今まで一人で暮らし、自分と自分の影と共に生きています。私をお母さんと呼んでくれる一人の子どももなく、暮らしています。私はみなさんの前で自分の過去を話しても何も恥じることはありません。恥ずかしいのはむしろ日本国家、私をそのような目に遭わせた日本の恥であって、私は何も恥じることはありません。当時私は幼くて、何もわからなくて恥じることはありません。

みなさんが今後とも私たちの運動を支持していただくことをお願いして話を閉じます。

〔佐藤〕　20年ほど前、初めて「従軍慰安婦」であったことを明らかにした方で沖縄に住んでみえたペポンギさんを歌った歌を歌います。

♪♪♪ トラジ(ききょう)の花 ♪♪♪

崇山村という細菌戦の被害にあった村のことや、鹿島・花岡賠償問題のことなどを話してもらいます。

私たちの戦争責任とは

〔森〕 国民基金を支えている人々は「確かに一部の軍閥、国家に責任があったろう。しかし、それを支えたのは日本の民衆である。したがって、日本の民衆にもなにごとの責任を感じてもらわなければならないから、国民基金なのだ」と言っています。大きな間違いです。

確かに日本の民衆責任はあります。しかし、その責任をどのようにとるかといえば、日本国家に戦争責任をとるように迫ることによって民衆としての戦争責任をとるべきである。それを今課題として突きつけられているのです。

私が今関わっている細菌戦についてもアメリカから返還されたかなり多くの資料が彼らの手元にあります。しかし、彼らはそんな資料はないと、公開に応じていない。事実の究明が私たちの手によってまだなされていないというのが現状です。まず私たちはここから手をつけていかねばならない。私はもう一つつけ加えて、戦争を推進した人間を処罰していく責任があると思います。天皇（制）の戦争責任をどうとらせていくかという課題もある。21世紀に向けてアジアの人々とどのように和解をしていくか。今を生きている私たちがこれを遂行していく努力をしていかねばならない。

「731部隊」の主要な戦争犯罪は「細菌戦」なのです。人体実験にしろ、生体実験にしろ細菌戦をおこなう為のデータ作りなのです。その最も大きな被害地域が浙江省です。ここでも被害者たちがやっと声を上げました。自らの踏みにじられた人権を取り戻したい。人間の尊厳を回復したいと彼らは言っている。

ぜひ手を貸してほしいと私たちに突きつけられた。そしていま私たちは本腰を入れてその運動をしていく決意をしました。民衆の戦争責任の取り方の一つとして、この問題に取り組んでいきたい

と考えています。新美先生が花岡の被害者の提起を受けて戦っておられます。これと連動して戦っていきたいと考えております。あまり時間はないのです。彼らは年老いています。70歳台に入っておられて、半年、3カ月おきに折江省に入ると必ずあるのです。もうあの方はいない。亡くなった。いまこの戦いをすることが、21世紀に向けた日本人の課題だと私は考えております。



自らの問題と同感しよう

〔新美〕 政府が強制の事実を認めてからだいふになります。しかし、現実には生きている被害者の人々はそれでは納得していないのです。被害者の方が我慢に我慢を重ねた結果として声を上げて、その声に目を覚まされるようにして、この問題が取り上げられるようになったのです。

抽象的にそのような事実があったといくら言っても、被害者の方が慰められるということではありません。何百万、一千万単位の人々の具体的な声を私たちはほとんど聞いてこなかったのではないのでしょうか。被害者の人々の本当の意味での名誉の回復が図られるということは具体的な事実を知ることです。

今私たちに問われているのは人間的な洞察力・想像力・感性のことではないのでしょうか。中国の人々が「わが家は東北松花江上にあり……」と歌うときに、泣いてしまう涙が本当に分かるということが、侵略された中国の歴史が分かることです。被害者の老人たちの人生の総括に私たちが立

ち会うことが、彼らとの間のギャップを埋めるチャンスだと思っています。

ロサンジェルスのリトルトーキョウの入口には、ついこの間まで「鹿島守ノ助を讃える碑」が建っていましたが、鹿島守ノ助は戦争中強制連行を実行して当時の社長であったことを知った市民たちは日系人の名誉に関わることだということで、

「鹿島守ノ助に捧げる……」というプレートをはずし、別のものと取り替えました。日系人は彼らのこれまでの戦い（第2次世界大戦勃発の直後砂漠地帯に強制収容させられたことに対する名誉回復の戦い）の歴史の名誉にかけてこの鹿島の血に塗られた歴史を拒否したのです。私たちに今求められているのは、彼と自分の同質性というか、彼が不名誉と感ずることは私たちにも不名誉なことだ、こういった感覚を研ぎすますことではないでしょうか。

沈さんははりっぱな人格だと思います。私は中国人強制連行の人々とも会いますが、みなさんそれぞれ立派な人格です。みなさんも考えていただきたいのですが、もし自分が同じような目にあって、この数十年間自分の精神や身体を壊さないまま、今日までその思いを胸に秘めて生きて来たとするれば、どうやって生きてきたか。たいへん辛い思いを乗り越えて、克服して、生きてきたのだと思います。そういう意味で、あの沈さんのようなりっぱな人格、自分が何者であったかとはっきり言い得るような人の背後には、とても話せなくて、自分の人格をどんどん壊されていった何十倍の人がいるということを忘れてはいけないと思います。

肌で感じて共に動こう

〔松井〕 沈さんが話をしているとき、ふっと涙が出そうになるときがあります。そのときの気持ちを肌で感じとれるとき、彼女が背負った人生のつらさに少しは近づくことができます。教科書に「従軍慰安婦」の記述が出てきただけでは問題を解決したことにはなりません。沈さんの話を聞きながら思うことは、こういう話を子どもたちに聞かせたい。一人ひとりの人生、歩みを知る、肌で

感じるということがまず、ないとダメなのではないかと思います。

企業の基本的な考え方は戦前、戦中、戦後と一貫して変わっていません。そこのところを見ていかなければいけないと思います。いろいろ美しいことばで飾りますし、その嘘をどのようにして見抜いていくかということが大事だと思います。

外務省報告書の元になった事業所報告書がこんどの強制連行展で初めて一般市民の前に展示できました。このようにして、歴史を明らかにしていくことが必要なのではないのでしょうか。

細菌戦についても、毒ガスについても、いまそういう動きが中国あるいはアジアの国々ではどんどん出てきています。裁判に持ち込む動きがどんどん出てきています。これが戦後50年、51年の動きだと思います。それに対して、私たちはどう答えていくのかというところが一番問題なのではないのでしょうか。

戦争責任は自分たちの中にあることを曖昧にし、沈黙を守りながら許してきました。新たな形の差別と、人権蹂躪を許していくようなことが自分自身の中にあることを感じています。

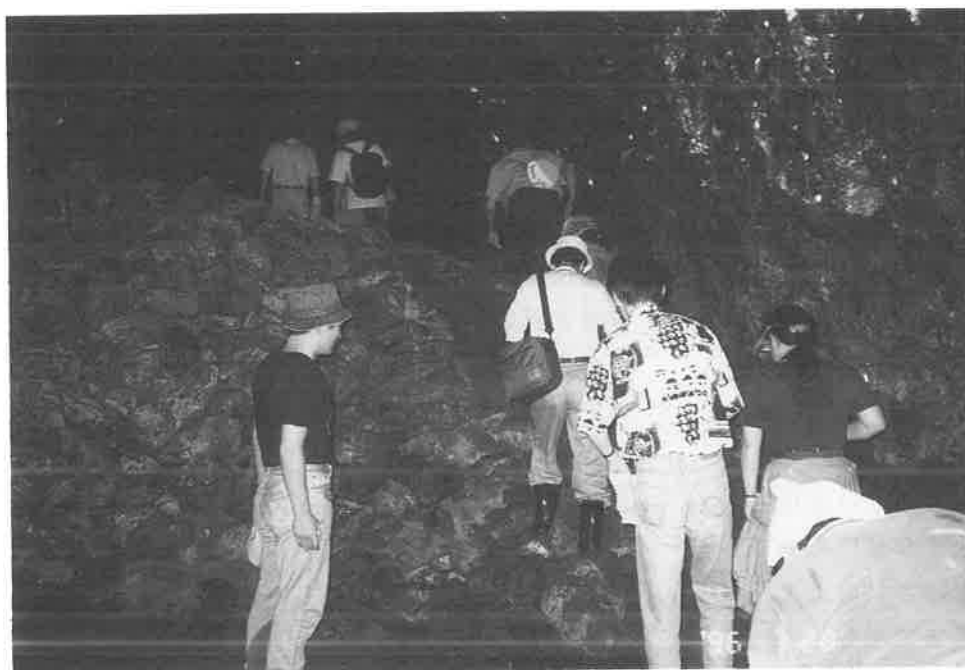
〔佐藤〕

♪ ♪ ♪ (歌) ♪ 太陽の旗 ♪ ♪ ♪
♪ ♪ ♪ (歌) ♪ (月桃の)花 ♪ ♪ ♪
♪ ♪ ♪ (歌) ♪ 島 歌 ♪ ♪ ♪
♪ ♪ ♪ (歌) ♪ 歌 ♪ ♪ ♪



強制連行展ぎふ'96
市民フィールドワーク

可児市久々利地下軍需工場跡



参加者募集

7月28日

可児市久々利

強制連行・強制労働の戦争遺跡を
実行委員が御案内をいたします。み

程：7月28日（日）午前10時（
～可児市久々利（歴史、地下工場見学）～

～バス～午後4時（岐阜市文化センター前・解散）
費：1人 3,000円（観光バス料金、
小学生（高学年）以上（定員にな

懐中電灯、長靴（望ましい服装：長
巾着各自持参、又は途中のコンビニにて

先へ電話にて連絡・FAXにて連絡、又
）：林 公子（第7回強制連行全国交流集会・強制連行展ぎふ実行委

☎ 0575-22-4766 FAX
「郵便振替：00810-6-7451

7月28日の市民フィールドワーク（可児市久々利地下軍需工場跡）

生 所（〒 申 込 書
先 TEL 自宅：
氏名
名
職場：
男・女
・中学生・学生・社
男・女
・小学
男・女
・小学
男・...



地下軍需工場跡見学



見学してみませんか。子どもたちの夏休みの勉強にも最適です。
 皆さんの御参加をお待ちしています。

岐阜市文化センターの強制連行展受付集合・出発) ~バス
 見学して見ませんか。子どもたちの夏休みの勉強にも最適です。
 皆さんの御参加をお待ちしています。

岐阜市文化センターの強制連行展受付集合・出発) ~バス
 見学して見ませんか。子どもたちの夏休みの勉強にも最適です。
 皆さんの御参加をお待ちしています。

岐阜市文化センターの強制連行展受付集合・出発) ~バス
 見学して見ませんか。子どもたちの夏休みの勉強にも最適です。
 皆さんの御参加をお待ちしています。



《特別企画》

岐阜市文化センター小劇場

7月27日(土) 10:00~

主催:「強制連行展ぎふ'96」実行委員会

製作・監督○ビョン・ヨンジュ

1995年○韓国映画○16mm
○カラー○ドキュメンタリー○98分

ナヌムの家

アジアで女性として生きるということ—2

従軍慰安婦の今を描く映画
「ナヌムの家」を製作、監督した

ビョン・ヨンジュ
永妊さん

「ナヌムの家」は本人の処女作であると同時に、韓国女性性が初めて、従軍慰安婦問題に取り組んだ作品。昨春韓国で上映され、一カ月に一万五千人を動員、日本でも山形国際ドキュメンタリー映画祭で「小川紳介賞」を受賞した。東京国際映画祭や多くの海外映画祭で招待作品として紹介されている。



「私自身が従軍慰安婦のことをあまり知らなくて彼女たちにわびたい気持ち。それがこの映画を撮る動機です」。上映後、若い世代が共感してくれて、映画の主人公であるハルモニ(慰安婦)たちが襲んでくれたことが「うれしかった一面」。

ハルモニたちは身近な問題、と伝えたかった

タイトルの「ナヌムの家」はソウルにあるハルモニたちが共同生活を送る家。最初は「ハルモニたちのことは過去彼女たちの同意を得ることができず、一年半、スタッフと通い詰めやっと撮影できた。ハルモニたちによる水曜日の日本大使館への抗議デモから、中国・武漢に今も残る元慰安婦たちの衝撃的な証言。見た人が自分たちの歩んできた過去をどう見るか、問題提起の映画にします」。

「ナヌムの家」をみてきました。韓国の若い女性監督ビョン・ヨンジュ(1966年生まれ)のドキュメンタリーです。(ナヌム)は(分かち合い)。主人公はソウル市内で、仏教団体の支援を受けながら共同で暮らしている年寄った6人のオモニたち。皇軍に強制され、一日何十人もの日本人の相手させられた「慰安婦」。

彼女たちのいまいましい表情は、奥野・板垣妄言や「国民基金」の欺瞞を打ち砕いて余りあります。カメラは、中国・武漢に捨てられた3人の彼女たちの今もしっかり捕らえています。

まやかしの「慰労金」ではなく、人間としてあつかってほしいという彼女たちの願いが切々と伝わってきます。

7月27日(土)10:00~ 岐阜市文化センターでの上映が決まりました。(英)

キム・スンドク 75歳



パク・オンニョン 76歳



カン・ドッキョン 67歳





重い過去を背負いながら
支えあつていまを生きるハルモニたち
若き女性監督が
映し出す彼女たちの心のつみや
語り尽くせぬ数奇な人生

ハルモニ

撮影○キム・ヨンテク 編集○ハク・コクチ
録音○イ・ヨンギル
音楽○オ・ユンスク○チョ・ジョンヒ
製作○記録映画製作所・ボム・ム
配給○バンドラ ☎03-3555-3987



“Are you
trying to defile
my soul?”

TALKING BACK: Kim Sang Hee
exploded when legislator Tadaaki
Itagaki added insult to injury

VICTIMS OF HISTORY

After years of denial, a debate erupts in Japan over how to atone for the brutalization of World War II “comfort women” from other Asian nations

By ANTHONY SPAETH

AT 75, KIM SANG HEE WAS PLUCKED from her home in Taegu and transported to a “comfort station,” the euphemism for one of the military brothels at which more than 100,000 women—from Korea, China and other Asian nations—were forced to provide sex for Japan’s overseas soldiers during World War II. For eight years, until the war’s end in 1945, she granted her so-called comforts on command, and a half-century later is demanding a different kind of comfort in return: both compensation and an apology from a Japanese government that claims to be contrite.

But Kim, now a fragile 73, received scant satisfaction last week when Japanese Diet member Tadaaki Itagaki, himself a war veteran, accused her in a face-to-face encounter in Tokyo of exaggerating her claim of being a sex slave. The unapologetic

legislator, the son of a war minister whom many hold responsible for stepping up the comfort-woman program in the late 1930s, challenged her: “You weren’t paid anything in your eight years?” Retorted an angry Kim, “How can you ask someone who’s been through life and death if what she says is true or not? After you defiled my body on the battlefield, are you trying to defile my soul 50 years later? I was never paid anything!”

That exchange wound up on the pages of Japanese newspapers and on South Korean television, demonstrating anew the fissures Japan suffers—and is willing to inflict—in its ambivalent attempt to own up to its wartime past. The government has organized compensation packages for some of the former “comfort women,” money raised entirely from private sources, and the modest amounts were announced on the day of Kim’s encounter with Itagaki. Earlier on the same day, 116 legislators from the Liberal Democratic Party, the

dominant coalition partner, formed a league to criticize school textbooks that portray the army negatively, specifically calling for the deletion of all references to the comfort women. The group’s chairman, former Cabinet minister Seisuke Okuno, told a press conference that the women in question were just plain laborers in the world’s oldest profession. “If Japanese forces may have arranged to transfer them to their jobs on the so-called front,” suggested Okuno, “but didn’t let them to go.”

The records don’t back up Okuno, or disavow Japanese, many of whom we discovered by the week’s events. Prime Minister Ryutaro Hashimoto was caught between public opinion and his conservative party. Just hours before he released details on compensation packages for ex-comfort women, Okuno announced the formation of his group, and the timing was an outrage: the rights are against government payments and, more important, any li-



日本軍 '慰安婦'
法的責任 移行
韓国挺身隊問題対策協議

Punishment to the Criminals
of Sexual Slavery in Japan
Korean Council for the Homecoming
for Military Sexual Slavery in



FREED SLAVES: After capturing Myitkyina, Burma, in August 1944, American soldiers discovered this group of Korean comfort women

50

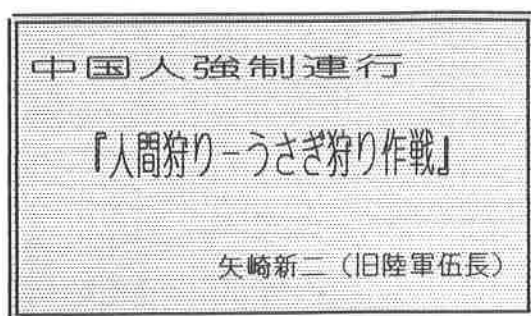
TIME, JUNE 12, 1996

イ・ヨンスク 73歳

ソ・パニム 68歳



バク・トゥリ 73歳



岐阜市文化センター 3F 展示室
1996年7月21日 13:00~15:00
聴衆 73名

【はじめに】

ただ今ご紹介に預かりました矢崎新二と申します。私の中国人強制連行の話を聴いてくださるため、多数おいでいただき、ありがとうございます。

またこれから28日まで一週間、ここで展示会を開いて、かつて「日本軍が行なった事実」を伝えようとする皆さんの活動に敬意を表します。

【経歴】

中国人の強制連行に直接携わった経験をお話しますが、私は1920年、埼玉県に生まれました。1941年（昭和15）徴兵検査を受けました。この昭和15年という年は、日本は皇紀2600年といって大々的なお祭りをしました。「八肱一宇」「大東亜共栄圏」と声高に叫ばれ、アジアへの侵略を深めていきました。

翌年42年の6月28日『赤紙』がきて、7月4日に東京赤坂の東部62部隊に入隊しました。配属されたのは機関銃中隊でした。太平洋戦争が始まったときには既に兵隊になっており、中国の山東省へと侵略を開始しました。私どもの部隊は『衣』師団という新しく編成された部隊でした。

【ウサギ狩り演習】

8月の末に『ウサギ狩り』という演習をやりました。洗面器などをガンガン叩きながら包囲し、

野ウサギを城壁に追いつめて捕まえるという演習です。「おもいろい演習をやるものだなあ」と思っておりまして、その年42年の10月から『人間狩り作戦』が始まりました。『ウサギ狩り作戦』とよんでおりましたが、実は強制連行するための人間狩り作戦でした。

この年の11月27日に東条内閣は「華人労務者、移入に関する件」を閣議決定しております。中国人を労務者として日本へつれてきて働かせるという閣議決定です。この決定の前、既にもう『ウサギ狩り』の演習をやり、10月からは実際に『人間狩り』をやっていたのです。

【人間狩りの実際】

この作戦における命令は「17歳から45歳までの男子を逮捕すべし。逃げる者、反抗するものは、射殺すべし」というものでした。この命令に従いまして、私どもは中国人を逮捕していきました。

山東半島の付け根を目指して12軍はズーッと包囲網を狭めていきました。普通、日本軍は作戦行動をとるときは行動を秘匿する。敵に分からないように動くわけです。ところがこの作戦では「ここに日本軍が参りました」といわんばかりに音を立てて、洗面器を叩きながら押し上げていくわけです。夜は松明をつけて押し上げていきます。

【皇軍の前でイチャイチャしやがって】

私はある一軒の農家の庭先で、ひとりのお百姓さんを見つけました。そこで「ビタビタビターン」と急に殴りかかります。びっくりしたお百姓さんは、地べたに頭を擦り付けて動こうとしません。

「いいから来い」と無理やり引きずります。蹴飛ばすようにして引き立てようとしますと、その大きな声を聞きつけて、家の中から奥さんと思われる女性が飛び出してまいりました。ご主人と一緒に地べたに頭を擦り付けて「私たちは百姓です。何も悪いことはしておりません」「いいから来い」

奥さんは夫を離そうとしません。私は奥さんを突き飛ばしました。すると何を思ったのか、奥さんはいきなり家の中に飛び込みました。私も何をするつもりなのか分からなくて、ちょっとびっくりしておりました。

すぐに真新しい手製の布靴と袋を持って出てまいりました。袋の中身はコーリヤンの粉を薄く伸ばして焼いたジャーミという食べ物です。近頃、祭りの屋台で売られているクレープによく似たものです。（今、凶悪な日本軍に夫が連れていかれる。これから先、どうなるのか分からない。とりあえずの食料と新しい靴を履かせたい）こんな思いから、奥さんはご主人の腰紐にそれを結びつけようとした。

「キサマ、皇軍（天皇の軍隊）の前で、イチャイチャしやがって」私はこのように怒鳴りつけました。腰につけた靴と袋を引き千切り、踏みつけて男を引き立てました。私には、今まさに夫を連れていこうとされている妻の行動が「皇軍の前でイチャイチャしやがって」としか感じられなかったのです。

捕まえた男達は、2～3日歩かせます。食物も水も与えないで歩かせます。ある程度、人が集まりますと要所要所へトラックがまいりまして、男達を青島へ運びます。青島から列車で天津へ送り、そこで選別をして日本へ送ったわけです。

命令では「17歳から45歳まで」ですが、はつきりとした年齢などわかりませんから、それこそかたっぱしから捕えましたので、12歳くらいから70歳くらいまでの人を強制連行したのです。

【断髪女性の連行】

私のいた中隊の隣の第5中隊で、断髪的女性を捕まえました。中国では結婚した女性は髪を束ねて後へたらしめます。ですから断髪的女性は軍の関係者が看護婦さんなどです。「断髪的女性も逮捕すべし」という命令もありました。たまたま赤子

を連れた断髪的女性を逮捕したのです。2日以上、水も与えず歩かせます。乳飲み子を抱いていますから、男のように後ろ手には縛っていませんが、乳を欲しがらる赤ん坊はワンワン泣き、母親は半狂乱のようになり、時に失神したかのようになっている歩いて歩きます。

それを見た山本中隊長は、隣にいた当番兵にただ一言「撃て」。至近距離から母子諸共に撃ったあと、大地に真赤な血潮が流れました。その光景は今日までも、私の脳裏から決して離れることはありません。



【劉連仁さんの思い】

このようにしてかたっぱしから捕まえて、日本に送りました。日本に送られた中国人は約4万人。35の企業、135の事業所で働かされて、7千人近い人が亡くなったと聞いています。非人間的な過酷な条件のもとで働かされ、殺されていったことは容易に想像できます。

先日、劉連仁さんのことが話題になっておりました。劉さんは1944年に強制連行されています。私どもが大量に『人間狩り作戦』を行なってから2年の後に捕まっているのです。中国各地、至る所で、強制連行がなされていたのだらうと思います。北海道の明治鉱業でのあまりに過酷な労働に耐えきれず、逃亡して13年の歳月を北海道に隠れ暮らされた方です。

私は1956年に中国から帰ってまいりましたが、劉連仁さんは、1958年になって北海道の山の中で山狩りにより発見されました。直接、私が強制連

行したわけではありませんが、多くの人を拉致しましたので1958年、明治鉱業の四ツ谷の幹部宿舎へ出向いてお詫びをいたしました。大変立派な頑健な体をなさった方で、あの体があればこそ13年もの間、北海道の厳しい自然に耐えられたのだなと思いました。

その劉さんが、とうとう日本政府を相手に訴訟を起しました。東京地裁の103大法廷で、日本政府に対して戦争責任を認めさせ、補償を求めたのです。普通は1時間の証言時間ですが特に時間を求め、1時間半に渡って当時の状況を切々と訴えました。政府側は何ひとつ反論はできませんでした。しかしながら、一切その責任を認めようとはしていません。この裁判を支えていくのにはやはり、多くの皆さん方の力が必要だと思います。皆さん方の世論で、日本政府の責任を追及していかなければならないと思います。

【山東苦力（クーリー）】

劉連仁さんもそうですが、山東省の方々はすごく立派な体をしています。それで『山東苦力（クーリー）』といって、労働者として多くの人々が働かされました。最初に働かされたのは、『満州』でした。

日本は1931年に柳条湖事件を引き起こし、翌年『満州国』を傀儡国家として作り上げます。「華北勞工協会」という、人集めの機関が作られました。そこで募集の形式で、多くの中国人を集めました。「毎月一定の現金収入がある。2年後には高収入を得られる」という宣伝により、山東省の多くの人々が進んで応募しました。

撫順炭坑の露天掘りを初め、多くの炭坑・鉱山・発電所建設の現場で酷使され、殺されていきました。そうした人々の遺体を捨てたのが『万人坑』と呼ばれ、現在の中国東北部（旧『満州』）の各地に残されています。中には生きたまま埋められてしまった人もいます。また、対ソ連戦に備えて、

ソ満国境の陣地構築などで働かされました。陣地が完成すると同時に、秘密保持のため爆殺されてしまいました。

こうした使い捨ての人材の利用法に目をつけた企業が、日本政府に積極的に働きかけて、「華人労働者、移入に関する件」を閣議決定させたのです。日本本土への強制連行が実施されました。



【『三光作戦』の実態】

やがて、「華北勞工協会」を通さず、軍が直接拉致連行する方向転換がなされます。その端的な例が『三光作戦』です。軍の規律では「焼くな、犯すな、殺すな」というものがありましたが、実際には「焼き尽くし、奪い尽くし、殺し尽くす」という蛮行が中国全土で繰り広げられました。

小麦の略奪についての体験をお話します。これは『収買作戦』と呼んでいましたが、実際は略奪です。「各隊は競争し、小麦1つぶも残すな」の命令のもと、2人1組で牛車を引いて出かけていきます。村に着くと片っ端から、小麦を麻袋に詰め込みます。

一軒の農家で老婆と少年が必死になって、収穫した小麦をとられまいとしていました。かわいい少年でした。近づこうとすると、彼の口から「日本鬼子（リーペンクイズ）」との言葉が発せられました。一瞬グクリとして、その場に立ちすくみました。イヤーナ気持ちが出て、憎悪に満ちた目で見つめていた少年の眼差しは、今になっても忘れることができません。翌年の種付け用の小麦まで、全てを奪い尽くしていったのです。

こうした『収買作戦』には三井物産の社員が同

行していました。企業と国（陸軍）との共同作戦であったわけです。

【『従軍慰安婦』のこと】

軍には慰安所がありました。多くの兵隊はそこで、性の処理をしていました。慰安婦にさせられていたのは、主に朝鮮の若い女性でした。「朝鮮ピー」と呼ばれていました。私は当時「朝鮮人は犬・猫以下の存在」だと信じて疑いませんでしたから、慰安婦のところへは参りませんでした。今にして思えばとんでもない偏見に満ちていました。私個人は直接、慰安婦の人に迷惑をかけたわけはありません。しかし、先日名乗り出た朝鮮人『元慰安婦』の女性に対して、日本兵士として謝罪してほしいと言われ、謝罪をしました。仲間が犯した罪であり、私自身の蔑視の考え方は謝罪しなければならぬものと考えたからです。この問題に関しても、日本政府はちゃんと責任を認め、謝罪しようとはしていません。

【報道・ジャーナリズムの姿勢】

日本政府のこうした姿勢には、ジャーナリズムにも大きな責任があります。テレビにしろラジオにしろ、事実をきちんと伝えません。たびたび取材に来られ、お話しても、肝心の部分はカットされてしまいます。政府に都合の悪い話、差し障りのある話は、まったく放送されません。これは、新聞・雑誌についてもいえることです。

また、右翼と名乗る人物から脅迫めいた電話や手紙が参ります。そんなものはちっとも恐れる必要はありません。「あなたは軍隊を経験しているの。実際に中国に行って何をしたかわかっているのかい。私は自分のやってきた事実を話しているのです。いつでもいい、名乗って出てきなさい。話し合いましょう」こういつて名乗り出てきた例はありません。報道・ジャーナリズムは毅然とした態度で、事実を伝えるべきです。

【教育の果たす役割】

歴史教育の果たす役割は非常に重要です。しかしながら戦後の歴史教育において何が欠けているかと言えば、それは『近々百年の歴史』を教えてこなかったことです。父の時代、祖父の時代に日本は何をしたのか。アジアの国々とどんな関係にあったのかをまったく教えてこなかった。これは非常に大きな問題です。戦争被害だけでなく、加害の事実も若者にしっかりと伝えるべきです。こうしたことを敢えて怠ってきた文部省・政府のひどさをしっかりと自覚すべきです。

【『子々孫々』責任は免れない】

先ほどお話した劉連仁さんは「私が死んでも、裁判は息子が引き継ぐ。息子が死んでも、孫が引き継いで、日本政府の責任を追及してゆく」と語っています。

『日中友好は子々孫々』とよく言われますが、『子々孫々』は友好だけではなく、『責任追及』においても跡絶えることはないのです。

一人一人が声を挙げて、世論の力で歴史の事実を後世に伝えていく努力が大切です。

強制連行の事実を広く市民に伝えようとなさっている皆さんに改めて敬意を表し、展示会の成功を祈念して、私の講演を終わりにします。

ご静聴ありがとうございました。

この後、長沼節二さん（中国帰還者連絡会・旧陸軍憲兵）から、ソ満国境における中国人強制連行の実態についての補足証言がなされた。

矢崎新二さんに展示会活動を励まされた感動と、真実を語っていただいた興奮・感銘のうちに講演会は終了した。

第7回 朝鮮人・中国人
強制連行・強制労働を考える全国交流集会

岐阜大会 市民参加の展示会

－強制から共生へ、歴史の真実を探る－ 強制連行展ぎふ '96

朝鮮人・中国人の強制連行・強制労働を考えると、日本人の加害事実の真相究明、そして朝鮮人・中国人の被害者に対する謝罪・補償といった問題が浮かび上がってきます。歴史事実の認識から反省と謝罪がなされてこそ、真に共生できる社会が生まれると思います。しかしながら現実には、歴史事実の確認・理解が必要な状況です。理想とは程遠い現況ですが、まずは一人でも多くの市民に、若い世代に歴史の事実・真実を伝え、現代日本の問題として、強制連行・強制労働を考えるきっかけとなる企画のひとつとして、展示会を考えました。

この展示会への参加・情報提供をお願いいたします。

【展示構想】

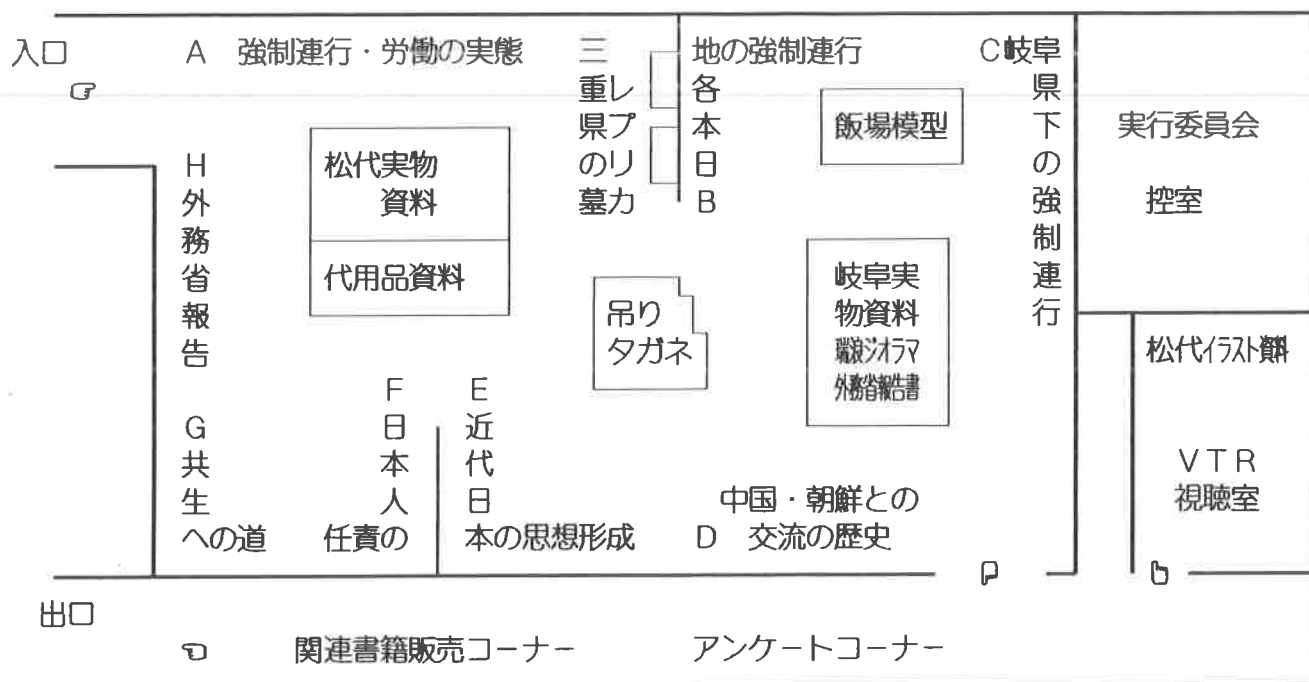
- A 強制連行・強制労働の実態<概論>
- B 日本各地の強制連行・労働<各論①>
- C 岐阜県下の強制連行・労働<各論②>
- D 中国・朝鮮と日本の交流の歴史
- E 近代日本の思想形成（中国・朝鮮蔑視の思想）
- F 日本人としての責任
- G 共生への道
- H 外務省報告

- 本論
 - 序論
 - まとめ
- ※ 強制連行・労働だけを取り上げても若い世代には理解しがたい部分があると思われます。
序論・歴史の基礎理解として、交流の歴史と近代日本の思想形成を加え、まとめで未来への問題提起ををしたいと考えました。

【展示会場】

展示構想

岐阜市文化センター3階・企画展示室 155㎡



◎ 若い世代、中学生・高校生・大学生に、見て考えてもらえる展示会にしたいと思っています。
国際化の時代にふさわしく『21世紀を生きる若者へのメッセージ』となる展示会。

【展示資料】

パネル	約76枚	自作パネル：A～Hのテーマ
写真	約30点	松代大本営・『元従軍慰安婦』・岐阜県地下地下壕など
文書	約30点	松代大本営3大資料・『外務省報告書』の写・朝鮮人埋葬許可証など
実物資料	約50点	削岩機・地下壕内遺物・導火線・秋田杉板・トロツコ枕木・電線など
レプリカ・模型	約10点	瑞浪市戸狩地下工場模型・三角兵舎型飯場模型・三重県で虐殺された朝鮮人の墓レプリカ（ピース大阪）・吊りタガネなど

【関連事業】

証言＝『ウサギ狩り・人間狩り作戦』 矢崎新二さん（旧日本陸軍伍長）

映画＝『ナヌムの家』

歌とトーク＝『歌でつなぐアジアの心』

【情報提供の依頼】

展示構想の

《B 日本各地の強制連行・労働》に関して 各地から3枚ずつのパネルを予定

パネル原稿となる資料・文書・写真・図表・地図など

実物資料

レプリカ・模型

【パネル形態と原稿】

パネル形態	サイズ	文字数	写真・図表
メインパネル	A1	約200字	多数
各テーマパネル	B2	約250字	多数

※ パネルの文章は中学生にも理解できる程度の、易しいものにしたいと考えています。

パネル原稿として、各地からお寄せ頂いたものを実行委員会で200字から250字に要約して、パネルを製作したく思っています。パネル原案を作った段階で校閲・校正をお願いする予定です。

※ 日本各地といっても具体的には既に全国交流集会をなさった、

松代・名古屋（中部地方）・兵庫（近畿地方）・広島（中国地方）の資料をお願いしたいと思っています。

◎ 中国人・朝鮮人の被害者証言と共に、日本人の被害者・加害者証言の発掘に努めたいと思います。

◎ 岐阜県に関わった人々の追跡調査を実施したいとも考えています。

◎ 市民参加の展示会とするために、ある段階からは調査・資料収集活動と一緒にやっていただき、フィールドワークや展示資料作りの参加を呼びかけていきたいと思っています。

◎ ボランティアを募りつつ、資金集めのポスター・チラシの製作や、カンパチケットの作成を早急に行ないたいと思います。

【展示会予算】

会場費	180,000円	ポスター・チラシ・ガイドブック印刷費	500,000円
パネル・資料作成費	320,000円	その他予備費	50,000円
通信運搬費	400,000円	《合計》	1,500,000円
VTR・テープ記録費用	50,000円	映画会・講演会等の費用は別途	500,000円
		総計	2,000,000円

展示パネル構成

《全体で76枚》

ごあいさつ 朝鮮・中国の視点からの歴史認識を踏まえて

パネル色
薄茶色 (1)

A1 強制連行・強制労働の実態 (概論)

- 2 男性の強制連行
- 3 女性の強制連行
- 4 国策としての強制連行
- 5 強制連行システム
- 6 朝鮮人の強制連行
- 7 中国人の強制連行
- 8 強制連行日本地図
- 9 強制労働をさせた企業

黄 (9)

B1 日本各地の強制連行・労働 (各論①)

- 2 愛知県から岐阜県へ
- 3 松代大本営 (長野①)
- 4 " (" ②)
- 5 " (" ③)
- 6 証言者・姜永漢氏
- 7 三重 (虐待と墓のレプリカ) 島田さん
- 8 "
- 9 "
- 10 広島 (中国地区) カレンダー黒3枚 浜田さん
- 11 "
- 12 "

黄 (6)

持ち込みパネル (3)

持ち込みパネル (3)

C1 岐阜県下の強制連行・労働 (各論②)

- 2 県下強制連行マップ (昨年の地図修正使用)
- 3 朝鮮人の最初の強制連行
- 4 兼山ダム
- 5 丸山発電所
- 6 鉄道・道路工事
- 7 地下工場と強制連行
- 8 瑞浪市 12 川辺町
- 9 可児市 13 高山市
- 10 各務原市 14 神岡町
- 11 岐阜から中国へ帰った中国人の足取り
- 15 遺骨送還事業
- 16 殉難慰霊碑建立
- 17 瑞浪市戸狩地下工場 (ジオラマ模型の上)

黄 (17)

D1 中国・朝鮮と日本の交流史

- 2 文化文明の先生
- 3 遣唐使
- 4 元寇・倭寇
- 5 豊臣秀吉の朝鮮侵略
- 6 朝鮮通信使
- 7 雨森芳洲と東アジア交流ハウス

青 (7)

E1	近代日本の思想形成	}	青 (11)
2	明治政府の富国強兵		
3	閔妃暗殺と三浦梧楼		
4	福沢諭吉『脱亜論』		
5	伊藤博文と安重根		
6	豊臣秀吉の復活		
7	関東大震災と朝鮮人虐殺		
8	台湾霧社事件・毒ガス戦		
9	石川啄木・柳宗悦		
10	朝鮮の植民地支配		
11	樺太棄民		

F1	日本人としての責任	}	赤 (5)
2	事実を語る・『蛭の光』		
3	アジアの国々との歴史教科書作り		
4	『従軍慰安婦』問題の国連勧告		
5	女性のためのアジア平和国民基金の欺瞞性		

G1	強制から共生へ	}	赤 (3)
2	日本が抱えている戦後補償』		
3	共生への道		

H1	幻の外務省報告	}	緑 (7)
2	東京華僑総会陳名誉会長		
3	外務省報告書から読み取れること		
4	〃 〃		
5	岐阜で殺された中国人の足取り		
6	河北省河北大学・劉宝辰講師の調査		
7	『岐阜県地下壕研究会』発足に向けて		

I1	岐阜県 1971……1996	}	薄茶 (2)
2	朝鮮人の『犠牲者追悼碑』を		

補足地図

中国河北省
朝鮮の現在の地域呼称

青 (2)

J1	展示会場入り口看板	K1	キャプション	L1	リーフレット
2	展示室メイン看板	2	実物資料	2	展示解説
3	立て看板 (北)	3	模型	3	報告集
4	立て看板 (南)	4	ジオラマ	4	全国交流集会資料レジメ
5	催し案内	5	書籍販売		
6	VTR案内	6	アンケート		
7	新聞報道				
8	円徳寺立て看板				

『強制連行展ぎふ '96』の成功を祝賀して

東京華僑総会 名誉会長 陳 焜旺

第7回 「朝鮮人・中国人の強制連行・強制労働を考える全国交流集会」の岐阜の実行委員で、展示会担当の今井先生から、4月15日に手紙をいただいた。中国人の強制連行に関する『外務省報告書』の基礎資料である『事業所報告書』の中で、岐阜県に関わる以下の『事業所報告書』をコピーさせてもらいたいとの申し入れであった。

展示会で皆さんにぜひ観てもらいたいとの要望だったので、当方でコピーをして提供することとした。

指定された事業所は「鹿島組御獄作業所」「鹿島組各務原作業所」「間組御獄作業所」「間組瑞浪作業所」「飛島組御獄作業所」「飛島組川辺作業所」「熊谷組高山作業所」「熊谷組各務原作業所」の8事業所で、コピーは1867枚に及んだ。

5月22日、松井・辻田・下嶋の三先生が東京へ受け取りに来られた。私は、先生方に、「皆さんの事業は中日友好のためにも、アジア平和のためにも、非常に有意義なことである」と敬意を表わした。また、「全国交流集会が成功するように、今後も広く、大きく発展することを期待している」と申し上げた。

先生方からこの資料の入手の事情を聞かれたので、次のとおり簡単に経緯を紹介した。

1950年1月、留日華僑総会を中心とする華僑、留学生の団体が中心になって、秋田県の花岡事件を調査し、「華僑民報」「留学生報」に報道し、「赤旗」も大きく取り上げた。また人を派遣し、現地の朝鮮人、日本人の方々の協力を得て遺骨を収集し、東京へ持ち帰った。

同年11月、浅草東本願寺で留日華僑総会主催の「花岡殉難四百十六烈士追悼会」が日本、朝鮮、華僑の各界の方々多数が参列して、盛大に行なわれた。

花岡事件の調査の過程で、日本各地に強制連行されて来た中国人が虐殺されている事がわかった。そこで華僑総会は、日中友好協会をはじめ、日本の各団体と協力し、「中国人捕虜犠牲者善後委員会」を結成し、具体的に日本各地での強制連行者の調査、遺骨の収集、慰霊祭を行なった。

その頃、日本の友人から「中国人強制連行に関する『外務省報告書』を持っている人がいて、これを提供しても良い」との話があったので、その日本の友人を通じて華僑総会が、この資料を入手した。

この資料によって強制連行に関する全貌が判明し、調査活動が一層活発になった。またこの頃になって、日本の友人から『外務省報告書』を作成した基礎資料である『事業所報告書』を提供しても良いとの話があり、これも華僑総会が入手、保管し、調査活動で活用した。



この『事業所報告書』は日本全国135事業所が提出した資料であり、内容的には粉飾が多いが、受入人員、死亡者数などの事実は隠すことができないので、この部分は役にたった。

『事業所報告書』を提供してくださった日本の友人の話によれば、『外務省報告書』が作成された後、「この『事業所報告書』を焼却せよ」と命じられた人が「こんな大事な資料は残すべきだ」との信念から、何とか役立たせたいということで、いろいろ経路を辿って隠し持っていた。「この時が来たと判断して、友人を通じて、華僑総会へ知らせてきた」との話である。

日本軍国主義が中国、朝鮮、アジア諸国を侵略、植民地化し、各地で中国人や諸国人を虐殺、略奪を平気で行なった。そればかりでなく、最近一部の政治家が未だに中国、朝鮮、アジア諸国への侵略の罪を認めないだけでなく、侵略を美化しようとするにいたった。

上記の二つの大事な資料を危険を冒して隠し持ち、私たちに提供して下さった、良心的で中日友好のために尽力された方々に、私たちは何時も感謝と敬意の気持ちを持ち続けてきた。

今日、この資料の一部を「強制連行展ぎふ'96」に提供できたのも、この立派な日本人のお陰である。

展示会を通じて、若い世代の人たちが過去の歴史を正しく認識し、中日友好のため、アジア平和のため、そしてこのような立派な先輩たちがいたことを知ってもらい、今後の運動の中で活かされることを期待し、皆様のご奮闘に心から敬意を表するとともに、活動が益々発展されることを期待しています。

全国交流集会のご成功を心から祈っております。

1996. 6. 7

《 強制連行展 展示資料一覧 》

【パネル】

挨拶	薄茶	1
A 強制連行・強制労働の実態（概説）	黄色	9
B 日本各地の強制連行 ＜広島・三重＞	＃	6+＜6＞
C 岐阜県下の強制連行	＃	17
D 中国・朝鮮と日本の交流史	青	7
F 近代日本の思想形成	＃	11
F 日本人の責任	赤	5
G 強制から共生へ	＃	3
H 幻の外務省報告書	緑	7
I 殉難碑・追悼碑	薄茶	2
補足地図	青	2
合計		70+＜6＞

76枚

【実物資料】

『松代時代の館』からの借用資料		
削岩機とロット	各	1
壕内遺物（裸電線、ガイシ、犬クギなど）	1	セット
コウリヤン（強制連行された人々の食料）	1	
導火線	1	
ワラジ10足束	1	
秋田杉（天皇御座所の天井板）	1	
松代・栗林敬一氏からの借用資料		
松代大本営3大資料		3
松代写真パネル		11
大演習写真パネル		1
イラスト		6
松代天皇御座所採集岩石	多数	
県内地下壕採集遺物		
トロツコ枕木	1	
磚子	3	
犬クギ	5	
電線	4	
カーバイトランプ	1	
電線取り付け杭	3	
その他	多数	

約50点

【代用品】

スコップ	3
ツルハシ	2
ジョレン	2
クサミ	2
吊りタガネ	1
もっこ用カマス	2

12点

【模型・レプリカ】

瑞浪市戸狩地下工場模型	1
三角兵舎型飯場模型	1
三重県で虐殺された朝鮮人の墓（レプリカ）	2

4点

【文書】

『外務省事業所報告書』の写し		11点
間瑞浪事業所	2分冊	＜7冊 1867枚＞
飛島川辺事業所	1	
鹿島各務原事業所	2	
熊谷各務原事業所	1	
熊谷高山事業所	1	

『岐阜県強制連行ガイドマップ』	1
朝鮮人死亡者埋葬許可証（加藤明）	1
＃＃ 関連新聞記事コピー	1
「蛍の光」歌詞	1

【写真】

釜戸地下壕写真（加藤明）	6
『従軍慰安婦』にされた女性（伊藤孝司）	4
展示パネル内に多数使用	約20

約30点

強制連行を学ぶために

《販売図書一覧》

『日本人は中国になにをしたの』	映画「侵略」上映全国連絡会	700円
『日本人は朝鮮になにをしたの』	映画「侵略」上映全国連絡会	600円
『街も村も「戦場」だった』 岐阜県の戦争遺跡	歴史教育者協議会	700円
『幻の外務省報告書』中国人強制連行の記録	NHK出版	1300円
『手さぐり・松代大本営』	原山 茂夫 銀河書房	1000円
『松代大本営の真実』	日垣 隆 講談社現代新書	650円
『日本による朝鮮支配の40年』	姜 在彦 朝日文庫	550円
『反日感情 韓国・朝鮮人と日本人』	高崎 宗司 講談社現代新書	600円
『豊臣秀吉』	小和田哲男 中公新書	680円
『伊藤博文と安重根』	佐木 隆三 文春文庫	450円
『きみたちと朝鮮』	伊 健次 岩波ジュニア新書	650円
『従軍慰安婦なされた少女たち』	石川 逸子 岩波ジュニア新書	650円
『従軍慰安婦』	吉見 義明 岩波新書	650円
『慰安婦たちの太平洋戦争』	山田 盟子 光人社	1700円
『慰安所・男のホンネ』	高崎 隆治 梨の木舎	1854円
『朝鮮人強制連行の記録』	朴 慶植 未来社	2266円
『中国人強制連行の軌跡』	上羽 修 青木書店	2060円
『中国人強制連行』 戦争犠牲者を心に刻む南京集会	東方書店	1900円
『中国人と強制連行・劉連仁』	野添 憲治 三一書房	1700円
『アジアの中の日本軍』	笠原十九司 大月書店	2600円
『写真記録 日本の侵略：中国・朝鮮』	黒羽清隆 ほるぷ出版	3000円
『朝鮮の歴史』（教材用） 朝鮮青年社出版部	朝鮮青年社	550円
『傷跡は消えない・朝鮮侵略と強制連行史』	李又鳳	1000円
『加害と被害の論理』	金 昌宣 朝鮮青年社	1700円

以下は全て明石書店

『入門 朝鮮と日本の歴史』			
『わかりやすい日本民家の歴史と朝鮮』			
『図説朝鮮と日本の歴史 光と影』	前近代編	久保井規夫	2000円
『図説朝鮮と日本の歴史 光と影』	近代編	久保井規夫	2000円
『地下軍需工場と朝鮮人強制連行』 写真記録		久保井規夫	2575円
『韓国と日本の交流史』	古代・中世編	李 進熙	750円
『韓国と日本の交流史』	近世編	姜 在彦	750円
『強制連行された朝鮮人の証言』		朝鮮人強制連行調査団	1550円
『鉱山と朝鮮人強制連行』	金慶海・徐根植・洪祥進ほか		1500円
『朝鮮の歴史と日本』		信太 一郎	1800円
『創氏改名』	宮田節子・金 英達・梁 泰昊		2060円
『在日韓国・朝鮮人の戦後補償』		戦後補償問題研究会	1680円
『従軍慰安婦のはなし』		西野留美子	1300円
『国際法からみた「従軍慰安婦」問題』		国際法律家委員会	2500円
『朝鮮通信使』 善隣と友好のみのり		上田 正昭	2880円
『中国人被爆者・癒えない痛苦』			
強制連行された中国人被爆者との流をすすめる会編			1700円
『地図にないアリラン峠』		林えいだい	3090円
『松代大本営』		林えいだい	5150円
『日本の戦後補償』		日本弁護士連合会編	5800円
『新版韓国・朝鮮を知るための55章』		井上秀雄・鄭 早苗	1600円
『生徒がチョゴリを着るとき』		藤原 史郎	1500円
『ナチズムと強制売春』			

パネル原稿の抜粋

展示パネル76枚の中から、その一部を抜粋し、
会場の写真と共に、会場風景を再現しました。

ごあいさつ



朝鮮人・中国人が強制連行され、強制労働をさせられたこの歴史の事実が日本では広く伝えられていません。今からわずか50年・60年前のことなのに、『戦争中に何が行なわれたのか』それをこの展示会で考えたいと思います。

朝鮮人・中国人の民衆の立場・視点をもとに、同じ民衆の立場から先の戦争をとらえてみようと思ひました。すると朝鮮の植民地支配・『偽満州国建国』・日中戦争といった、日本人が手を下した加害の歴史の事実が見えてきます。この催しが歴史の真実を探るきっかけになればと願っています。

A1 強制連行・強制労働

日中戦争・太平洋戦争末期、日本は男性の多くを徴兵したため炭坑・鉱山や本土決戦のための飛行場作りなどの労働力が不足しました。またアメリカ軍の空襲が激しくなり、多くの軍需工場が焼かれて、兵器の生産ができなくなりつつありました。そこでトンネルを掘り兵器工場を地下に移すことを考えました。こうした仕事に朝鮮・中国からむりやり人を連れて来て、働かせたのが強制連行であり、強制労働なのです。

女性の場合には戦場や国内の作業場で不足する労働者や『慰安婦』として連行されました。



A2 男性の強制連行

絶対的に不足する労働力を補うために、朝鮮・中国から働けそうな男を連れてこようと考えたのは、政府と大手企業でした。内務省・大東亜省・厚生省といった政府機関と大手建設会社・鉱山・炭坑・造船所・電力会社などです。

決して民間企業が勝手にやったことではないのです。政府の政策決定を受けて国をあげて実施したことなのです。

朝鮮人の場合は、皇民化政策をとっており、どこからが強制連行で、どこまでが『自主渡航』による労働なのかの線引きがきわめてむずかしいのです。中国人の場合は明らかに強制連行です。

A3 女性の強制連行

旧日本軍は兵士の人権をまったく認めない軍隊でした。兵士には大きなストレスが溜まり、戦場では信じられない凶悪な行為に及ぶことがありました。その端的な例が女性への強姦・レイプです。あまりの強姦の多さ、性病にかかる兵士の多さに軍の首脳は専属の性的奴隷制度を考えました。これが『従軍慰安婦』です。

朝鮮の若い未婚の女性を主に『従軍慰安婦』としたのです。面（村）ごとに人数を割り当てたり、「洗濯の仕事」などとだまし、連行したのです。現在国連の人権委員会では『人道に対する罪』として、厳しく問われています。



A 4 国策としての強制連行

強制連行という手段を最初に考えついたのは『偽満州国』の多くの国策企業でした。中国東北部の豊かな地下資源を掘り出すために、中国河北省から大量の人を動員したのです。それは『うさぎ狩り』と呼ばれ、田畑で働いている農民を有無をいわず強引に連れ去り、企業で酷使し、死ねば穴に捨てるといったものでした。

鉱山の街・大石橋にはこうして捨てられた人の骸骨が累々と重なる『万人坑』が残されています。この発想が日本への強制連行につながったのです。

時の政府の商工労働大臣は岸信介です。戦犯から戦後には総理大臣になった人物です。



A 5 強制連行システム

朝鮮人の場合は、最初は「募集」次に「官斡旋」さらに「徴用」という形のちがいはありましたが、人権への配慮はまったくありませんでした。日本への労働力として数多くの朝鮮人を送り込む窓口は内務省・厚生省でした。朝鮮人だけでは足りなくなって、敵国の中国人の強制連行を考えだします。

中国人の場合は、企業が厚生省に必要人数を依頼し、厚生省が軍需省・運輸省とはかってその数を決定し、大東亜省が中国へ連絡します。中国では日本大使館・日本軍・斡旋機関が協力して中国人を狩り集めました。



A 6 朝鮮人の強制連行

朝鮮は1910年に、「韓国併合」という形で日本の植民地とされ、その後、1937年の日中戦争からは「内鮮一体」というスローガンのもと『皇民化政策』が徹底されます。『創氏改名』が強要され、弾圧が加えられました。

朝鮮半島から強制連行された朝鮮人の数は約100万人。日本国内にいた朝鮮人の徴用を含めると約150万人が強制労働に従事させられました。朝鮮半島の中だけでの強制労働は約450万人に及んだとされています。中国人の場合と異なって、敗戦時に意図的にさまざまな資料が焼かれたり隠されたりして、正確な人数も名前も、わかっていません。

A 7 中国人の強制連行

1942年11月、政府は中国人の強制連行を閣議決定しました。この時から中国の河北省を中心に38,935人の強制連行が始まり、6,830人ものが亡くなりました。厳しい労働条件のもと、十分な食事も与えられず、虐待・虐殺されたのです。

『試験移入』 1943年4月～11月まで、 8集団 1,411名

『本格的移入』 1944年3月～翌年5月、 161集団、37,524名

総計169集団、38,935名

死亡者 日本への連行途上での死亡 812名

事業所内での死亡 5,999名

日本敗戦後帰国途上の死亡 19名

死亡者総計 6,830名

死亡率 強制連行総数に対して 17.5%

生存者帰国 1946年2月までに 31,917名



C 1 岐阜県下の強制連行・強制労働



岐阜県下への強制連行・強制労働の実態解明は始まったばかりです。朝鮮人強制連行真相調査団や歴史教育者協議会・ピースサイクルといった心ある人々により、営々と続けられてきましたが、全貌が明らかになるまでには至っていません。

今回、中国人の強制連行（1,689名・73名死亡）に関しては基礎資料を入手し、聞き取り調査に取りかかったばかりです。

地下工場・鉱山・発電所ダム工事・鉄道、道路工事・用水路工事など、さまざまな重労働現場で、強制労働が行なわれました。こうした強制労働のうえに、現在の便利で快適な生活が築かれているのです。

C 5 鉄道工事・道路工事

東海道線の下り、垂井線はあまりの急勾配のため、改修工事が必要でした。13.6‰の新線工事は間組が請け負いました。

1943年から44年にかけての工事では、のべ60万人もの人が働きましたが、その75%は朝鮮人労働者でした。物資・食料の不足に悩まされながらの苦しい作業でした。

北アルプス乗鞍スカイラインはかつての軍用秘密道路でした。高々度での飛行機エンジンのテスト工場を作る予定でつけられたのです。この工事にも多数の朝鮮人労働者が動員されました。

当時の濃飛バス社長が、後世の観光利用にと、道路幅を拡張するように軍に交渉した結果、今の乗鞍スカイラインがあるのです。



C 6 瑞浪市（明世・釜戸）

瑞浪市明世には日本で最大規模の地下壕が掘られました。全長約8000m。川崎航空の地下工場として、間組が建設しました。

丸山ダム工事に従事させられていた朝鮮人や全国から集められた数千人にもおよぶ朝鮮人と、長野県御岳発電所工事で働かされていた中国人330人が、日本敗戦の時まで、強制労働をさせられました。「日中不再戦の誓い」には亡くなられた39名の中国人犠牲者の名前が印されています。「地球回廊」はこの地下壕の一部を利用して造られたものです。

今回、中国人強制連行を記録した『外務省報告書』により、月吉にも約5000m規模の地下工場が計画されて、途中まで掘られていた内容が判明しました。化石博物館の横にある化石のトンネルはその一部です。の

瑞浪市釜戸には三菱電気の地下工場が計画され、やはり間組が建設にあたりました。手掘りのツルハシの跡がはっきりと残されており、地下壕の壁には『高』の文字が書かれています。



C 9 川辺町地下工場

川辺町へは、三菱名古屋航空機製作所が移転してくる予定でした。地下工場の建設工事は飛島組があたり、270mの横穴11本が掘られました。飛島組の長野県御岳発電所現場から270名の中国人が移入され、ここでは4名が亡くなりました。

岐阜県へ連行された中国人を管理する本部がこの川辺に設けられました。

1945年12月1日、中国へ帰国のために73名の死者を除いて、1,616名が川辺に集まり、佐世保から塘沽へと向かいました。

朝鮮人に関しては、川辺東小学校27名、西小学校に32名の児童の学籍簿の記録があります。ほとんどがこの地下工場建設のために転入してきて、工事が中止されると朝鮮へ帰っていった人々の子どもたちです。何人の朝鮮人労働者が働いていたのか、それは現在も調査中です。

C10 神岡町鉱山労働

三井鉱山神岡鉱業所。日本で有数の亜鉛鉱山でした。九州の串木野金山で働かされていた朝鮮人労働者がそっくり神岡に移されてきたのです。ここでは日本人労務係の暴行をきっかけに待遇改善を求めての抵抗闘争（暴動）が起きています。朝鮮人の労働者に関しては、次のような記録が岐阜県知事から厚生省へ報告されています。

＜1942年から1945年＞にかけて

雇入れ数	1,694名
就労者数	1,265名
終戦時労働者数	1,236名
死亡者数	28名
負傷者数	29名
逃亡者数	402名

すべて『官斡旋』という形で
の強制連行をされた人々です。

神岡町の小学校にも学籍簿が
残されているはず。しかし
プライバシーに関わるとし
て、調査に応じられていま
せん。



C11 高山市地下工場

高山へは、海軍横須賀鎮台府分工廠の鈴鹿工場が移転する予定でした。熊谷組が地下工場建設を担当しました。

日本人労務者200名、静岡県富士の飛行場建設現場から移入された中国人202名、朝鮮人500名により、工事は行なわれました。中国人に関しては、3名が亡くなり、3名が日本に残りました。そのうちの1人、茅蒔芝さんは高山の女性と結婚、2児をもうけました。1956年まで高山で暮らし、この年8月妻子を伴って興安丸で帰国しました。

高山市の北山公園の山すそに何本かのトンネルが今も残されています。北山のふもとの勝久寺が工事の本部となり、東山の宗猷寺に慰霊碑が建立されています。



C12 遺骨送還事業

1956年（昭和31年）、強制連行・強制労働により犠牲となった中国人の遺骨が祖国へと返還されました。

日中友好の兆しが見えはじめ、中国の撫順に戦犯として残された日本人を迎えるためにも、中国人殉難者の遺骨の返還が国を挙げて行なわれました。

岐阜県下でも瑞浪・各務原で遺骨が掘りだされ、仏教界こぞって慰霊祭がなされました。岐阜市神田町・円徳寺の先代住職松田宗雄氏もこの事業に関わり、満州からの引上げ船として活躍した興安丸で、中国へ遺骨を届けられました。

この時、外務省報告書が元となり、中国人の強制連行者名簿が作られていました。外務省報告書は『幻』ではなく現実に存在し、1956年当時の日本政府にとって強制連行・強制労働の事実は自明のことだったのです。





D1 中国朝鮮と日本の交流史

歴史の流れを古代へたどると、中国・朝鮮は日本にとってはあらゆる文化・文明の先生でした。そして友好的な関係が長く続いていたことがわかります。その中国や朝鮮がある時期に、日本の侵略・植民地支配を受けることになりました。

- ① 豊臣秀吉の朝鮮侵略(1592・1598)
- ② 明治時代の日清戦争(1894・95)・日露戦争(1904・1905)
台湾の植民地支配(1895～1945)
- ③ 朝鮮の植民地支配(1910～1945)
- ④ 満州事変1931年以降の15年戦争
- ⑤ 『偽満州国』建国(1932～1945)

D5 豊臣秀吉の朝鮮侵略

秀吉は日本で最も人気の高い武将であり、出世頭の代名詞です。しかし朝鮮人にとっては『不倶戴天の敵』なのです。

日本で『文祿・慶長の役』という朝鮮への侵略を、朝鮮では『壬辰倭乱・丁酉倭乱』と呼んでいます。2度にわたって30万人を超える侵略兵が略奪の限りを尽くしました。

京都の豊国神社前にある『耳塚』には、虐殺した朝鮮人の数の証拠として削ぎ落とされた鼻が祀ってあります。塩漬けにし、秀吉に届けられた鼻や耳は女性や子どものまでも含まれ、その数は5万とも。また陶工など、多くの人を強制連行しました。



D6 朝鮮通信使

徳川家康が江戸幕府を開き、日本が安定した状態になると、朝鮮との正式な交際を求めました。秀吉の侵略の後始末として、多くの連行された人々を朝鮮に帰しました。国交が回復すると、将軍が変わるたびに12回もの通信使がやってきました。

参勤交代により整備された道を500人を超える行列が練り歩き、さまざまな文化を伝えました。宿場で夜遅くまで、土地の文化人・僧侶が会談をし、新たな文化・学問を吸収しました。

大垣市に今も残る朝鮮山という人形はその時の祭りを伝えるものです。友好の使節団はこの岐阜の地も歩いているのです。

D7 雨森芳洲と東アジア交流ハウス

滋賀県高月町に、東アジア交流ハウスがあります。これは江戸時代の先覚者・雨森芳洲の記念館であり、アジアとの交流活動の拠点です。

「湖北の村からアジアが見える」とのキャッチフレーズのもと、江戸時代に朝鮮通信使との交流を大事にした雨森芳洲の姿勢に学び、現在もアジアとの交流を目指した、素晴らしい活動が繰り広げられています。

雨森芳洲の姿勢を日本がとり続けていたら、朝鮮の植民地支配といった愚かなことをすることはなかったと思われます。



E 2 明治政府の富国強兵

明治政府は『富国強兵』政策をとりました。西欧諸国からの侵略に備え、独立を守ろうとの考えからです。しかし日本の軍隊は民衆のための軍隊ではなく、天皇の軍隊でした。

『皇軍』と呼ばれた旧日本軍は、他国の軍隊と比べると異様でした。兵士の人権はまったく認められず、「上官の命令は天皇の命令と心得よ」との指導のもとで、皇軍兵士はアジア侵略の加害者となり、また被害者ともなっていたのです。

後の『従軍慰安婦』問題もこうした体質から発生したと考えられています。



E 4 福沢諭吉の『脱亜論』

「人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」と語り、慶応義塾を創設した福沢諭吉は、すべての人間の平等と自由を唱いあげた、日本近代化の偉大な思想家・指導者です。

しかし朝鮮の民衆からは『脱亜論』を唱えた侵略主義者としてとらえられます。アジアとの連帯を捨てて、欧米列強に並んで、アジアを侵略することが日本の生きる道だと説いたのです。

1984年、この福沢諭吉が1万円札となって現代日本に蘇りました。経済大国を目指し、アジア各地へ『経済侵略』を始めた日本の姿を朝鮮の人々はどのようにとらえたのでしょうか。



E 5 伊藤博文と安重根

伊藤博文は「大日本帝国憲法の起草者」「初代内閣総理大臣」であり、『明治の元勳』とたたえられる人物ですが同時に「初代韓国統監」で朝鮮を植民地支配する責任者でもありました。朝鮮民衆にとっては秀吉とならぶ『不倶戴天の敵』なのです。

1909年に中国・ハルビン駅で朝鮮の青年・安重根に射殺されます。伊藤が偉大な政治家として国葬される一方で「凶徒」と呼び捨てられた安重根は5カ月後に旅順で処刑されます。朝鮮人にとっては伊藤博文が『侵略の元凶』であり安重根は『民族の英雄』なのです。伊藤は、1963年に千円札として復活します。



E 6 豊臣秀吉の復活

徳川時代、その墓地さえも荒れるままになっていた豊臣秀吉が明治政府によって大きく蘇ってきました。豊国神社が再建され、明治の指導者によって『征韓論』が声高に論じられ、実行に移されました。

韓国併合(1910年)を祝う席上で「小早川、加藤、小西が世にあらば、今宵の月をいかに見るらむ」と初代朝鮮総督・寺内正毅が杯をかたむけながら歌ったといわれています。「秀吉の武将たちがなしえなかったことを今我らはなしえた」という明治の日本の指導者のおごりの姿勢が良く現れています。



E 10 朝鮮の植民地支配

1910年の韓国併合は、「韓国皇帝陛下は韓国全部に関する一切の統治権を完全にかつ永久に日本国天皇陛下に譲与す」という過去に例を見ない条約のもとでなされました。

土地調査事業により土地を奪われて小作人となったり、職を求めて日本へ流出する人々が多くいました。

一方朝鮮にあつては、『皇民化』政策のもと、日本語教育、朝鮮神社の信仰、天皇のいる皇居遥拝、『創氏改名』が強制されました。

朝鮮民族の文化を奪い、日本の文化・天皇制を強制し、差別したのが植民地支配の実態でした。『半島人』『鮮人』などと侮蔑的な言葉で呼び、そして強制連行・強制労働をさせたのです。



F 2 事実を語る『蛍の光』

長いあいだ卒業式で歌われてきた『蛍の光』に3番・4番の歌詞があるのをご存じですか。

在校生が卒業生を送る歌と思い込んでいました。しかし実は出征兵士を見送る妻の歌であり、侵略を称える歌だったのです。日本がアジアの国々を侵略して領土を広げるにつれてその歌詞が変わっていきます。

こうした事実を覆い隠して、晴れの日、別れの曲として歌わせていることを恥じないわけにはいきません。ふだんなにげなく唱っている歌や動作の中に、歴史的事実を忘れた行動がありはしないか、しっかり見据える必要があります。

F 5 「従軍慰安婦」問題の国連勧告

日本の戦後補償の問題として、『従軍慰安婦』の問題が国連の人権委員会でも取り上げられました。クマラスワミ報告書として次のようなことが求められています。

- ① 日本政府は慰安所制度が国際法に違反したことを認め、法的責任を受諾すること。
- ② 政府として賠償を支払うこと。多くの被害者が高齢なので特別の行政審査会を短期間に設置すること。
- ③ 日本政府が所持する慰安所に関した全ての文書・資料を完全に公開すること。
- ④ 被害者の女性個人々々に対し、書面による公的謝罪をすること。
- ⑤ 歴史的現実を反映するように教育内容を改めることによって、これらの問題についての意識を高めること。
- ⑥ 慰安所への募集及び収容に関与した犯行者をできる限り特定し、かつ処罰すること。



G1 強制から共生へ

強制連行・強制労働で、アジアの人々を苦しめてきた日本人。この事実を知り、日本人として生きていかななくてはなりません。

事実を覆い隠すのではなく、事実を知って謝罪すべきことは謝罪し、補償すべきは補償してこそ初めて、これからのことを一緒に考えて考えられるのではないのでしょうか。

『過去に目をつむる者は、未来においても盲目となる』とのドイツ大統領の言葉は重い課題として胸に響きます。

21世紀は共生の世紀といわれます。共に生きることができると手立てを1日も早くとりたいものです。

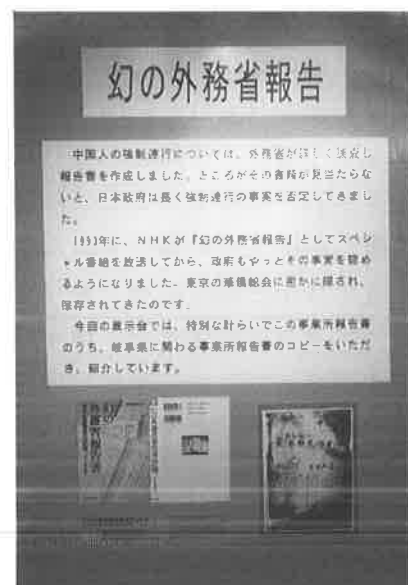


H1 幻の外務省報告

中国人の強制連行については、外務省が詳しく調査し報告書を作成しました。ところがその書類が見当たらないと、日本政府は長く強制連行の事実を否定してきました。

1993年に、NHKが『幻の外務省報告』としてスペシャル番組を放送してから、政府もやっとその事実を認めるようになりました。東京の華僑総会に密かに隠され、保存されてきたのです。

今回の展示会では、特別な計らいでこの事業所報告書のうち、岐阜県に関わる事業所報告書のコピーをいただき、紹介しています。



H2 東京華僑総会陳名誉会長

東京華僑総会の陳焜旺名誉会長。この方の勇気ある行動なくして、強制連行の事実を証明するのは難しいことでした。日本各地に地下工場の跡が残っているにも関わらず、日本政府は公式な文書が見つからないから「強制連行は無かった」と言い張ってきたのです。しかし陳氏が戦後48年にわたり、ひっそりと守ってこられたこの『外務省報告書』によって確かな証拠が政府に突きつけられました。

今回の展示会には陳焜旺氏から『メッセージ』をいただきました。日本人としては、どう応えたら良いのでしょうか。

I1 殉難慰霊碑建立事業

中国人の遺骨を返還した後、犠牲者の慰霊碑建立事業が各地の工事現場で行なわれました。

1969年には、知事・県議会議長・岐阜市長等が呼びかけ人となり、岐阜公園に『日中友好の碑』が立てられました。全国に先がけて大がかりな意義深い事業が繰り広げられました。中国杭州に『日中不再戦の碑』の建立や、李徳全女史を招いての交流会などに、多くの県民から基金が寄せられました。

日中の国交回復以前に友好関係を築くという、岐阜の先人の輝かしい歴史を、今回の強制連行展の調査により知ることができました。

しかしながら、朝鮮人犠牲者についての追悼碑は、調査が進んでいないこともあって未だに、建立されていません。

岐阜県教育委員会は今回の催しの後援申請を「後援基準にあわない」として不許可としました。27年前、県知事以下こぞって行なった事業と同様の趣旨のこの催しが、「後援基準にあわない」とはどういうことなのでしょう。



瑞浪での巡回展

◆『強制連行展みずなみ'96』実施に至るまで

戦争末期の昭和20年4月ごろから川崎航空機岐阜工場の地下工場建設のため、朝鮮人や中国人捕虜が働かせられ、中国人39名の犠牲者を出した瑞浪市では、昭和42年に日中不再戦記念碑が建立され、毎年9月18日に慰霊祭を行い日中不再戦と両国友好の誓いを新たにしています。

近年は市外からの地下壕見学者もあり認識も高まって来てはいますが、地元これだけの現存する史跡がありながら市民の理解には今一つの感がぬぐえない状況がありました。

瑞浪市には、日本と朝鮮との文化交流活動に取り組んでいる瑞浪日朝友好協会（安藤秋義会長）があり、今回の全国交流集会の活動メニューである『瑞浪地下壕見学会』に対する協力要請がありました。

瑞浪市におけるフィールドワークの地元協力体制づくりの相談をするなかで、「実のある協力をするためには瑞浪市が主体的に今回の行事を受け止める必要がある。そのためには、全国で最も大きい地下壕の現存するこの地で展示会を開催する事に意義があるのではないか」との結論に至り、瑞浪日朝友好協会の役員会でその実施が決定した。

そこで早速フィールドワークの協力体制を作るとともに、岐阜で行われる展示会へ作業協力を含めて見学に訪れた。展示点数・展示スペース・展示内容とも瑞浪市の展示会予定場所にピッタリとの認識を深め準備に取りかかった。

瑞浪市内にある地下壕は明世地区・釜戸地区・

土岐地区にあるが、フィールドワークでは釜戸と明世を見学していただいた。宿泊研修会場・地下壕視察の案内は、瑞浪日朝友好協会役員で取り組みました。

展示会へ向けては、瑞浪日朝友好協会主催、瑞浪市労働組合協議会・瑞浪日中友好協会共催とし、日朝友好協会役員を中心に実行役員を編成し、渉外・資料・広報・視聴覚の各専門委員として位置付け、活動に入りました。

渉外委員は今回の展示会に対する市民の理解を深め運営資金を確保するため、市内各種団体へ協力を求めました。市議会・市労働組合協議会をはじめ市内の13団体の協賛をいただくとともに、市内の小中学校へ夏休み中に児童生徒並びに親達が会場を訪れてくれる様PRに回りました。

教育委員会の後援は取り付けられなかったものの各学校は協力的で、特に社会科の担任教諭には強い関心を示していただき、丁度この年の研究授業の発表テーマとして強制連行問題を取り上げたい旨申出があり教育の場での広がりが生まれました。

広報委員は、チラシを作成し新聞織り込みするとともに、新聞・テレビ等マスコミへ情報を流しPRに努めました。

資料委員は加藤明特別調査員を中心に市内の史跡の状況や過去の記録を整理し、PR用及び当日用の資料（B4 20P）500部を準備しました。



同時に開催した明世地下壕見学会

また、展示会場には、岐阜会場の展示資料のほか戦争及び強制連行並びに両国との交流に関する図書の展示販売コーナーを設けました。

視聴覚委員は、強制連行に係る記録番組の放映準備をするとともに、地下壕など史跡のスライドを作成し、戦時中に明世町の地下壕で強制労働に携わった梁弘淵氏の語り部コーナーを設定して当時の状況を語っていただくこととしました。

同時に瑞浪独自の地下壕見学会を企画し展示会二日目に取り組むこととしました。

また、会場への入り口には、着物とチマチョゴリの民族衣装の人形を配置し、民族音楽を流し交流の歴史のアクセントとしました。

展示会は、瑞浪市総合文化センターを会場として8月の17（土）18日（日）の両日としました。



盛況であった瑞浪の強制連行展示会場

◆盛況であった展示会当日

この展示会の目的は「強制から共生へ～真実に学び、知る」をテーマとし、“我が町”に残る戦争史跡の歴史を次の世代へ語り次ぐものでありました。

展示会の当日は天候にも恵まれ、わずか2日間の短い期間でありましたが終日盛況で、小学生から戦中戦後を生き抜いてきた年配の方々まで幅広い年代層にわたり、私たちの予想をはるかに越える700人の入場者がありました。

2日目には100部増刷した資料も底を突き、渡せるのはアンケート用紙のみとなってしまいましたが、お陰で自らの思いを書き綴った57通のアンケートをいただきました。

その一枚一枚には、「同じ日本人であることが恥ずかしい」10代女性、「過去に犯した罪の重さを感じる」30代女性、「こんな非道なことがあったのか」30代男性、「胸が痛む、二度と繰り返さない事を祈る」60代女性など、『あの戦争』のもう一つの側面、今まで知る機会のなかった加害の

歴史に驚き戸惑う市民の反応が記されていました。

40代の男性で「歴史教育は『歴史を学ぶ』のではなく『歴史に学ぶ』大切さを展示会を通じて知った」と書いております。また、今回の展示会を参観し、地下壕見学会にも参加した中国醴陵市出身の女性は「前事不忘・後事之師」と故事を書いていたが、歴史の事実を忘れずその教訓を戒めとしながら将来の国づくりに生かしたいとの意味とすれば、多くの参観者の感想を代表する一言といえるでしょう。

◆今後の活動へ向けて

新しい世代の21世紀は目前です。アジア近隣諸国をはじめとする諸外国との友好関係は、お互いの真の歴史・伝統・風俗・文化を学ぶところから始まり、その交流を通じて相互の理解を深め、生まれた信頼感のもとに築かれると思います。

私達の今後の活動も、より幅広い市民の理解と支援を得ながら、正確な史実の調査、『歴史に学ぶ』ための資料の作成・史跡の保存、学習会・展示会の開催、記念事業の企画など、次代につながる取り組みを展開して行きたいと思います。

文責 足立 亘

「強制から共生へ・歴史の真実を探る」

強制連行展ぎふ'96 なかつがわ展

中津川での展示会は中津川文化会館の大会議室でおこなわれました。

当初、予定していた市の中心部ではなく市役所の隣の会場で通りすがりの人が買い物ついでに立ち寄るというわけにはいきませんでした。その分、熱心に見学される人が多く説明にも熱が入りました。

期日は、9月20日～9月22日までの3日間で、岐阜で展示したパネルやジオラマのほかに、中津川市の阿木中学の生徒が作った陸軍工廠の地下壕の図面とか、蛭川村の恵比寿鉦山の資料など、この地方だけでも多くの強制連行があったことを示す資料が出されていました。

エピソード

この会場は、市役所の隣ということもあり、昼休みに市の職員が見学に来てくれたのだがなんと！一番に来てくれたのが、以前、外国人登録の問題で丁々発止をやった窓口の職員なのであった。窓口を訪れると、いろいろなことを教えたり、文書を手渡して来たのだが「在日朝鮮人が、なぜ、日本に住んでいるのか、もっと勉強しろ」と言ってきた効果が少しはあったのかな・・・と思いました。

最終日には、母親大会とタイアップして展示会の終わった後に、岐阜での全国交流集会にも来ていただいた沈美子ハルモニに来ていただいて話しを聞くことができました。チマ・チョゴリ姿のハルモニの証言は多くの人に感銘を与えました。





エピソード

これは、後日談なのだが沈ハルモニによれば、空港から1時間以上も車で走ったため、一体 どういう所へ連れて行かれるのか不安になったそうである。強制連行展で強制連行なんてシャレにもならないですね。

岐阜大会から生まれた、瑞浪市稲津小学校：社会科の授業実践

「第7回 朝鮮人・中国人強制労働を考える全国交流集会岐阜大会

第4分科会 交流会とフィールドワーク」に参加させていただいて

稲津小学校 遠藤 恵三

私と同僚の成瀬先生は、初めてこの集会に参加させていただきました。そのきっかけを与えてくださったのは、会を中心になって進めてくださった加藤先生です。加藤先生との出会いがなければ、この会への参加や、その後の私や子ども達との学習もなかったかもしれません。

本実践で大変お世話になった梁さんから手紙が届いた。梁さんは、授業の当日もわざわざ足を運んでくださった。そして、その時の思いを手紙に託してくださった。

…… 社会科の発表会でのこと、私は、子どもたちの問答を聞くうちなぜか目頭が熱くなりこみ上げてきました。悟られまい、素振りでしたが、……。子どもたちの眼は鋭いものがあります。あの涙は子どもたちの言う辛くて出た涙ではありません。表現しがたいものがあります。

子どもたちの、学ぶ姿勢が感動的でした。いろいろ言う人もいますが日本も捨てたものではない。――と私は思いました。……

この手紙を読んで、私は正直言って感動した。特に、「子どもたちの学ぶ姿が感動的でした。日本も捨てたものではない。」の言葉は心に響いた。優しい梁さんの人柄から出た言葉かもしれないが、それにしても、授業が梁さんの心にも届いたような気がした。

梁さんの気持ちに近づこう、梁さんさんから学ぼうと取り組んできた授業であった。梁さんの生き方に少しでも迫ろうという子どもたちの熱意・姿勢が伝わったのだと思う。この授業ではまだ梁さんの生き方には十分迫っていない。本当の梁さんの生き方は、それは言葉では言い尽くせない深さがあると思う。そんなところまではとうてい及ばないが、それでも、何とか近づこうという努力はできたのかなと思う。

この授業を通して出会った梁さんとのふれあいは、その後も続いている。子どもたちの梁さんへの手紙に対して、ご丁寧にも再度一人一人に返事の手紙をいただいた。また、子どもたちの中には、個人的に梁さんに手紙を出した子もいる。また、卒業文集に梁さんとの出会いを書いた子もいる。強制連行の勉強でお世話になった人という関係を越えそうな感じである。教材研究を通して知り合った人はその関係をこう表現してくださった。「よく、アジアの人との共生という言葉を書く。陳腐な言葉だと思っていたが、こういうことが大事ではないか。」

また、私自身、恥ずかしい話ではあるが、梁さんに出会うまでは、在日朝鮮人の人のおかれた立場や境遇、あるいは朝鮮や中国の日本による侵略の歴史については、知らないことが多かった。今、やっと興味が出て勉強を始めたところである。今後も長く勉強を続けていきたいと思っている。

6 年い組 社会科学習指導案

授業者 遠藤 恵三

(3) 人物ファイル

1、単元名 長く続いた戦争と人々の暮らし

2、指導観

(1) 児童観

(関心・意欲・態度) 見学、調べ、体験活動に興味関心を示す子が多い。

(思考・判断) 多面的に考えたり、自分の生活とつなげて考えたりできるようにしたい。

(観察・資料活用力) 実物や視覚に訴えるような資料の読みとりはできる。文章資料やグラフなどの読みとりもできるようにしたい。

(知識・理解) 理解力や知識の定着度には、かなり個人差がある。

「15年戦争」については、祖父母に話を聞いたり、本を読んだりして関心を持ちつつある。また、ほとんどの子が「戦争はひどい・こわい」などの思いを持っている。しかし、侵略戦争の事実や戦争の原因・経過などについては知らない子が多い。そこで、本教材を通して、具体的な事実をもとに自分の思いを重ねて自分なりの戦争に対する考えを持ってほしいと願っている。

(2) 教材観

日本人として「15年戦争」をとらえる時、「加害者」としての立場と、「被害者」としての立場の両面がある。

加害者としての日本は、一部の軍国主義者の自己利益の拡大という誤った国策のもとに、罪もないアジアの国々を侵略し人々を多大なる苦難に陥れた。南京大虐殺などの事実を出すまでもなく、アジアの国々の人・物・心すべてを踏みにじる非人間的行為であった。本小単元で扱う「朝鮮人・中国人の強制連行」もその侵略の一端である。

戸狩の地下壕建設の際に強制労働に従事した「梁弘潤さん」の生き方をもとに、日本の強制的な行為や考えを否定し、「強制から共生へ」という人間相互の協調の重要性に目を向けさせたい。

また一方で、戦争は、自国の国民にも多くの悲しみと苦しみを与えた。広島・長崎への原爆の投下、沖縄戦、本土への空襲など、その悲惨さは言語に尽くしがたい。また、国家総動員法をはじめとする国民総動員体制によって、国民は国家に統制管理され非民主的な生活を強いられることになった。

戦争の加害者、そして被害者としての日本国民であるが、そのいずれの立場からしても、戦争は二度と繰り返してはいけない。戦争の持つ人間の醜い行為考え（自己利益の優先、差別、統制など）を憎み、平和で民主的な社会を願っている。子ども達には、戦争の様々な事実を直視することから始まって、自分なりの戦争観を持ってほしいと願っている。

		感動やあこがれを生み出す生き方	
梁 弘潤さん68才		強制連行された同胞の朝鮮人と共に、戸狩の地下壕建設の強制労働に参加した。厳しい労働条件で過酷な労働を強制されたにもかかわらず、最後までがんばり通した。また、幾多の差別的な言動にも耐え、人としてのよりよい生き方をめざして自分を磨いている。	
たと いら 生え きさ きさ 方せ	同胞の朝鮮人が多数強制連行させられ、共に苦難に耐えてがんばる	厳しい労働条件で過酷な労働を強制されたが耐えてがんばり抜いた	差別的な言動に出会うが人としてのよりよい生き方を求めて自分を磨く。
迫生 るき 事方 実に	・朝鮮人、中国人の日本による強制連行	・12時間強制労働。 ・過酷な仕事 ・粗末な食事	・差別の事例 ・梁さんの人間観

(4) 研究テーマとの関わり

①一人一人の学びとりが強まる単元の構想

本単元では、次の人々を取り上げ、生き方に学びたいと考えている。まず、強制労働に従事してがんばり抜き幾多の差別にも耐えて自分を磨いている梁弘潤さん。そして、物資のない時代に自給自足をして、国のため、家族のために働き通した、稲津町の加納妙子さんである。

②一人一人の学びとりが深まる学習活動

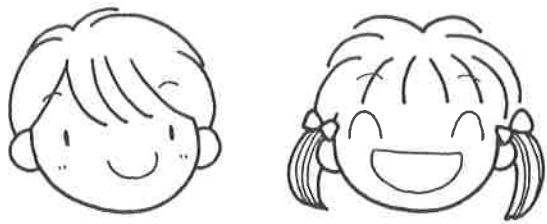
本単元では、次の場面で複線化を考えている。まず、単元の導入段階では、戦時中の物品の観察活動や、身近な人々への聞き調べ活動から生まれてきた子供達の問題を位置づけたい。また、強制連行の学習などでは、追究の視点の複線化を考えている。戦時中のくらしの学習では、問題の複線化を考えている。一人一人の子ども達の持つ問題や視点をできる限り保障する学習活動にしたい。

また、強制連行の学習では、今も残る戸狩の地下壕の見学学習を位置づける。戦時中のくらしの学習では、りょうぶご飯などの体験学習も位置づける。このような体験的な学習を通して子ども達の主体的な学びとりを期待したい。

③一人一人の学びとりを促す支援

強制連行の学習では、「戦争だから差別するのも仕方ない。」というA・Yの考えを認め寄り添いたい。そして、それに反対するであろうM・Nを意図的に位置づけて考えの深まりを期待したい。M・Nに対しては、人権の尊重という方向付けをしたい。そして、その考えを価値付け、広めていきたい。

参加者の声



10代の感想

せんそうでつれて行かれた人は、どれいのようにされるのがとてもかわいそうでした。もう、せんそうは、やらないでください。（男）

中国・朝鮮人の強制連行や過酷労働について、自分は多少知っているつもりでいた。でも、今回の『強制連行展ぎふ'96』を見て、岐阜でもそういったことが行われていたことを知り、自分の無知さを実感させられた。

知っているつもりだった自分が、無知であることを感じたということは、世間には知らない人が多くいることだろうと思う。私達は日本人として、過去に日本が行ってきた惨劇を受け止め、中国・朝鮮の人達にしかるべき態度で接しなくてはならない。個人としても、団体としても、彼らとうちとけ共生していくことが大切だと思う。（男）

日本人がすぐみにくいとわかった。

政経（授業科目）や修学旅行でいろいろと学んだけれど、まだまだ知らないことがたくさんあって驚いた。もっと日本にこの事実を広げて、これからの世の中をつくっていく子供達に、日本と韓国の問題を自覚させるべきだと思う。そして、日本は事実を曲げるのではなく、直視すべきだと思う。あと、税金を住専につかわずに、韓国の方につかうべきだと思う。（女）

日本は、朝鮮、中国にとってもわるいことをして、今からでもいいから、政治、国会で大きくとりあげる必要があると思った。朝鮮人、中国人がとってもかわいそう。（女）

住専にお金を使うよりも、朝鮮の人達に、お金でかたづけれる問題ではないけど、そっちの方に回した方がいいと思う。今、世界と仲良くしていこうと思っているようにみえるけど、今まで自分達の国がしてきた事に対して責任を持ち、それに対処していかなければ、日本はこのまま進んでいくことはできないと思う。

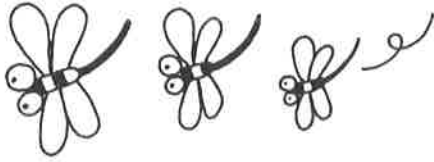
とぎれとぎれには知っていることがあったんだけど、それがいつの時代で、どんな場所で、どのようになされていたかがわかったので、よかった。今までの歴史をふりかえっても、何回も戦争があったので、皆これを心にとめていって欲しいです。（女）

今まで知らないことがいっぱいあった。

日本には、こんな過去があったんだと思った。過去を知ることは、とても大切なことだと思った。これからの社会をになう私たちが知るべきことでもあると思った。今日見たり聞いたりしたことは、決して忘れたくないと思った。（女）

日本軍の行ってきた事は本当にヒドイな、と率直に思いました。僕は、各務原緑苑に住んでいるのですが、小学生の頃、よく肝だめしに行った防空ごうらしきものが、強制連行された人たちによって作られていたのかと思うと、本当にツライです。今は、写真のようにふさがれてしまったけど、どうしてなのですか？（男）

《10代の感想 つづき》



岐阜でも強制連行があったことに驚いたし、そのことに対する岐阜教育委員会の態度に腹が立った。

なんで、日本は自分の罪を認めないのだろうか。やってしまったことは二度と消せないのだから。謝罪して、補償するしかつぐなえないではないか。そのつぐないすらできない私たちは、本当に愚かだ。国にまかせっきりにしてしまう私もまちがっている。自分から何かをしなあかん。(女)

このような事実があったことは知ってはいたが、詳しくは知らなかったので、改めてショックを受けた。今、自分にできることは少ないが、少しでも勉強することで、理解を深められたのは良かった。また、自分の家のすぐそばに、強制連行された方々が防空ごうがあったのには、おどろいた。どうもありがとうございました。(男)

私が今まで思っていた以上に、日本人は、すごいひどいことをやってきたということと、この岐阜県でも、多くの朝鮮人・中国人が殺されていたということを知って、とてもショックを受けた。大臣は謝罪をしているけれど、そんなことで許されるようなものではないと思います。(女)

今日見たものはほんの一部であろうけど、強く悔しさを感じた。私は女なので、特に従軍慰安婦のことは許せない。

女の人、きっとこのことに腹を立て、心からそのくやしさを知るだろうけど、今の日本のうそつき官僚にはわかるはずもないと、くやしく思う。(女)

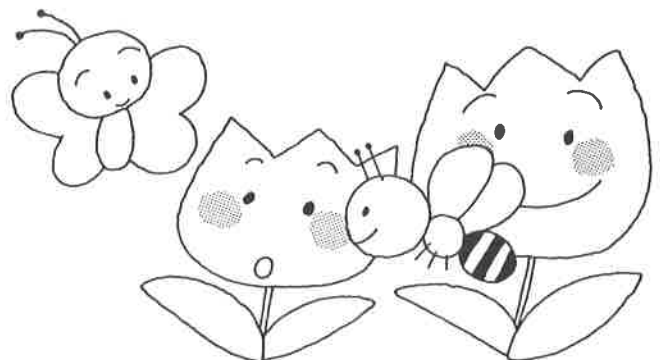
中国人・朝鮮人の方々が、戦時中ひどい待遇を受けていたことは、学校の歴史を学んでいく中で聞いたことがあったけれど、ここまでひどいものとは思っていなかった。中でも「従軍慰安婦」については、同じ女性としてとてもショックを受けた。

世界平和を日本が本当に望んでいるのなら、まずこの問題について、誠意を持って取り組んでいかなくてはならないと思う。(女)

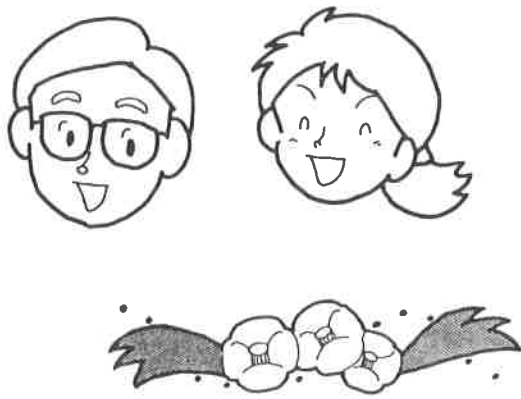
展示を見て、今抱いている思いは2つ。1つは、「今こうして感想を書いていることは、何と幸いで、有意義な時間だろう」。もう1つは、「自分は何と無知であったか。」ということだ。まさか、僕の大好きな鉄道の建設にも、多くの外国人の血が流されているとは思わなかった。タイメン鉄道のことは少し知っていたが、岐阜県内でも同じようなことが行われていたとは。

今回、鉄道に対しての見方が変わると同時に、更に強く、鉄道というものに興味を持った。これからは、常に歴史と共に列車に乗ろうと思う。

少し話がそれたが、やはり人間は”利用”されたらダメだ。強い権力に利用されないための勉強だと思ったり、人をむやみに利用しないための学習だと思ったり。現在のような平和を維持するために、またよりよい戦後補償のために、早く参政権が欲しい。(男)



20代の感想



解説が読み易く、写真も迫るものがあった。

日本が国策として朝鮮や中国の人々に行った行為は、時間が経ても、国として謝罪しなければならないことを改めて思う。特に、従軍慰安婦について、同性として、性的奴隷とされ戦後でも人並みの人生を送れなかった人の気持ちを思うと、怒りが沸いてきます。

私たち日本人は、過ちを認め、傷つけた人々や亡くなった人々に謝罪することから始めなければ、アジアの人々に受け入れられ、共に発展していくことはできないと思う。 (女)

卒業論文のアウトラインを見つけ出たくて強制連行展を見に来たのですが、少し形が見えてきた気がしました。ありがとうございます。また、枕木や電線、トロッコ用ボールなど、地下工場に残されていたものや、削岩機、「ツリタガネ」などの実際に使用されていた機械など、間近に見ることができ、大変よい機会をもてたと思います。

毎年毎年、この時期になると、今年は何をやるのかな？ と、楽しみにしています。来年も、是非このような展示をやっていただけるといいと思います。 (女)



日本の教科書問題とか強制連行の問題など、ニュースでは聞いたことがありましたが、実際にこんなにもひどく、歴史的事実も、日本の教科書で学んだ内容が自分の都合にいいようにかくされた部分があったのには、おどろきましたし、日本が犯してきた罪に対して、本当に申し訳ないと思いました。明治時代の日本にとっては、偉人と思われていた人達の考え方が、こんなにもおそろしい事実をつくってしまったことは、教訓にしないといけないなと思いました。 ()

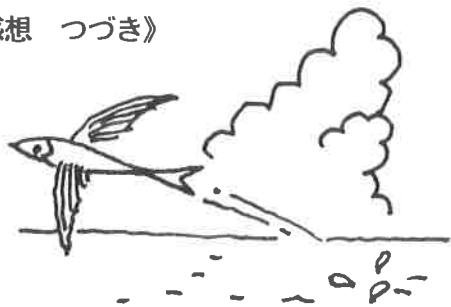
戦争というと、とにかくアメリカによっておとされた原爆のことしか思いつかない、一種被害者的な考え方をしがちですが、戦時中に日本軍や日本人が、他のアジアの国の人々に対してしてきた、とても人間とは思えぬ残酷な事も、学校では教えてもらえない分、知る努力をしなければと思っていました。今回は、そうしたことのほんの一部でも知ることのできたよい機会だったと思います。まさか、岐阜にも強制連行された人々の働かされたところがあるとは思わなかっただけに、大変驚きました。 (女)

これまで、自分は、南京大虐殺や731部隊の問題について、調べたりして取り組んでいましたが、強制連行に関しては聞いたことがある程度で、ほとんど関心がありませんでした。まして、大垣市や岐阜市に軍需施設や地下工場があったということは、ほとんど知りませんでした。

大変おはずかしいことですが、知らないことは罪であるとあらためて感じさせられました。やはり、この「強制連行展ぎふ'96」でこの事実を知った以上、これからは取り組んでいかなければならないと感じています。 (男)



《20代の感想 つづき》



このような展示会があると聞いて、びっくりしました。日本の政府のみの問題ではなく、日本人である私達一人一人も、正しい歴史を知り、これからの未来にむかって正しくいかなければいけないと思います。「私も体験者である」という男性の勇気を心から感動しました。多くの人がこの事実を知り、この日本が良い国となるよう願わざるをえません。このような運動が、大きく広がるよう祈っております。又、日本政府が受け入れるよう。

(女)

私の祖父は、後半生を、戦争の傷、身体と心の傷を抱えて死んでいった元兵士である。けれども、日本という国が、後代の我々も含めて、心から傷つかなければならなかった人々に、発しなればならないことばが、まだ残されているのだと思う。

(女)

私はおがせ町出身者で、薬王院の前を歩いて小学校に通っていました。そこに中国人の方が23人もねむっておられる事は、全く知りませんでした。早速行って、手を合わせてきたいと思います。

(女)

強制連行については、色々な所で見聞きしてはいましたが、これだけの資料をもとにした展示は初めて見ました。

松代大本営を以前に見学した事がありますが、その時にも感じましたが、現在にも中国・朝鮮人を差別する思想は少なからず残っており、その思想のつくられた背景に、強制連行などの事実があるのだと改めて認識しました。

(男)

直接当時の状況を語って下さった内容が、本当に深刻な気持ちにさせられました。日本人として、この罪深い事実からのがれるものならのがれたいと思う程の内容でした。やはり、心から悔い改めて責任をとらなければ、多くの朝鮮、韓国の方々の恨みが少しであったとしても、解放されないと思いました。

自分も戦争の時のことはあまり知りませんが、父親は大正生まれで戦争を体験しています。このような展示会をされた事を、本当に同じ日本人という立場ですが、感謝します。自分も申し訳のない我が身であるとさらに感じ、今日の内容を忘れず歩んで行きたいです。

(男)

たしかに私たちの年代は、教科書での戦争しか学んできませんでした。自分たちの祖父の方々の犯してきた事実は、私たちにも関係していると思いました。同じ日本人として、若者は直接的にはしていないが、自分もしている気持ちです。

戦後50年といわれ、その当時の方がどんどん少なくなる中、我々、今の20代、30代、40代の方は、もっと自分に責任感を持ってほしいと、私は思っています。それには、教育・学校の改善、今、親になっている30代、40代の意識改善、もしくは国会議員の意識の改善を、私は特に望んでいます。もっと大きなところ、例えば、学校などで親子で講演会などをして、もっと多くの人に知って欲しいと思いました。

(女)





今まで慰安婦の方の証言を聞くことはありましたが、今日初めて、日本人の兵隊であったというおじさんの証言を直接聞かせていただいて、内容としては本当につらいものがありました。でも、日本の犯してきたことに対する償いについての意識も、本当に、日本人は少ないので、こういった機会があったことをとても感謝しています。これから、多くの人に、事実として伝えていってほしいと思います。(女)

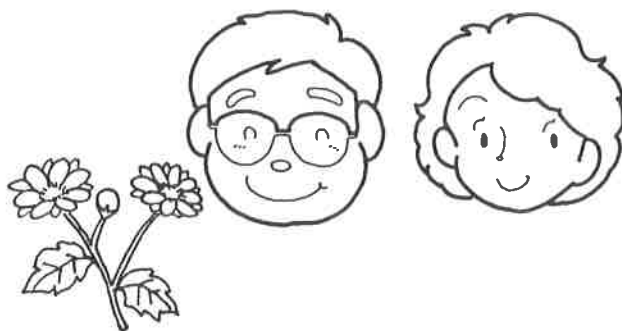
「強制連行」というと、岐阜県はあまり関係がない様に以前は思っていたのですが、少々無知すぎたなと思いました。私のまわりにも、未だに「朝鮮人は…」と差別する言葉を聞きますが、そのような人たちにこそ知ってもらいたいと思います。(こういう人は興味を示してくれないと思うが)(女)

大変すばらしい展示を見せていただきました。改めて、自分の無知を思い知らされました。

自分は、今学生であります。今まで学校教育を通じて学んできたこととの矛盾の大きさに、ただ驚くばかりです。大変ためになる、興味深い資料ばかりで、新たな事実を知るだけでなく、我々日本人の犯した罪の重さが、ひしひしと伝わってくるように思いました。我々日本人と言わなければならないと感じるほどに、単なる史実ではなく、もっと自分の身近な、実際に我々日本人の生み出した罪なんだと強く感じました。また、慰安婦の実態を訪ねてくださった方の勇氣には敬服します。

すばらしいお話をありがとうございました。これからも多くの人に、真実、事実を伝えていって下さい。(女)

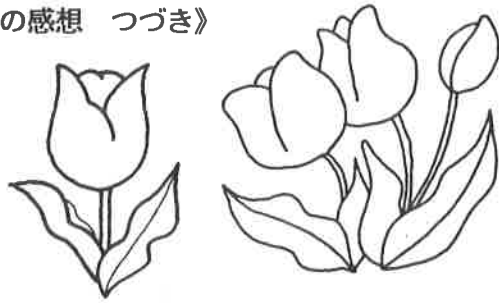
30代の感想



以前より、韓日の関係に関心をもっていました。日本が事実を認めない事、大変申しわけなく思います。また、多くの方の証言を得て事実をあきらかにすべきと思います。このような展示を、もっと多くの方が関心をもって見ていただきたく思います。現実には、もっとうったえたいものがあるのでしょうか、日本に対する考慮もあって、表現をおとなしくしているのかなと思いました。韓国の独立記念館もみたことがあります。本当に日本人が改めるべきであります。まだまだ多くの方(特に、年配)に朝鮮人に対する反感があり、歴史の教え方(教育)はこわいと感じます。(女)

先日、「ナムムの家」をみる機会がありました。最初は、「私は関係ない。どうして”日本人”とまとめてみるのか、朝鮮の人にひなんされなければいけないのか」と、どちらかという、おもしろくないと思っていましたが、終わってみると、私たちは、いけないこと、とりかえしのつかないことをしてしまったのだと思いなおしました。敗戦国で、被害者の様に思ってきたのを反省しました。もとは、日本の侵略から始まったことなのに…。ひとりひとりの人生をくるわすのは良くない。大きな力は、ひとりひとりが集まってできるもの。戦争は、みんなの力で、もう二度とくりかえしてはいけません。時の流れはみんなでつくれる、変えられると思う。平和な世界を、みんなでつくる意識がほしい。(女)

《30代の感想 つづき》



日帝の犠牲になった人々の生々しい声や生き様を知らされました。日本人は、自分たちの犯した大罪について何一つ認識も反省もしていません。

今もなお、差別に基づいた悪業を重ね続ける日本人は、本当に恥ずかしい人たちです。（女）

自分の住んでいるこんな身近な所に、多くの戦争の跡が残っている事に大きなショックを受けた。やっぱり日本人は、これらの事々を忘れながら、戦後50余年を突っ走って来たのだと実感する。掘り起こしの作業が一層進められる様、祈ります。（男）

会場での元軍人による証言は驚きました。書籍で得た知識とは迫力が違います。後の世代としてしっかり記憶し、伝えたいと考えます。

展示については、小中学生には少しむずかしくないでしょうか。漢字にふりがながあればよかったと思います。ありがとうございました。（男）

昨年「戦後50年」のメモリアル行事だけにとどまらず、毎年あるいは恒常的に、展示がおこなわれるべきと考えます。教育の場で現実的に教えていくことが無理な（現教育課程では）状況では、このような展示の場がさらにふえていくことを望みます。（男）

去年は中国との関連に胸を痛め、今年は朝鮮になにをしたか知りたくて来ました。秀吉に始まり、長年にわたった植民地支配の実態に、怒りがこみ上げてきます。（女）

私は戦後生まれで、50年前の状態は実感はありませんが、しかし当時の日本兵から受けた韓国人や中国人に対するくつじょくは、言葉では言いあらわせないほどのひどさだと思います。私達、日本人であり、日本で生まれ、日本で生活しているゆえに、この事実は今後あってはなりません。これからの日本の未来は、宗教心が必要です。

（男）

世界・アジアの中の日本。これ程までに経済発展した国が、戦後、特に韓国、中国を含めた国々に、満足する謝罪と補償をしていない。日本国民として、恥ずべき事と思う。この様な強制連行の事実すら知らない事に、私達の罪がある。（男）

日本の国内に、どうして朝鮮の人がこんなにたくさん住んでいるのか不思議でした。その理由の一部が、少しわかったような気がします。私たちの住んでいる場所のすぐ近くに、こういった場所がある事も知りませんでした。政府は、いろいろな補償を、きちんとしてほしいです。（女）

日本の国として犯してきた罪、親の世代で犯してきた罪であったとしても、我々の世代で清算し後の世には残したくはありません。消せるものではないので、事実をきちんと受け止め、後の世にも正しく伝えないといけないと思います。（男）



40代の感想



日本人の罪の大きさに、改めて犠牲になられた方々に申し訳ないと思います。今ある宗派を通して供養させて頂いておりますが、償いきれない罪の大きさをいっそう感じるものであります。強制連行地を訪れ、花をたむけたい思いです。(女)

松代の話はよくきいたのですが、岐阜にもこんなにあることを知って、びっくりしました。以前、平和講座で加藤氏のお話を伺う機会があって、化石博物館あたりの話ときき、おどろきました。見せて頂き、ありがとうございました。

報道をみていると、この事実とのギャップ(政府の対応など)を感じます。慰安婦の民間基金も言語道断です。きちんと事実をみつめて、そこから考えること、一步をふみ出していくことが大事と考えます。(女)

私は、引揚者の子として生まれ、今、私の孫に(リュウ)という名がつけました。私の父と母は、そのリュウという名を聞いて、おどろいていました。私の父母は、中国華北に住んでいたことがあり、リュウという名に、何か思い出がある様です。私の父は衛生兵でした。ずっと、私は、そのことを考えつづけています。父は、1918生まれです。父がそのことを、戦争をどう考えているのか、私は未だにわからない。(男)

私の住んでいる広島県でも、強制連行で作ったダムや発電所があります。日本の近代は、朝鮮・中国の人々をふみにじることによって成り立ったのだと、あらためて考えさせられました。アジアの人々との共生と、口では言うことができますが、国家として謝罪と補償なしでは本当に可能なのか、自問しています。(男)

日本人の行為ー日本政府の侵略がこんなにひどいとは…絶句です。少女時代、「アンネの日記」でナチスの行為のひどさに怒りを持ちましたが、それ以上のことがわが国で行われていたとは…。歴史教育の欠落は、バカな大人を大量生産してしまったと思う。今後、日本人として生きる原点は、この償いをするにあると思う。(女)

私は、熊野市(木本)のとなりの町の出身です。こんな事実があったこと、今回の連行展で始めて知りました。

戦争は、未だに地球からなくなっていはいません。人はまだまだ進化の途上にあるのでしょうか。ひとりひとりの心の中に、何を培っていったらよいのかという問題提議をいただきました。(女)

パネルや模型などの展示品がよく整えられ、とてもいいと思います。会場に居て、中国での日本軍の罪行を恥をしのんで語られた元兵士の方に、感謝したい。語り続けること、今できることをすることが、次とつながると思います。(男)

身近な岐阜でも強制連行があったとは…。歴史は地域からのほりおこしが大切だと言いますが、そのとおりですね。国の責任を認めない内閣はひどいですね。一昨年、韓国歴史の旅へ行ってきましたので、日本に対する韓国の感情がよく伝わってきました。(男)



初心者への入門的な導入から、独自の地域の実情に則しての問題提議（投げかけ、問いかけ）を盛り沢山に、多彩に構成していらっしゃいますね。とくに、立体模型などは、視覚に訴えるもので、かなりの月日をかけたものと拝察しました。収容された人々の宿舎の様子も、同じようなことを感じます。3本で組んだ中央の物（私などは、初め、田舎で使ってた井戸を連想したのですが）などのように、目と音に訴える歴史材料をもっと豊富に盛り込んで、より広いスペースで展示されると、一層効果的だと思います。

強制連行された人たちの宿舎の縮小復元図は、改めて、この国の働く人への心ない仕打ちと、お粗末な待遇を思い起こさせますね。屋根裏部屋みたいで、ケチれる物は全てケチって作った感じで、よく建てられたものです。小さい子供たちにも分かり易い設定と、提示だと思います。

強制連行の地である私も、常磐炭田の出身者だから、大都市とは違い、社会の動き方の遅い、緩やかな地方都市での取り組みのしんどさを、少しは身にしみて分かっているつもりです。制約の多いであろう中で、取り組みを積み重ねて来られた地道なご苦勞を思いました。（女）

知らないということは罪だと思う。過去のことだと加害の側は思いたいのだが、被害の側はそれですまされない問題だと思う。時代を超えて、戦争の事実を明らかにする過程が、現在の政治的・経済的悪化の方向にハドメをかけることにつながるのではないだろうか。

ビデオを観た人が、沈さんの話を聞かれた婦人が、涙を流しておられました。過去にふたをしてきた日本人。また同じ道を歩いているように思えてなりません。（男）

細かく整理されて、また実物資料等集められて、具体的に分かりやすい展示になったと思います。でも、昨年とちがい、若い人があまり見に来てないようなので、できれば、もっと多数の若い人々に見てもらいたいし、ここだけでない展示会も企画されている様なので、今後も多くの人々に見てもらえる機会をつくってほしいと思いました。

昨年、集会に参加して、朝鮮の女の人の話とか聞きましたが、やはり、日本の政府の対応の仕方はまちがっていると思います。何とか多くの人々の思いとなり、早めに解決されることを望んでいます。（男）

重いテーマで、読みながら胸がつまりそうでした。私たちは、過去に目をそむけることなく、真実を知ることが本当に大切だと痛感しました。

ただ、同じことが、形を変えて現在も起きているのではないかと感じています。このような日本で、どう生きていったらいいのか、答えはまだ出ません。（女）

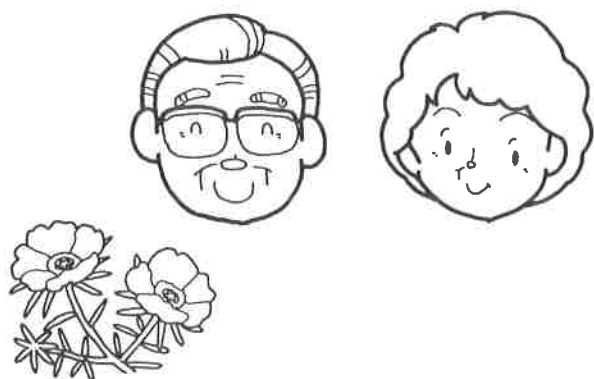
岐阜県における強制連行された人と労働現場の実態の把握等、地道に調べていらっしゃることに敬服しました。どこか遠くの話でなく、私たちの足下で起きたでき事であることを感じる事ができました。

また、展示だけでなく、会場で説明（証言）して下さったりなど、目だけでは知りえないことも知ることができました。心からお礼を申し上げたく思います。貴重な証言を大切に、心に刻んでいきたいと思います。

学ぶ機会をありがとうございました。今後ともご活躍下さいますよう。（女）



50代の感想



国家によってかくされた事実を、地元の若い方たちが、地道にほりおこす努力をつづけていられること、胸打たれます。

情報管理の現社会、庶民に必要な情報は、庶民自らの努力による他手に入らないことを、改めて教えられました。（男）

戦争中、中国人や朝鮮人に対して日本は何を行っていたのか、今まであまり知られていない事実がよくわかるようにパネル展示されており、主催者の方々の労苦に感謝したい。

なお、「全国交流集会」においても、従軍慰安婦問題も取り上げられていた。強制労働や慰安婦の問題は、戦争において必ず発生しているものである。現在のボスニア・ヘルツェゴビナの地においても生じたことである。こうしたことの再発を阻止するために、日本の侵略戦争時に何が行われたかを、私達はもっと事実を知っておく必要があると思った。このような蛮行を二度とくり返すことのないように。（男）

強制連行のビデオコーナーで見た現実には、当時4才ぐらいだったが、今これをみてあまりにも悲惨な出来事に涙するものです。人間の行為がここまで出来るのかとみぶるいするものです。平和とはなんとすばらしいことでしょう。かならず政府は、つぐなわねばならぬと思います。（女）

実行委員会の方々のご苦労は、大変だったと思います。まずは、お礼申し上げます。ありがとうございました。

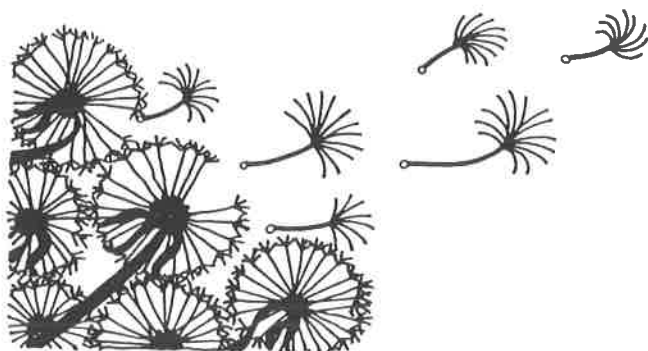
小学校の頃、私は、岐阜県に疎開児童として住んでいた事があります。そこに、こんな歴史があった事を初めて知りました。その後も、これらの事実について知る機会もありませんでした。今あらためて過去の歴史を知る事によって、更なる関心を持ち続けたいと考えています。友人、知人に、広くこの展示会の話を伝えたいと思います。

（女）

若い世代の人たちは、殆ど知りません。言葉を聞いても、その実態を想像することもできません。こういった催しは、もっとあっていい大事なことです。学校でも、もっと授業の中で教えていく必要があると思います。

私も、朝鮮・韓国の友人、知人が多くいます。接し、話し、食事をしてみると、こういった方々を苦しめてきたことを、本当に理屈なしでおわびしたくなります。教育教材として、安く、個人が買えるものにしたいと思っています。（男）

「蛍の光」に3、4番があるのを、はじめて知りました。説明を読んで、とてもびっくりしました。いいかげんな事ばかり言っている政治家達は、この事実をよく知ってほしい。もっともっと多くの人が見に来て、事実を知ってほしい。（女）



60代の感想

50年以上もたってからこのようなことが発表できる日本の体質は、本当に情けないと思う。国会議員のなかには、いまだに正当化する発言をするものがあるが、このような人を国会に送り出す国民がいることがなさけない。戦争体験者は未だに慰安婦は必要だというものが多く、私はいつも口論している。このような連中が買春旅行をやっているのだと思う。(男)

人間を企業・会社のために、そのために女性・男性、朝鮮人・中国人。ただ食べる物、着る物、はく物も少なく、重労働に日々過ごした人達。どれほど、毎日が「じごく」であったろう。にげ出したかったろう。それも強せいで。それにがまんして、何ごとも成した人達、ごくろう様、おつかれ様でした。

“見る”ということは知るということ。また、実際の証人から“聞く”ことができたことは、入場以前と以後とで、認識に大きな違いがあることがわかった。若い人達が来ているのをみて、このように真実が伝えられていくのが頼もしいと思われた。(女)

昭和20年8月15日。暑い暑い日でした。私は、当時中学4年生でした。本巣郡北方町で、学徒動員生として、航空機の発動機の修理に従事していました。あれから51年。昨今の頃は「戦後50年」で、多くの新聞、テレビ等が大々的に報道しておりましたが、もう今では…。

戦争の悲惨さ、残酷さ。終生忘れることができません。決して風化させてはならぬと思います。このような意義ある展示会に、高校生、中学生などもっと若い人々に見てもらい、平和の尊さ、ありがたさを学んでほしい。(男)

70代の感想



軍閥と強大資本、政府による侵略戦争を記録し、事実を語る報道・出版がすくなくなっている今日、戦争下を体験している我々世代は、証人として、若者に幼い児童らに、今のうちに語り置かねば。これを誰か語る日があるだろう。政府官僚・財閥の隠蔽によって、風化が巧妙に進められていることをひしひしと思う。いつの時代にも、犠牲は我々民衆であることを忘れてはならない。(男)

戦時中のことが思い出されて来ました。朝鮮・中国人の強制連行・強制労働の写真を見て、気の毒とは思いますが。しかし、私達もこれ以上に強制で軍隊に、又工場にて働かされた。でも、これは国のためだと喜んで参加をした。(男)

“敗戦”を“終戦”ということばでごまかし、また、“一億総懺悔”と口先だけ、ことばだけでごまかしてきた我が国施政者のことばは、許されるものではありません。”事実を大ぜいの人に知らせる”ことは、大変なことだと思います。大臣、元大臣、国会議員の方々の中に、アジアの人達にまことに失礼な”はじ”を知らない発言があとをたちません。こうした人たちに、この催しをぜひしらせたいと思います。(男)

どこの”事業所の報告文書”にも”日給五円”とありますが、うちあわせて大うそをかいてあります。昭和16年の私の俸給は月額四十七円で、17年海軍に入ったときは四等水兵で日額二十銭(月額六円二十銭)。20年10月復員したときは月額六十二円でした。これは一つの例ですが、“ウソ”でかためた”事業所報告”には、あきれてことばもありません。(男)

賛 同 団 体

藻岩犠牲者の碑を維持する会	札幌市南区北ノ沢9丁目15-22
神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会	東京都稲城市東長沼1086 稲城教会内
高麗博物館をつくる会	東京都稲城市東長沼1086 稲城教会内
在日韓国民民主女性会	東京都千代田区神田町小川町3-6-8 伸幸ビル
外管法入管法と民族差別を撃つ全国研究集会実行委員会	東京都江戸川区篠崎1-3-9 伊部方
在日朝鮮人運動史研究会・関東支部	千葉県柏市あけぼの4-10-7 長沢秀方
「もうひとつの歴史館・松代」建設実行委員会	千葉県市川市南八幡5-11-3-301
広島の強制連行を調査する会	広島市安佐北区安佐町飯室1445-1 山田方
むくげの会	兵庫県神戸市灘区山田町3丁目1-1
財団法人神戸学生センター	兵庫県神戸市灘区山田町3丁目1-1
兵庫朝鮮関係研究所	兵庫県尼崎市次尾1-16-5 徐方
大阪府朝鮮人強制連行真相調査団	大阪府吹田市垂水町1-30-16 塚崎昌之方
「タチソ戦跡」保存の会	大阪府高槻市塚脇1-15-7 太田修方
静岡県の朝鮮人強制連行を記録する会	静岡県浜松市薬師寺308-25
NO, AWACSの会	静岡県浜松市天王町803
民衆運動研究所	長野市中御所2-20-2
「闇からの証言」写真展実行委員会	長野県松本市桐3-3-30 竹内忍方
松本里山辺朝鮮人中国人強制労働調査団	長野県松本市蟻ヶ崎6-8-1 豆工房内小島気付
篠ノ井旭高校郷土研究会	長野市篠ノ井御幣川1045
半田空襲と戦争を記録する会	愛知県半田市花園町3-12-12 佐藤方
旧日本軍による性的被害女性を支える会	名古屋市中区新栄町2-3 名古屋YMC
愛知県朝鮮人強制連行歴史調査団	名古屋市千種区希望が丘1-5-17 高橋方
東海民衆センター	名古屋市金山5-2-30 レックス604
ピットムの会	

< 岐阜県の賛同団体 > (順 不 同)

岐阜ピースサイクルネットワーク 中国帰還者連絡会 岐阜県人権擁護協力機構
 自治労岐阜県本部 朝鮮総連岐阜県本部 日朝国交正常化早期実現岐阜県100人委員会
 韓国民団岐阜県本部 岐阜県労働組合総連合 岐阜大学生協労働組合 全電通岐阜支部
 岐阜公立学校教職員組合 国際ソロプチミスト岐阜 岐阜県教職員組合本巣郡協議会
 岐阜市職員労働組合連合会 岐阜大学医学部学生自治会 東濃地区労働組合協議会
 岐阜大学教職員組合 岐阜教育映画センター 中国学術交流センター ハナの会
 カトリック正義と平和委員会 ぎふ・2001年の会

第7回朝鮮人・中国人 強制連行

強制労働を考える全国交流集会

会 計 報 告 (1996年12月30日現在)

収 入 の 部	金 額	支 出 の 部	金 額
借 入 金	200,000	パネル製作 材料費	176,409
賛同費・及参加費	1,655,000	用紙及びワープロ用リボンなど	44,245
カ ン パ	146,000	印刷費(ポスター・ガイドブックなど)	607,352
フィールドワーク 参加費	64,000	ビデオテープ・写真代	32,962
第6回全国交流集会 資料代	75,000	通 信 費	168,080
第7回全国交流集会 資料代	22,810	コピー代(華僑総会)	18,670
映画協力券	14,000	中国証言 ビデオガイドブック	14,200
地下壕 ガイドブック	145,300	映画 レンタル料	124,445
中国証言 ガイドブック	2,400	フィールドワーク バス料金	61,800
パンフレット委託収入	5,800	フィールドワーク 保険	1,200
50年展さふ記録集・委託収入	7,200	講師交通費	290,000
書籍 委託収入	72,516	講師謝礼	5,000
その他 冊子売上げ金	17,200	添乗員謝礼	5,000
		会場使用料	374,830
		伊藤孝司写真借用料及運賃	6,600
		松代 拝借資料運搬費	21,560
		輸 送 料	10,680
		振込料金	7,417
		借入金	200,000
		雑費・その他	10,578
合 計	2,427,596	合 計	2,181,028

総 収 入

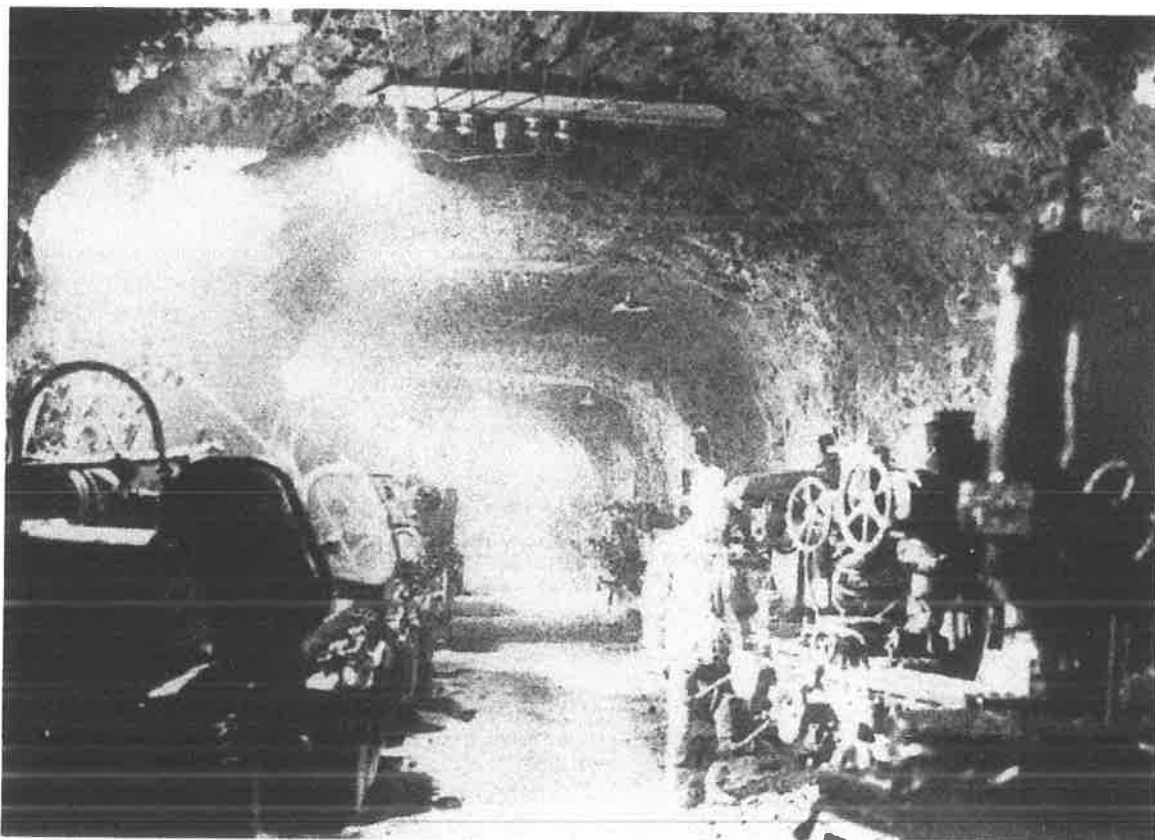
2,427,596円

総 支 出

2,181,028円

差引残余金 246,568円

会 計 林 公 子



可児市久々利：地下工場 （アメリカ軍戦略爆撃調査団撮影）

第7回 朝鮮人・中国人の強制連行・強制労働を考える全国交流集会 報告集

発行日	1997年6月27日
編集・発行	第7回 朝鮮人・中国人の強制連行・強制労働を考える 全国交流集会 岐阜実行委員会
連絡先	〒508 中津川市駒場1620-93 下嵐 義輔
定価	☎0573-66-7434 FAX0573-66-7434 1000円
